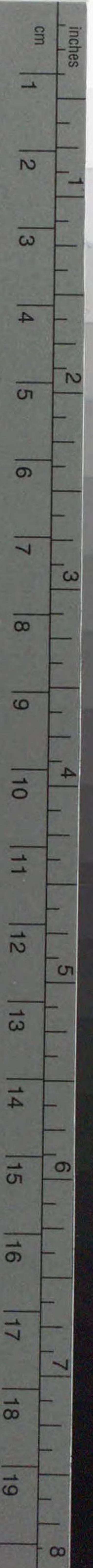


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

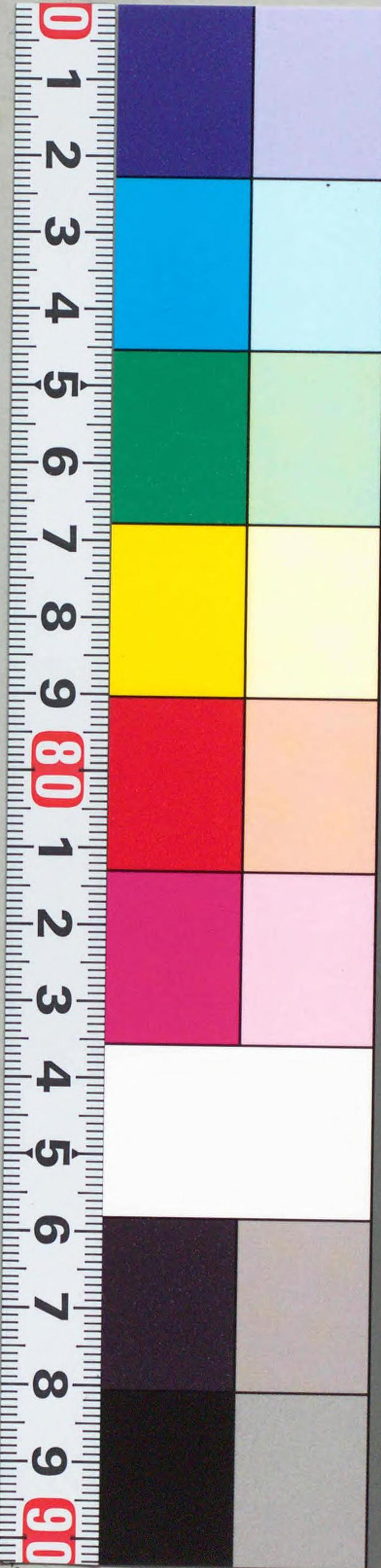
A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

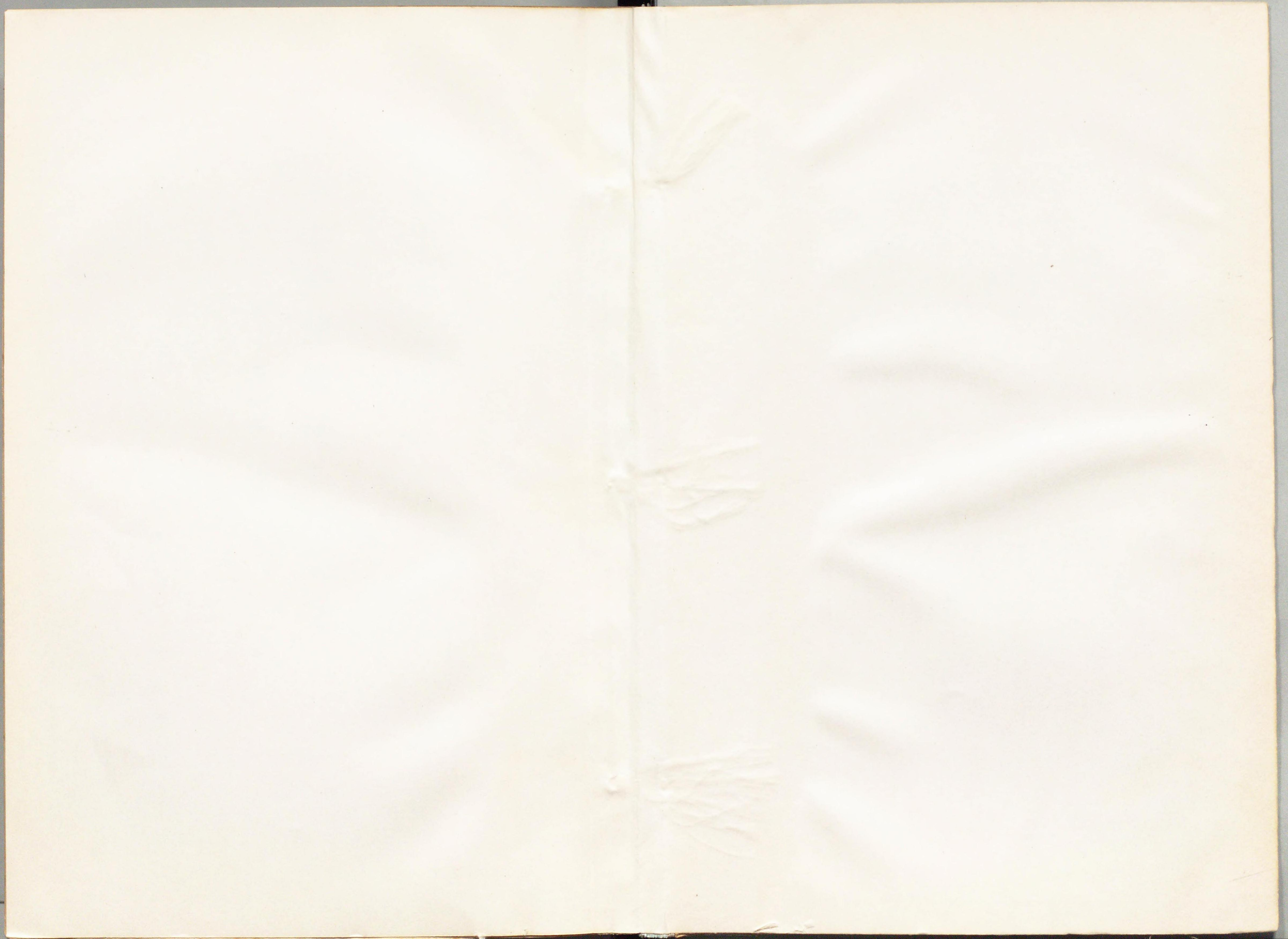


C631

2



8 1 W 4 8 4 3 2



池β-42



大正十年六月
(條約改正調査報告
第十七號)

中南米諸國移植民法規

一、「パラグアイ」共和國移民法

外務省臨時調查部

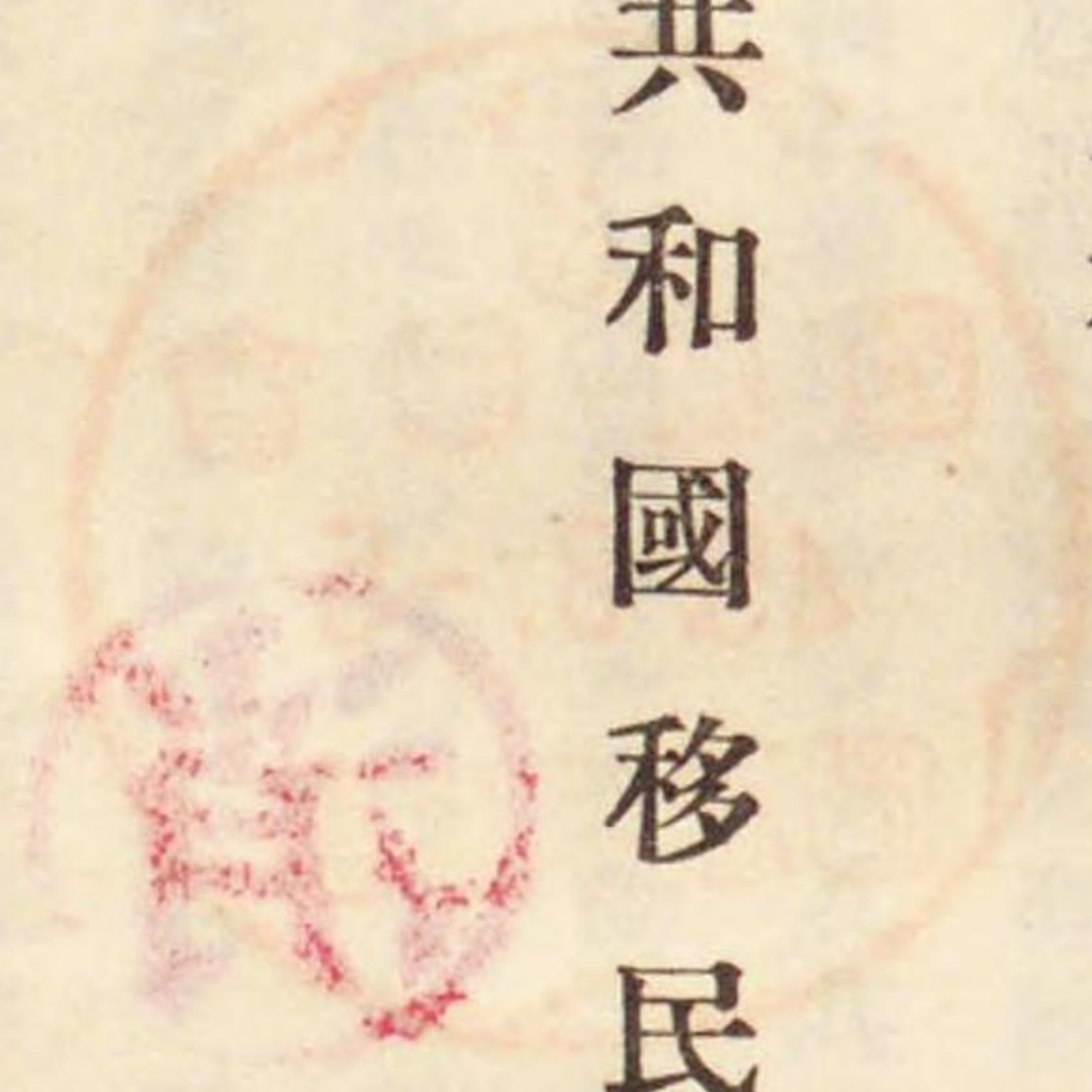
貴族院
函
号
册

貴族院
函
号
冊

千九百二十三年九月三十日制定

同 年十月六日公布

「パラグアイ」共和國移民法



038888

8148888

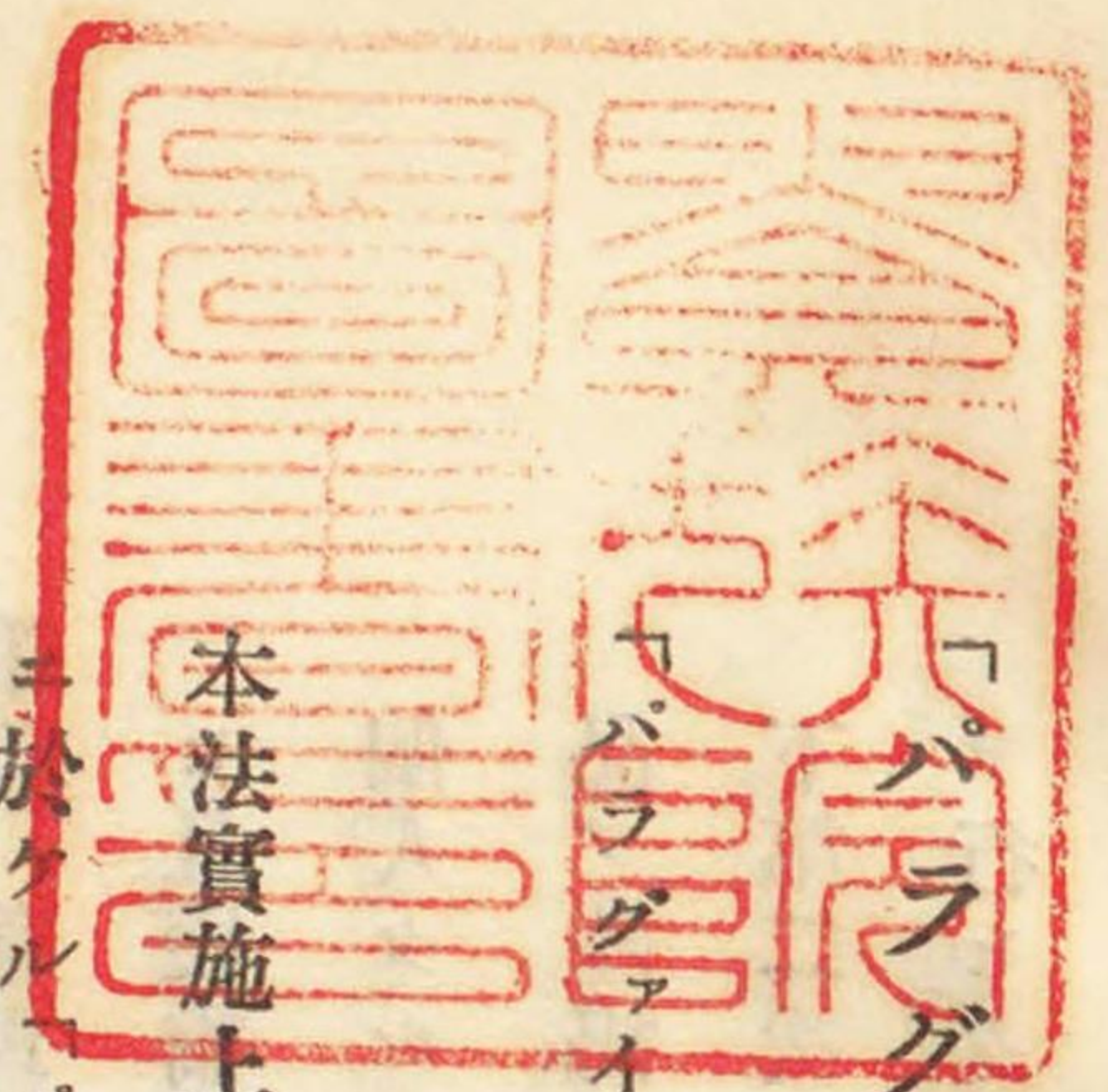
C631
2

中華民國二十六年九月三十日
中華民國二十六年九月三十日



~~836339~~

81W48432



「パラグアイ」共和國移民法

第一條

本法實施上移民ト看做サルル者ハ國內ニ定着スル目的ヲ以テ初メテ當共和國內ニ到着シ而シテ外國ニ於ケル「パラグアイ」國領事官若ハ移民事務官ノ發給シタル證明書並適法ニ證明ヲ經タル有效ナル免狀若ハ修業證書ヲ以テ本人ノ操行善良ナルコト及其ノ農業者、工業者、專門家、機械工、教師、電氣工若ハ各部門ノ技師タルノ資格ヲ立證スル勞働ニ堪ユル五十歲未滿ノ總テノ外國人トス尙上記ノ證明書ハ移民ノ居住セル國ニ駐在セル「パラグアイ」國ノ領事官若ハ移民事務官カ認證シタル本人住處地ノ官憲ノ證明書ニ依リ資格ヲ有スル隣人二名ノ證言ニ基キテ之ヲ發給スルモノトス

此等ノ官吏ハ何等ノ手数料ヲ徵收セスシテ前記證明書ヲ發給若ハ證明スヘク若之ニ違背スルトキハ免官セララルヘシ

第二條

行政部ハ國情ニ最適合スト認ムルカ若ハ最勤勉ナリト信スル移民階級ノ誘致ヲ特ニ獎勵シ且惡質、

無益若ハ有害ナル移民ノ流入ヲ防ク爲適宜ノ措置ヲ執ル權能ヲ有ス
尙行政部ハ移民ニ對スル乘船券ノ發給ヲ一時的ニ制限若ハ停止スルコトヲ得但シ此ノ停止ハ閣議ニ
於テ意見ヲ徵シタル後必要ナル豫告ヲ爲スニアラサレハ之ヲ命スルコトヲ得ス

第三條

自費ニテ來着スル總テノ移民ハ單獨者ニアリテハ少クモ金貨五十「ペソ」又戶主ニアリテハ家族中ノ
成年者一名ニ付金貨三十「ペソ」宛ノ資本金ヲ現金ニテ所持スルトキハ左記ノ特典ヲ享受ス

第一 「ラ・プラタ」河又ハ「バラナト」河ノ一港ヨリ乘船シ來ル爲二等無賃乘船券ノ發給ヲ受ク但シ

右乘船券ハ乘船地駐在「バラグアイ」國移民事務官若ハ領事官又ハ移民總務局ニ之ヲ請求スヘシ

第二 移民ノ上陸及其ノ手荷物、什器其ノ他攜帶スル勞働要具ノ陸揚ハ移民局ノ費用ヲ以テ之ヲ行

ヒ且棧橋及起重機ヲ無料ニテ使用スルコトヲ得

個人タルト私設會社タルトヲ問ハス豫メ移民局ノ許可ナクシテ移民ノ上陸及其ノ手荷物若ハ攜帶

品ノ陸揚ニ從事スルコトヲ得ス右規定ノ違背者ハ第一次ニ於テハ移民一名ニ付金貨五十「ペソ」以

下第二次ニ在リテハ其ノ倍額第三次以後逐次倍加スル罰金ヲ課セラルヘク尙不正ナル上陸及陸揚

ヲ行ヒタル船舶ノ體及船具ハ該罰金納付ノ擔保タルヘキモノトス

第三 移民ハ上陸後八日間ハ國費ヲ以テ宿泊並食事ヲ給與セラレ該期間中又ハ旅行中病氣ニ罹リタ

ルトキハ其ノ全瘉ニ至ル迄治療セラル、右八日ノ期間經過後各移民ハ食費及宿泊費トシテ十歲以

上一日金貨四十「セント・ボ」、同年齡以下二十「セント・ボ」、若ハ當日ノ公定相場ニ依リ通貨ニ換

算シタル相當額ヲ支拂フヘシ但シ官設植民地ニ入ラシムル爲國家カ直接ニ契約セル移民ハ此ノ限

ニ非サルモノトシ此等移民ハ其ノ目的地ニ到達スル迄宿泊及食事ヲ受クル權利ヲ有ス

第四 裝身具及被服、日用家具及什器、種子、一般機械類及工業若ハ農業用機具、道具類、其ノ從事ス

ヘキ技術若ハ職業上ノ必需品、純良種ノ動物及成年男子一名毎ニ獵銃一挺宛ハ此等物品カ自家用

ニシテ且各自ノ所有品タル限リハ行政部ノ定ムル價格ニ達スル迄無稅搬入ヲ許可ス

第五 移民ハ其ノ住居ヲ定メント欲スル共和國內ノ一地點迄國費ヲ以テ輸送セラレ但シ該地點カ鐵

道沿線若ハ河岸ニ位スルカ又ハ輸送ニ便利ナル場合ニ限ル

第六 移民ハ其ノ必要トスル報道並雇傭若ハ工作ニ關シ締結セント欲スル契約ニ關シテ無料ニテ移

民局若ハ其ノ吏員ノ援助ヲ受クルモノトス

第四條

前條ニ規定セル特典ハ第六ヲ除クトキハ五十歲以上ノ者、病身者及切斷若ハ不具ノ爲勞働不可能ナ

ル者ト雖本法ノ趣旨ニ依リテ移民ト看做サルルコトヲ得ヘキ合格者少クトモ二名ヲ有スル家族ノ一部ヲ構成セルカ若ハ既ニ國內ニ定住シタルカ若ハ其ノ活計ニ十分ナル資産ヲ有シ而シテ如何ナル場合ニ於テモ自家ノ費用ニヨリ生活センカ爲渡來セルコトヲ證示スル限リハ之ヲ享受スヘシ

第五條

前條ニ記載セル特典ハ移民ノ妻及未成年ノ子ニモ之ヲ適用スヘク而シテ若シ其ノ子カ成年者ナルトキハ其ノ技能アルコト及操行善良ナルコトヲ立證スルヲ要ス

第六條

私設會社トノ契約ニ依リ渡來スル總テノ移民若ハ既ニ國內ニ定住セル家族カ呼寄せタル移民ハ同シク第三條第一及第四ニ規定セル特典ヲ享受スルコトヲ得ヘク此等ノ場合ニハ同條規定ノ最少限度ノ資本金ハ必シモ之ヲ要セサルモノトス

第七條

移民ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ共和國ノ領域ヲ通過シテ他國ニ赴ク爲前顯規定ノ特典ヲ利用スルコトヲ得ス之ニ違背スルトキハ旅費、上陸費、宿泊料、食費等ノ支辨ニヨリ生シタル一切ノ費用ヲ辨償セシメラルヘク尙移民總務局ハ必要ニ應シ自ラ此等違背者ノ旅行ヲ差止ムルコトヲ得

之カ爲共和國各港務長官ハ自ラ若ハ移民事務局ノ請求ニ依リ一時船舶ノ出港ヲ差止メ本條ノ規定ヲ履行スヘシ

第八條

第三條第一ニ規定セル移民ノ輸送ハ公開入札ヲ基礎トシ且移民總務局ノ設定セル條件及諸規則ノ定ムルトコロニ從ヒ毎年汽船會社トノ間ニ之ヲ契約スヘシ
入札ノ結果ハ行政部ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス而シテ船體、船具及船内用家具ハ移民輸送契約ニ規定セラルヘキ罰金納付ノ爲之ヲ擔保トス

第九條

移民輸送船船長ハ移民ニ屬スル手荷物及諸道具ヲ船艙若ハ安全ナル場所ニ保管スルコトニ注意スヘク着港ノ際移民ト共ニ之ヲ當該官憲ニ引渡スヘキモノトス之ニ違背スルトキハ該汽船會社若ハ代理店ハ其ノ目的地ニ到着セサル搭載移民ノ運賃ニ對スル請求權ヲ失フモノトス

第十條

第六條規定事項ノ利害關係者ハ夫々移民總務局ニ對シ願書正副二通ヲ提出スヘシ該願書ニハ第一條ニ規定セル要件ノ外尙其ノ誘致セントスル人員若ハ家族數、各員ノ年齢、職業及國籍ヲ明記シ且右

申告ノ真正ナルコト及前記諸要件ノ忠實ナル遵守ニ對シ責任ヲ負フヘキ旨ヲ言明スヘシ之カ爲申請人ハ其ノ請求セル旅費金額ニ對シ移民總務局カ妥當ト認ムル保證金ヲ提供スヘク而シテ此ノ保證金ハ其ノ要求セル旅費ヲ正當ニ使用セサルカ到着セル者ヲ引受ケサルカ又ハ渡來者カ本法ノ規定ニ依リ移民ト認メラレサルカ又ハ移民到着ノ際之カ記入ヲ行フ爲移民カ移民總務局若ハ移民事務局ニ出頭セサリシ場合ニ之ヲ處分スルモノトス

第十一條

前條ニ規定セル願書ノ副本ハ當該領事官若ハ移民事務局ニ送付シ該領事官若ハ移民事務局ハ其ノ内容ヲ利害關係者ニ通達シ其ノ同意ヲ得タルトキハ之ニ署名セシムヘク該副本ハ右ノ手續完了後之ヲ移民總務局ニ返付スヘシ

第十二條

本法ノ施行上共和國領事官ハ之ヲ外國ニ於ケル諜報並宣傳取扱事務官ト看做スヘク且行政部ハ必要ト認ムル場合ニハ特別事務官ヲ任命スルコトヲ得

第十三條

領事官及事務官ハ移民總務局ト協力シテ「バラグアイ」國ニ有利ナル宣傳ニ努ムヘシ
各階級ノ領事官又ハ若シ特別事務官ヲ置ケル場合ニ該事務官ハ本法ノ要件並規定ヲ嚴守シ自ラ「プエノス・アイレス」及「モンテヴィデオ」駐在「バラグアイ」國總領事ニ對シ移民ノ爲河川通航乗船券發行ノ指圖ヲナスコトヲ得

此ノ場合並主務省ニ於テ乗船券發行ノ指圖ヲ受領スル場合ニハ利害關係者カ本人ニ相違ナキ證示ヲナサシムルコトヲ要シ且直ニ移民總務局ニ對シ乗船移民ノ員數及其ノ輸送船ニ關スル相當ナル通告ヲナシ尙其ノ發給ニ係ル乗船券ノ明細書ヲ毎月同局ニ送付スヘシ

主務省ヨリ發スル移民乗船券發行ノ指圖ハ之ヲ受領シタル後三十日以内ニ使用スルコトヲ要ス、右期間經過後ハ無効タルヘク而シテ此ノ場合ニ於テハ其ノ廢棄セラレタルコトヲ當該指圖書ニ記入スヘシ

第十四條

領事館又ハ移民取扱事務所ハ如何ナル場合ニ於テモ黃色又ハ黑色人種ニ屬スル者、傳染病患者、乞食、遊食者若ハ「ジプシー」譯註、諸國ヲ漂浪シテ遊牧的ニ對シ移民證明書若ハ移民乗船券ヲ發給スルコトヲ得ス囚徒又ハ外國裁判所ニ於ケル刑事被告人ニ對シテモ亦同シ

第十五條

歸國セント欲スル「バラグアイ」人ハ戰爭其ノ他ノ事變ニ依リ國外ニ在リタル者ニシテ本國ニ定住セ
ンカ爲歸國スル限リハ豫メ本人ニ相違ナキコトヲ立證シテ本人及其ノ家族ノ爲隣接諸國ノ何レノ地
點ヨリスルヲ問ハス旅費ノ給與ヲ受ケ且移民ト同様ノ便益ヲ享受スルコトヲ得
疑義アル場合ニハ領事官ハ外務省ノ決定ヲ求ムル爲當該報告書及事件ノ來歷書ヲ添ヘ其ノ願書ヲ同
省ニ送付スヘシ

第十六條

前記ノ歸國ヲ爲サンカ爲ニハ申請者ハ何等ノ疑義ヲ挾ムノ餘地ナキ方法ヲ以テ其ノ國籍カ證明セラ
レタル後當該領事館ニ於テ在留登錄濟ノ者タルコトヲ要ス
共和國軍隊ノ脱走者ニシテ未タ赦免セラレサル者、逃亡セル犯罪者、若ハ曾テ國費ヲ以テ歸國セシ
メラレタルコトアル者、若ハ商業上ノ用務ノ爲入國セントスル者ハ前記歸國ノ特典ヲ享受スルコト
ヲ得ス

第十七條

附則

第十八條

移民調査會及報道兼印刷物交換局ハ向後一局ヲ形成シ之ヲ外務省ノ管下ニ置キ移民及植民總務局ト
稱スヘシ

第十九條

前記移民及植民總務局ノ事務上必要ナル權限、職員及定員ハ規則及國家ノ歲出豫算法ニ依リ之ヲ定
ム

第二十條

移民及植民總務局カ事務遂行ニ要スル經費ハ當該項目ノ定ムル所ニ從ヒ一般歲入ヨリ之ヲ支出ス

第二十一條

內國諸官憲ハ移民及植民總務局ニ對シ同局ノ所管事務ニ關シ必要ナル協力ヲナスヘキモノトス

第二十二條

移民ニ關スル舊法律並其ノ他ノ規定ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十三條

行政部ハ本法ノ施行細則ヲ定ムヘシ

第二十四條

本法ハ之ヲ行政部ニ移牒スヘシ

千九百三年九月三十日立法議會會議室ニ於テ之ヲ作成ス

上院議長 マヌエル・ドミンゲス (署名) 下院議長 ルアイーノ・マソ (署名)

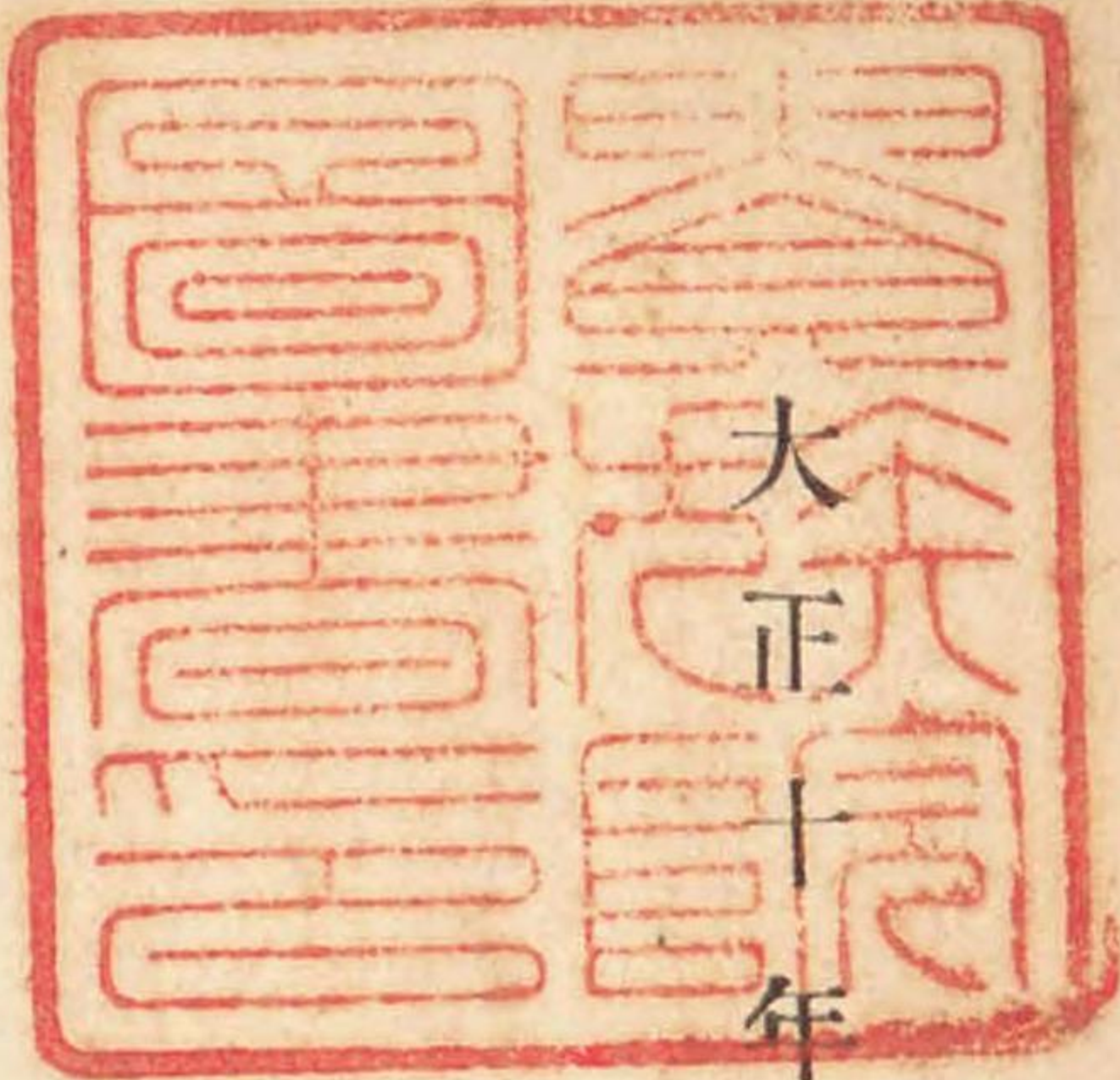
書記官 エンリケ・ハケット (副署) 書記官 フェデリーコ・アセラーダ (副署)

千九百三年十月六日「アスンシオン」

本法ヲ遵奉シ之ヲ公布シ且登録局ヘ送達スヘシ

エスクツラ (署名)

アントリン・イララ (署名)



大正十年十一月
(條約改正調査報告
第十七號ノ三)

中南米諸國移植民法規

三、「ヴェネズエラ」合衆國移植民法

外務省臨時調查部

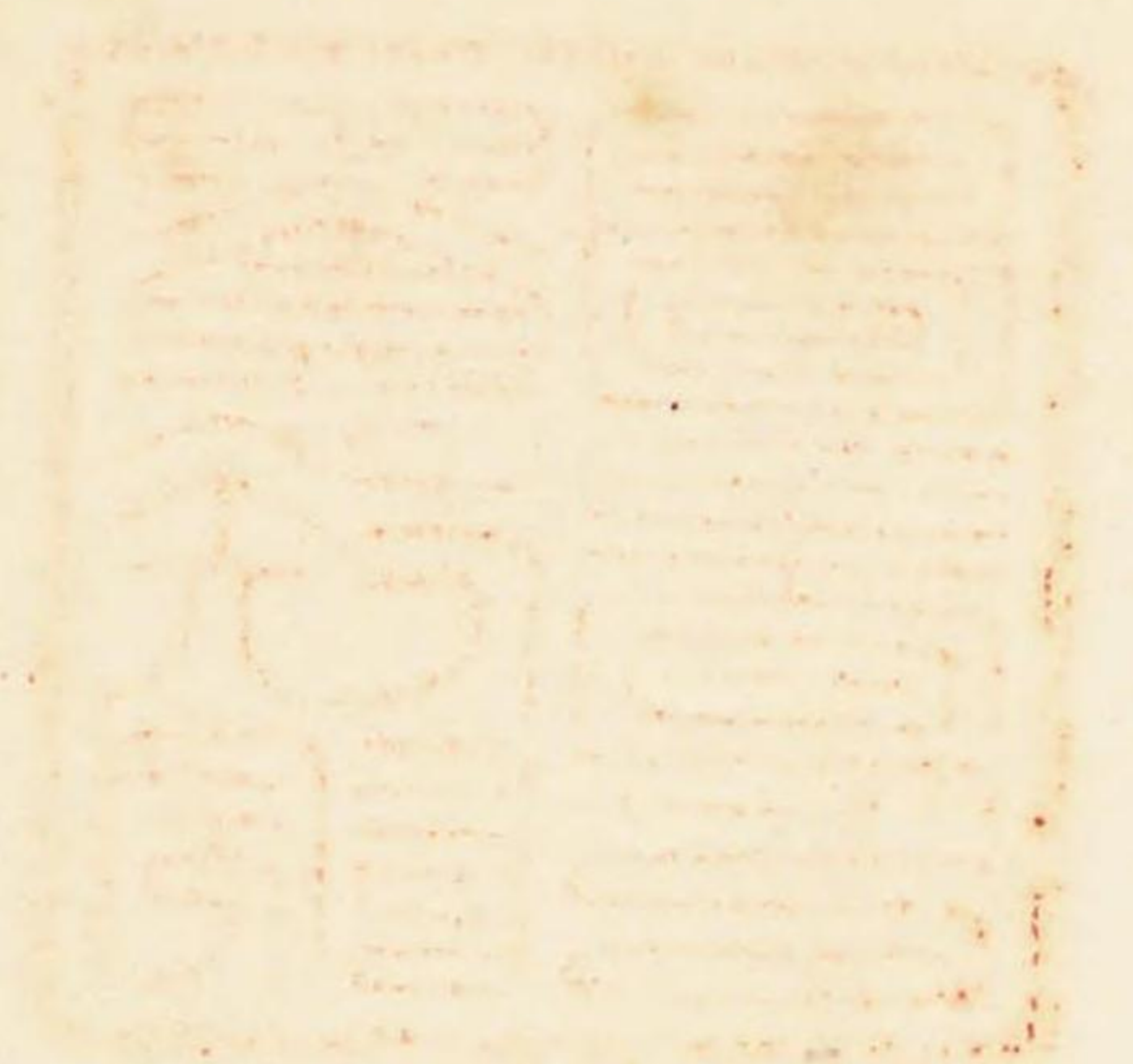
貴族院
函
号
冊

貴族院
函
号
冊

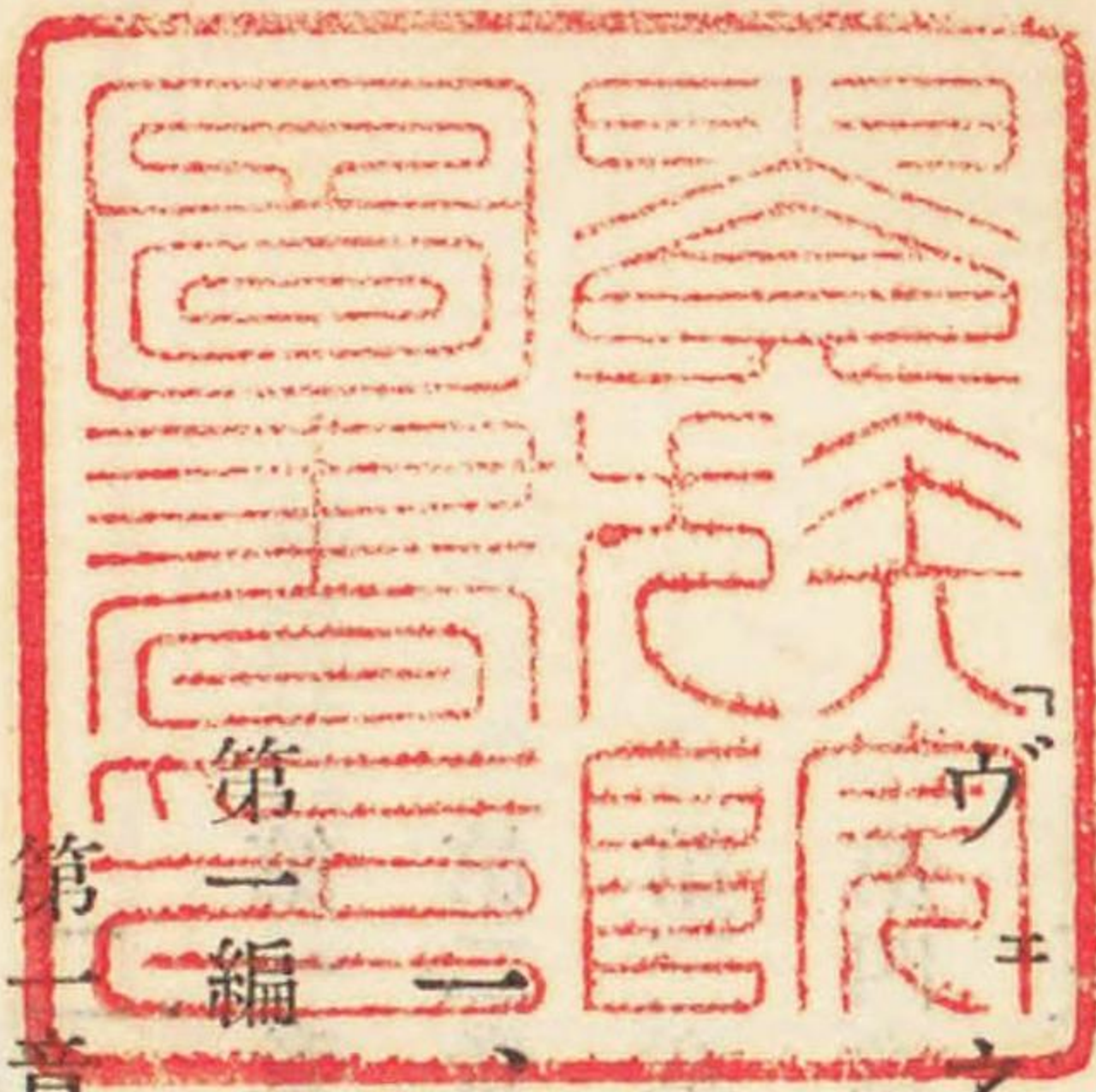


「ヴェネズエラ」合衆國移植民法

- 一、移民及植民法(千九百十八年六月二十日制定
同年同月二十六日施行)
- 二、外國人法(千九百十九年六月十三日制定
同年同月二十四日施行)
- 三、歸化法(千九百十三年五月十五日制定
同年同月二十四日施行)



三 補遺(附録三十三、三十四、三十五)
 二 外國人法(附録三十一、三十二、三十三、三十四)
 一 移民及植民法(附録二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五)
 ヤ・ネ・ス・ニ・ク 合衆國移民法



「合衆國移民法」

目次

移民及植民法 六一

第一編 移民 一

第一章 中央移民委員會 一

第二章 移民事務官 二

第三章 移民ノ權利及義務 四

第四章 移民誘入手續 一

第五章 移民ト契約ヲ締結スル方法 二

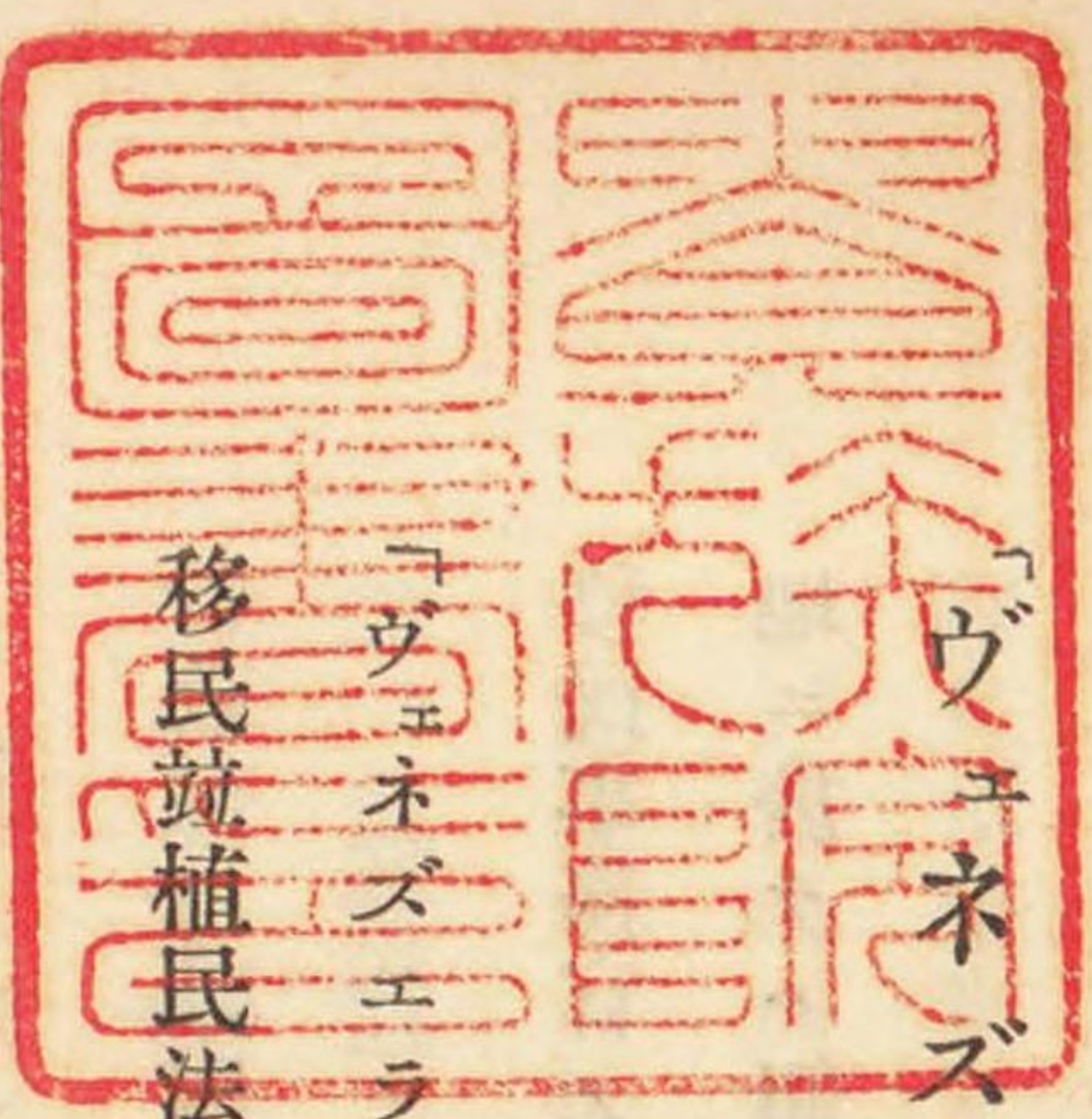
第六章 移民輸送用船舶 四

第七章 移民ノ上陸 七

第八章 移民基金 九

第二編 植民 一一

第一章	中央植民事務局	二一
第二章	植民用土地及其ノ區劃	二三
第三章	植民竝土地ノ贈與、拂下及保留	二六
第四章	植民基金	三九
第五章	植民地獎勵	四〇
第六章	植民地ノ管理	四一
第七章	牧畜及工業植民地	四四
第八章	植民地ノ性質ヲ有スル町村	四四
一、「ヴェネズエラ」合衆國外國人法		
第一章	住所及居所	四九
第二章	入國禁止	五二
第三章	外國人ノ國外追放	五四
第四章	入國禁止及國外追放ニ關スル一般規定	五七
二、「ヴェネズエラ」合衆國歸化法		
		六一



「ヴェネズエラ」合衆國移殖民法
一、移民竝植民法

第一編 移民

第一章 中央移民委員會

第一條

充分ニ責任ヲ有スル者ノ内ヨリ選舉セラレタル十五名ノ委員ヨリ成ル中央移民委員會ヲ勸業省所屬トシテ當共和國首府ニ設置ス右委員ノ内八名ハ農業、牧畜、商業及工業組合ニ屬スル者タルヘク又少クトモ四名ハ外國人タルヲ要ス

行政部ハ同委員會ノ職員ヲ任命シ且其ノ職務ヲ規定スヘシ同委員會ノ目的ハ良習慣ヲ有シ且有ラユル産業、職業、技術又ハ手工ニ適スル移民特ニ農業者ノ渡來ヲ增進セシメ之ヲ獎勵シ且容易ナ

ラシムルモノトス

第二條

各州首府ニ於テモ亦九名ノ委員ヨリ成ル移民委員會支部ヲ設置スヘク右委員ノ内五名ハ農業、牧畜及商業組合ニ屬スル者タルヘク又少クトモ二名ハ外國人タルヲ要ス

第三條

中央移民委員會並各州支部及移民事務官ハ前條ニ記載シタルモノノ外其ノ主要ナル目的トシテ契約ニ依リ又ハ植民地ニ入ル爲渡來シタル以外ノ移民ニ對シ其ノ技能ニ應シテ職業ヲ紹介スヘシ

第二章 移民事務官

第四條

行政部ハ歐羅巴、「カナリア」諸島及其ノ他便宜ト認ムル各地ニ移民事務官ヲ任命ス

第五條

移民事務官ノ駐在セサル地ニ於テハ領事並商務官ハ移民事務官ノ職務ヲ執行シ又移民事務官駐在地ニ於テハ領事並商務官ハ之ニ對シ其ノ職務遂行ノ爲必要ナル共助ヲ爲スヘシ

第六條

移民事務官及場合ニ依リ之ニ代ルヘキ領事並商務官ノ職務左ノ如シ

一、外國ニ於テ「ヴェネズエラ」國渡來希望者、汽船會社、商店及概シテ當國ノ一般情勢ニ關スル

正確ナル情報ヲ得ンコトヲ希望スル者ノ請求アリタルトキハ之ニ報道ヲ與フルコト

二、良習慣ヲ有スル移民特ニ農業移民ヲ成ルヘク多數ニ「ヴェネズエラ」國ニ渡來セシメンカ爲絶

エス宣傳ヲ爲スコト、此ノ目的ノ爲本法ヲ駐在國ノ國語ニ翻譯公表シ且新聞、雜誌、小冊子引

札等ニ依ル出版方法ヲ以テ氣候、地理上ノ位置、土地ノ豊饒、農業並工業的企業ニ關スル機會

等總テ有利ナル狀況、及、國家カ移民ニ對シ提供スル免除並補助、及此等ノ免除及補助ヲ享受

スル爲履行スヘキ手續並乘船及上陸ニ關スル手續等ヲ周知セシムルコト

右出版物ハ其ノ目的ノ爲協力スルコトヲ得ル總テノ官吏並團體ニ對シ特ニ之ヲ送付スルコト

三、移民ノ爲便宜ト認ムル有ラユル事項ヲ行政部ニ報告スルコト

四、行政部ノ發スル訓令ニ從ヒ契約移民トシテ又ハ植民地ニ入ランカ爲「ヴェネズエラ」國ニ渡來

スルコトヲ承諾スルモノニ旅費ヲ支給シ且此等移民並自費渡航者ニ對シ第十條ニ規定セル證明

書ヲ普通用紙ニ認メテ發給スルコト、右證明書ヲ發給スルニハ如何ナル理由ヲ以テスルヲ問ハ

ス發給ヲ受クルモノヨリ何等ノ報酬ヲ徵收又ハ受領スルコトヲ得サルモノトシ若之ニ違反スル

トキハ免職セラルヘシ

四

五、個別ニ詳細ナル説明書ヲ附シタル「ヴェネズエラ」國天産物及工藝品並「ヴェネズエラ」國ニ關スル書籍、小冊子、地圖、寫眞ノ陳列ヲ繼續的ニ維持スルコト

六、法律ノ課スル其ノ他ノ義務ヲ履行シ且聯邦行政部ノ訓令ヲ遵奉スルコト

第七條

領事並移民事務官ハ「ヴェネズエラ」國政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ政府個人又ハ各種企業會社ヨリ補助金、割増金、割戻金又ハ贈與若ハ其ノ他ノ形式ニ於テ何等ノ金員ヲ受領スルコトヲ得ス、違反スルトキハ免職シ之ニ相當スル處罰ヲ爲スヘシ

第八條

移民事務官並場合ニ依リ之ニ代ルヘキ領事及商務官ハ均シク移民ニ對シ「ヴェネズエラ」國ニ定住スル爲當國ノ事情ニ就キ眞實ナル報告ヲ與ヘンコトヲ努メ且移民誘入ノ目的ヲ以テ營利會社又ハ個人カ國家ニ害ヲ與ヘテ流布シタルカ又ハ流布スルコトアルヘキ虛偽ノ言說若ハ誇張セル約束ヲ反駁シテ無効ナラシムヘシ

第三章 移民ノ權利及義務

第九條

本法施行上有ラユル手工、産業、職業又ハ技術上ノ技能ヲ有スルモ自國ニ於テ生計困難ノ爲永住ノ目的ヲ以テ「ヴェネズエラ」國ニ渡來スル操行善良ナル總テノ外國人ヲ移民ト看做ス

但シ左ニ掲クル者ハ之ヲ移民トシテ收受セス從テ本法ニ依リ與ヘラルル便益ヲ享受スルノ權利ナキモノトス

一、歐羅巴人種ニ非サル者又ハ北半球ノ黃色人種ニ屬スル島國人ニ非サル者

二、六十歳以上ノ者、但シ其ノ家族ト共ニ渡來スルカ又ハ既ニ「ヴェネズエラ」國ニ定住セル家族ノ父若ハ母、祖父若ハ祖母ヲ除ク

三、素行修ラサル者、浮浪人、正業ヲ有セサル者、公共ノ扶助ヲ受クヘキ勞働不能ノ不具者及傳染病患者

四、懲役ノ刑ニ處セラレタル者及自國ノ法律ニ依リ復權セサル者但シ國事犯ニ依ル者ヲ除ク

第十條

移民ノ善良ナル操行並職業上ノ技能及前條ニ述フル其ノ他ノ條件ハ在外當共和國領事、商務官又ハ移民事務官若ハ地方官憲ノ發給スル證明書ヲ以テ之ヲ立證スルコトヲ要ス、但シ地方官憲ノ發

五

給スル證明書ニ依ル場合ニ於テハ「ヴェネズエラ」國領事又ハ當該移民事務官之ヲ認證シ若其ノ地ニ「ヴェネズエラ」國領事又ハ移民事務官ノ駐在セサルトキハ友好國ノ領事又ハ商務官ノ認證ヲ經來ルコトヲ要ス

第十一條

移民ハ之ヲ左ニ掲クル三種ニ分ツ

- 第一種 契約ニ依ラサル移民
- 第二種 契約ニ依ル移民
- 第三種 植民地行移民

第十二條

本法ニ關シ制定セラルル細則的決定中ニ契約ニ依リ渡來スル移民並植民地行ヲ目的トシテ渡來スル移民カ享受シ得ヘキ補助及免除ヲ設定スルノ權能ハ之ヲ聯邦行政部ニ付與ス

第十三條

在「カラカス」中央移民局並各地方駐在移民事務官ハ求職ノ爲契約ニ依ラスシテ渡來スル移民ヲ就職セシムル爲盡力シ尙此ノ目的ノ爲農場主其ノ他ノ企業者カ行政部ノ制定スル規則ニ從ヒ提出ス

ル所要労働者ニ關スル願書ヲ受理シ且之ヲ處理スヘシ

第十四條

行政部カ制定スル規則中ニハ本法ノ規定ヲ嚴密ニ履行シ尙所要條件ヲ具備セサル移民ニ關シテ定メラレタル禁止事項ノ犯サルルコトナキヤウ特ニ留意スヘシ

第十五條

行政部ハ各階級ノ移民ニ對シ便宜ト認ムル特許ヲ與フルコトヲ得ヘク尙主要ナル移民供給地ヨリ其ノ目的地ニ至ル迄ノ移民輸送ノ爲陸上運輸並航海會社與契約ヲ締結スルコトヲ得

第十六條

移民ハ憲法及法律カ外國人ニ對シ許與スル凡テノ權利ヲ享有スヘク尙歸化スルトキハ國際戰爭ノ場合ヲ除キ終身兵役ヲ免除セラルヘシ但シ移民出生國ト戰爭ノ場合ニハ兵役ニ服スルノ義務ナシ

ト雖此場合ニハ嚴正中立ヲ守ルコトヲ要ス

第十七條

移民ハ内國人ト同様ニ關係法律ニ從ヒ且時効ニ依リ嚴格ニ無所屬トナルニ至ル迄無償付與ヲ受クル爲未開墾地ヲ占有スルコトヲ得

契約ニ依ラス又植民地行ヲ目的トセス求職ノ爲自費ニテ渡來スル移民ニシテ第九條ノ要件ヲ具備シ且第十條ノ手續ヲ完了シタル者ハ本法ノ許與スル恩惠ニ浴スヘキ意志ヲ乘船前ナルトキハ當該移民事務官、領事又ハ商務官ニ申告シ若上陸港ニ於テスルトキハ中央移民委員會ノ辨務員ニ申告シ若又同地ニ中央移民委員會ノ辨務員ナキトキハ其ノ地ニ於ケル最高行政官憲ニ之ヲ申告スヘシ前記申告ヲ受ケタル官憲ハ何等ノ金員又ハ手数料ヲ徵收又ハ受領スルコトナクシテ該申告ヲ記載シタル普通用紙ノ證票ヲ交付スヘシ

植民地ニ向ケ自費ニテ渡來スル農業者ノ家族ハ前項ニ記載セル方法ニ依リ同様ニ申告スルコトヲ得

前二項ニ從ヒ上陸港ニ於テ爲ス所ノ申告ハ上陸後六日間以内ニ之ヲ行フコトヲ要シ尙該申告ハ之ヲ中央移民委員會ニ通告スルモノトス

外國人タル資格ニ附隨スル義務ノ外移民ハ有效ニ締結シタル契約及「ヴェネズエラ」國ニ渡來スル爲締結シタル契約ニ基因スル義務ヲ有スルモノトス

移民ヲ渡來セシムル爲ノ契約ハ左記ノ基礎的條件ニ依ルコトヲ要シ若之ニ違反スルトキハ罰トシテ締結者双方間ニ當該契約竝之ヨリ生スル責任ヲ事實上無効トス

- 一、農業労働者及日傭労働者ノ約定ハ如何ナル場合ニ於テモ四年、職工ハ二年、家事使用人及常雇人ハ一年以上ノ期間ニ渉ルヘカラス
- 二、移民ニ對シテ定ムル給料ハ一週間毎ニ必ス現金ニテ之ヲ支拂フヘキモノトシ賄附ナルヤ否ヤ正ハ之ヲ契約書中ニ明記スヘシ若明記セザルトキハ之ヲ推定スヘシ
- 三、移民ノ家族ハ少クトモ一年間無料宿泊ノ權利ヲ有ス
- 四、農場及其ノ他農事會社ニ於ケル労働契約書中ニ各家族ニ對シ農業ニ適スル一地區ヲ無料ニテ貸與スヘキコトヲ規定シタル場合ニハ其ノ地區ハ契約者ノ所有地四「ヘクタール」ヲ下ラサルモノトシ之ヲ耕作スヘキ義務ヲ附スヘシ

此ノ目的ノ爲契約者ハ移民ニ對シ其ノ住家ノ建設、器具、種子、及使役竝牧畜用動物ノ購入ノ爲必要ナル資金ヲ前貸ノ方法ニ依リテ支給スヘシ

若土地引渡ノ際ニハ一名ノ中央移民委員會派遣員又ハ辨務員之ヲ評價スヘク若之ヲ缺クトキハ

村長若ハ郡市長之ヲ評價スヘシ而シテ其ノ契約若ハ延長約定カ滿期ニ達スルトキハ移民ハ先ニ評價セラレタル價格ヲ以テ該土地ヲ購入スルト或ハ移民ノ選フ所ニ從ヒ勞力ノ價格、若ハ原地ニ與ヘタル増價額ヲ標準トシテ鑑定人カ評定シタル現存改良ノ價格ヲ受領スルトハ移民ノ選擇ニ任スヘシ右ニ關シ雇主及移民間ニ協定ヲ見サルトキハ移民ハ支拂未濟ノ間土地保留ノ權利ヲ有ス

移民ニ引渡サルヘキ土地ノ評價ニ關シテハ同文三通ノ記錄ヲ作成シ契約者雙方ニ一通ツツ之ヲ所持シ殘餘ノ一通ハ之ヲ中央移民委員會ニ送付スヘシ

五、農事會社トノ間ニ契約セラレタル家族ハ契約者ノ所有地ニ於テ收穫期間中一週四日以上、其ノ他ノ時期ニ於テ同三日以上勞働スルノ義務ナキモノトス

六、如何ナル契約移民モ契約者カ書面ニ認メテ署名セル許可ナクシテ他ノ農場ニ赴キ勞働スルコトヲ得ス

第二十一條

各契約書ハ契約者雙方ニ各一通ツツ及他ノ一通ハ中央移民委員會用トシテ三通ヲ調製スルモノトス

第四章 移民誘入手續

第二十二條

會社又ハ個人ニシテ當共和國ニ移民ヲ誘入セント欲スル者ハ之ニ該當スル認可ヲ聯邦行政部ニ出願スヘシ此ノ認可ハ豫メ出願人ヲシテ總テ本法ノ條規及規定並認可ヲ與ヘラルル日ニ現ニ施行中ナル規則、布告及決定ヲ履行スヘキコトヲ誓約セシメタル後主務省ノ機關ヲ通シテ之ヲ與フルモノトス

第二十三條

前條ニ依ル認可ヲ與フル爲並移民ニ關スル何等カノ契約ヲ結フ爲主務省長官ハ豫メ國庫ノ安全ニ必要ナル總テノ報告並中央移民委員會ノ意見ヲ徵スヘシ而シテ出願人カ其ノ義務ヲ適法ニ履行シ得ト認メサルトキハ其ノ認可ヲ拒ミ又適當ト信スルトキハ擔保ヲ要求スルコトヲ得

政府ハ移民カ移住國トシテ「ヴェネズエラ」國ノ事情ニ關シ虛偽ノ報告又ハ誇張セル約束ヲ以テ欺カルルコトナキヤウ之ニ要スル總テノ手段ヲ講スヘシ

第二十四條

移民誘入ヲ認可セラレタル個人又ハ會社ハ本法ノ規定ニ從ヒ採擇スル船舶並船室等級ヲ以テ之ヲ

行フコトヲ得、總テノ場合ニ於テ政府ハ出願人ト協定シタル運賃額ニ關スル外何等ノ責任ヲ負ハサルモノトス

第二十五條

移民トシテ收受セラルヘキ移民カ認可ヲ受ケサル者ニ依リテ誘入セラレタルトキハ該移民ハ何等本法ノ便益ヲ享受セサルモノトシ第十八條ニ規定セル移民ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第五章 移民ト契約ヲ締結スル方法

第二十六條

移民誘入ノ認可ヲ受ケタル個人又ハ會社ニシテ移民ト契約ヲ結ハント欲スル者ハ左ノ數條ニ從ヒ移民事務官又ハ其ノ事務ヲ代辦スル者ノ仲介ニ依ルカ若ハ本法ノ諸規定及契約ノ際現ニ實施中ナル其ノ他ノ布告、決定及規則ニ從ヒ普通手續ヲ以テ直接ニ又ハ其ノ代理人ヲ介シテ之ヲ締結スルコトヲ得、前記契約書ハ其ノ寫ヲ中央移民委員會ニ廻付スヘシ

認可ヲ受ケサル會社又ハ個人ニシテ移民ト契約ヲ結ハント欲スル者ハ中央移民委員會ニ願書ヲ提出スヘク此ノ願書ニハ移民ヲ必要トスル業務ノ種類、所要人員、其ノ國籍、人種、年齢及男女ノ別其ノ要求セントスル勞働時間、支拂フヘキ給料、少クトモ一年間適當ナル住家ノ無料供給、其ノ提供スヘキ自己ノ所有地ノ「ヘクタール」數並其ノ土地ノ種類、上陸港ヨリ就業地ニ至ル移民輸送費ヲ支辨スヘキ約束ヲ明記シ、尙提供セル基礎條件ニ基キテ契約セル義務及本法ノ規定ヲ履行スヘキ旨ヲ誓約スヘシ

第二十七條

前條ニ述ヘタル願書ニ記載セラルヘキ申込條件ハ豫メ中央移民委員會ノ報告ヲ徵シタル後行政部ヨリ之ヲ在外移民事務官ニ通達スヘク右在外移民事務官ハ之ヲ移民ニ通知シ移民カ之ヲ承諾シタルトキハ移民トノ間ニ雙務契約成立スルモノトス右契約ハ移民ト移民招致申込人ノ名義ニ於ケル移民事務官トノ間ニ「ヴェネズエラ」國領事ノ面前ニ於テ文書ヲ以テ作成セラルヘク若該領事カ移民事務官ヲ兼ヌルカ又ハ「ヴェネズエラ」國領事ヲ缺クトキハ一友好國領事ノ面前ニ於テ契約締結ヲ爲スヘシ

第二十八條

「ヴェネズエラ」國契約者ハ此等契約ニ要スル費用ヲ支拂フヘシ

第二十九條

行政部ハ移民ヲシテ何等ノ不正手段ノ犠牲トナラシメス且出願者ヲシテ移民ニ對シ根據ナキ多額

ノ費用ヲ負擔セシメサル爲移民ノ利益ヲ擁護スルニ足ル規則ヲ制定スヘシ

第六章 移民輸送用船舶

第三十條

専用移民輸送船ハ當共和國ノ各港ニ於テ港稅、給水稅、燈臺稅及稅法ニ依リ納付スヘキ其ノ他ノ諸稅免除ノ特典ヲ享受ス
尙政府ハ専用移民輸送船ニ對シ特別補助金ヲ付與スルコトヲ得

第三十一條

此ノ特典ヲ享受スル爲ニハ移民輸送ニ使用セントスル船舶ノ所有主又ハ傭船者ノ請求ニ依リ勸業省カ當該船舶ニ對シテ之ヲ許與スヘキ旨ノ決定ヲ與フルコトヲ要ス此ノ決定ハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第三十二條

上記ノ決定ノ爲ニハ左ニ掲クル事項ヲ明カニスルコトヲ要ス

- 一、船舶カ航海ニ適スル良好ナル状態ニアルコト
- 二、二等及三等船賃ハ移民輸送ニ充用セラレサル船舶ノ徵收スル船賃ヨリ低廉ナルコト

三、本章ノ規定ニ依リ必要トスル其ノ他ノ條件ヲ具備スルコト

四、船主又ハ傭船者ハ第九條及第十條ニ依リ移民トシテ拒絶セラレ同一船舶ニテ送還セララルヘキ者ノ乗船渡來スルコトヲ許ササルノ義務ヲ有スルコト

第三十三條

如何ナル船舶モ登簿噸數二噸ニ付船客一名以上ヲ乗船セシムルコトヲ得ス但シ一歳ヨリ八歳迄ノ小兒ハ此ノ計算法ニ據ラサルモノトシ登簿噸數一噸ニ付一名ノ割合ヲ以テ計算ス

第三十四條

各船客ハ船舶ノ甲板ノ高サ二米突二八ナルトキハ一平方米突三〇、甲板ノ高サ一米突八二ナルトキハ一平方米突三三、甲板ノ高サ一米突六六ナルトキハ一平方米突四九ノ面積ヲ占有スルノ權利ヲ有ス、一歳未満ノ小兒ハ此ノ計算中ニ加ヘサルモノトシ八歳未満ノ小兒ハ二名ヲ以テ船客一名トシテ計算ス

第三十五條

船舶ノ中艙ハ最小限度ノ高サ一米突六六ヲ有シ常ニ船客ノ交通ヲ自由ナラシムルコトヲ要ス

第三十六條

船客用寢臺ハ其ノ内法ニ於テ少クトモ長サ一米突八三、幅五十糎ヲ有スルモノタルヘク一船室ニ二列以上ノ寢臺ヲ配置スルコトヲ得ス

第三十七條

總テノ移民輸送船舶ハ船客數ニ適應セル數ノ救命艇ヲ準備スヘシ

第三十八條

總テノ移民輸送船舶ハ其ノ目的ノ爲ニ採定セラルル規則ニ從ヒ船客ノ衛生、安全及安慰ノ爲ニ必要ナル通風機、唧筒、厨房、器具、鐵器具、什器及附層設備ヲ有スヘキモノトス

第三十九條

總テノ移民輸送船舶ハ船醫一名及總テ必要ナル藥品ヲ準備セル藥劑師一名ヲ乗船セシムヘシ

第四十條

總テノ移民輸送船舶ハ本法ヲ西班牙語及主ナル國語ニテ大形ノ揭示ノ様式ニ印刷シ船中ノ最見易キ場所ニ額椽ヲ附シテ掲クルカ又ハ小冊子トシテ之ヲ移民間ニ配布スルヲ要ス

第四十一條

船内ニ惡疫又ハ傳染性疾病ノ發生シタル場合ニハ船長ハ患者ニ對シ最善ノ手當ヲ施シ船醫ヲシテ

病性ヲ證明セシムヘシ

第四十二條

移民輸送船舶カ當共和國ノ一港ニ到着セルトキハ檢疫醫ハ中央移民委員會ノ辨務員アルトキハ之ヲ同伴シテ同船ノ衛生状態ヲ調査シ及本章ニ含メル諸規定ニ違反セサルヤ否ヤヲ調査スル爲臨檢ヲ行フヘシ

第四十三條

前顯諸規定ニ違反スル移民輸送船舶ノ船長ハ二千「ポリーヴァル」迄ノ罰金ニ處セラレ再犯ノ場合ニハ第三十條ニ依リ許與セララルル免除ノ特典ヲ失フモノトス(譯註、一「ポリーヴァル」ハ我三十八錢餘ニ當ル)

第四十四條

行政部ハ移民輸送上凡テ衛生ニ關スル現行規定ヲ遵守シ竝移民ニ對シ渡航中善良ナル待遇及適當ナル食事ヲ與フル爲其ノ細則ヲ制定スヘシ

第七章 移民ノ上陸

第四十五條

中央移民委員會ハ主要諸港ニ其ノ辨務員ヲ任命スヘク此ノ辨務員ノ職務ハ移民ヲ受理シ且指定セラレタル收容所迄移民ヲ同行スル爲税關監視部長臨時之ヲ代理スルコトヲ得而シテ右收容所ノ開設並管理ハ當國政府ノ負擔トシ移民ニ對シ良好ナル宿泊ノ便ヲ供與シ且必要ナル監督ノ下ニ政府ノ費用ヲ以テ移民ノ手荷物ノ陸揚ヲ行ハシムルコトニ留意スヘシ

第四十六條

移民中海上ニ於テ重病ニ罹リタル者ヲ生シタル場合ニハ辨務員ハ此ノ目的ノ爲政府ノ費用ヲ以テ各港ニ設置セララル病院ニ該移民ヲ移送セシムヘシ

第四十七條

同辨務員又ハ行政部ノ任命スル其ノ他ノ官吏ハ移民ニ勞働ヲ周旋スルコトニ從事シ且移民カ希望スルトキハ國內ニ於テ締結セント欲スル契約ニ干與スヘク此ノ目的ノ爲契約登録簿一冊ヲ備フヘシ

第四十八條

辨務員又ハ場合ニ依リテハ其ノ他ノ最高官憲ハ第十八條ニ規定セル申告ヲ受ケ該員及利害關係人ノ署名セル始末書ヲ作成シテ之ヲ中央移民委員會ニ送付シ且之ニ相當スル證明書ヲ發給スヘシ

第四十九條

如何ナル關係、動機若ハ口實ニ依ルヲ問ハス辨務員及其ノ職務代理者ハ移民ヨリ何等ノ報酬又ハ料金ヲ徵收セサルモノトス

第五十條

右ノ外辨務員ハ移民カ耕作ノ爲占有セント欲スル未開墾地ノ選擇ヲ爲スニ當リ之ヲ援助スヘシ

第五十一條

契約ニ依ラスシテ渡來スル移民ハ到着後最初ノ十日間宿泊及給養ヲ受クヘシ契約ニ依リ渡來スル移民ハ其ノ契約條項ニ從フモノトシ尙其ノ目的地迄輸送準備ノ延滞ニ依リ生シタル費用及其ノ他ノ損害ハ契約者之ヲ辨償スヘキモノトス又植民地行ヲ目的トシテ渡來スル移民ハ該地ニ輸送セララル迄宿泊並食事ヲ給セラルヘシ

第八章 移民基金

第五十二條

移民基金ハ左記ノモノヨリ成立ス
一、此ノ使途ノ爲議會ニ於テ可決セラレタル金額

二、本法並行政部カ制定スル規則ノ違反者ニ對スル罰金
三、此ノ目的ノ爲充當セラルヘキ其ノ他ノ收入

第五十三條

移民基金ハ聯邦行政部ノ定ムル所ニ從ヒ管理セラルヘク行政部ハ本法ニ從ヒ同基金ヲ最適當ニ使
用スルヤウ注意スヘシ

第五十四條

移民獎勵費トシテ豫算法中ニ編入セラルヘキ年額カ議會ノ協贊ヲ經テ確定スル迄ノ間聯邦行政部
ニ對シ國庫歲入ヨリ移民獎勵ニ必要ナル基金ヲ定メテ之ヲ使用スルノ權能ヲ付與ス但シ此ノ用途
ニ充當セル金額ヲ議會ニ報告スルコトヲ要ス

第五十五條

移民基金ハ聯邦行政部ノ定ムル所ニ從ヒ管理セラルヘク行政部ハ本法ニ從ヒ同基金ヲ最適當ニ使
用スルヤウ注意スヘシ

第二編 植 民

第一章 中央植民事務局

第五十五條

聯邦行政部ハ勸業省管轄ノ下ニ適當ノ時期ニ於テ中央植民事務局ヲ設クヘシ

第五十六條

中央植民事務局ノ職務範圍及義務左ノ如シ

第一、國有地及政府ノ干與ヲ以テ植民シタル土地ノ管理、支配、境界、移住、開發及衛生ニ關ス
ル凡テノ法律、布告及規定ヲ登錄スル爲特別帳簿ヲ備付クルコト

第二、拂下、贈與、保留、讓渡、契約及移植民ニ關スル其ノ他ノ公文書ヲ一冊ノ帳簿又ハ區別セ
ル數冊ノ帳簿ニ登錄スルコト

第三、植民ニ適スト認メラルル土地ノ探檢ヲ準備スルコト、而シテ之ヲ爲スニハ其ノ土地ノ形成、
耕作狀態、天產物及見込アル其ノ他ノ便益ニ關シ之ヲ研究スル方法ヲ開陳スルコト

第四、土地拂下、道路開通、海上又ハ河流航路ノ開設竝一般ニ植民地建設及植民獎勵ニ關スル凡

テノ計畫ヲ發生スヘキ利害ニ就キ行政部ニ報告スルコト

第五、行政部カ本事務局ニ對シテ要求スル調査資料ヲ提供シ竝植民地ノ建設、支配及發達ヲ容易ナラシムル爲適當ト認ムル計畫ヲ行政部ニ建議スルコト

第六、移民事務官竝凡テノ請求者ニ對シ植民スヘキ土地ノ位置、產物、價格及其ノ他ノ狀態ニ關シ必要ナル調査資料竝知識ヲ提供スルコト

第七、植民地ニ關スル凡テノ契約竝約定ノ履行ヲ監督スルコト

第八、當共和國ニ現存スル植民地又ハ將來建設セラルヘキ凡テノ植民地ノ統計表ヲ作成スルコト而シテ此ノ統計表ニハ植民地ニ入來スル移民ノ人員及種類、竝此等植民地内ニ存在スル產業ノ性質及狀態ヲ表記スルコト

第九、毎年一回主務長官宛ニ各植民地ノ狀態ニ關スル詳細ナル報告書ヲ提出スルコト、而シテ此ノ報告書ニハ植民地ノ進歩停滯又ハ衰微ノ原因ヲ記シ且其ノ發達ニ適當ナル方法ヲ建議スルコト

第十、現行法律竝細則的布告ニ從ヒ植民事務ニ關スル經費ノ豫算ヲ編成シ且既ニ支出セル資金ノ計算書ヲ作成スルコト

第五十七條

中央植民事務局ノ設立セララル迄ノ間其ノ職務ハ勸業省内農牧兼植民局之ヲ行フヘシ

第二章 植民用土地及其ノ區劃

第五十八條

行政部ハ未墾地ノ探檢ニ關スル處置ヲ講シ且植民地トシテ適當ト認メララル土地ノ測量、區劃及境界標建設ヲ行フヘシ

第五十九條

前記土地ハ一邊ノ長サ二十基米突ヲ有スル方形區劃ニ區分スヘシ

第六十條

或ル區劃ノ數邊中若干カ自然ノ境界線ヲ有シ得ル場合ニハ此ノ境界線ハ其ノ儘ニ存續セシメ他ノ數邊ハ假令更ニ細分シタル地區ノ面積ニ二割内外ノ増減ヲ來スコトアリトモ之ニ拘ラス前條ノ規定ニ依リ境界線ニ劃スヘキモノトス

第六十一條

各區劃ハ之ヲ每個百「ヘクタール」ノ面積ヲ有スル四百個ノ地區ニ區分スヘシ

右ノ内四個ノ地區ヲ町村敷地ニ充當スヘク而シテ該町村ハ地勢上一層有利ナル他ノ場所ナキ限リ
區劃ノ中央部ニ之ヲ設クヘシ

各區劃ノ外廓ノ地區七十六個ハ之ヲ共有地ニ充ツ

殘餘ノ三百二十個ハ本法ニ依リ定メラレタル形式ニ依リ地區ノ四分ノ一ニ區分シテ之ヲ拂下ケ又
ハ付與ス此等ノ地區ハ西北隅ヨリ始メテ西南隅ニ終ルヤウ左ヨリ右及右ヨリ左ニ番號ヲ附スヘシ
各地區ヲ細分シタルモノハ字母ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第六十二條

前記ノ形式ニ依リ細分セラレタル地區ハ之ヲ「バルテイド」(割地)ト稱ス

第六十三條

各區劃 (譯註原文ニハ「バルテイド」トアレ)ハ幅員二十五米突ヲ有スル二條ノ通路ヲ以テ其ノ全長ニ
沿フテ分割セラルルモノトシ此等ノ通路ハ町村地ノ主要廣場ノ中央ニテ交叉スルモノトス

第六十四條

地區ヲ隔離スル村道ハ幅員十六米突ノモノトシ此等ノ道路並前條ニ述ヘタル街道ノ占ムル面積ハ
各區劃ヲ形成スル四萬「ヘクター」ニ追加スルカ故ニ各地區ハ正確ニ百「ヘクター」ヲ有スルモ

ノトス

第六十五條

町村設定ニ充テラレタル地區ハ之ヲ一邊百〇八米突ヲ有スル二百五十六街廓ニ區分ス、但幅員十
米突ノ街路並町村地ヲ野外地區ヨリ隔離スル幅員二十四米突ノ周匠道路一條ヲ殘スモノトス

第六十六條

中央部ノ四街廓ハ主要廣場ヲ形成スルモノトシ其ノ前面ニハ公共建築物用トシテ二街廓ヲ保留ス
ヘシ

主要通路カ市町村地ヲ四區ニ分割スル其ノ各區ニ於テモ亦夫々一街廓ヲ廣場用ニ他ノ一街廓ヲ公
共建築用トシテ保留スヘシ殘餘ノ街廓ハ之ヲ一邊ノ長サ五十四米突ヲ有スル宅地ニ區分スヘシ

第六十七條

區劃ハ之ヲ平行セル列ニ分割スヘシト雖、若シ區劃相互ノ間ニ一區劃ヲ形成スルニ足ラサルカ又
ハ之ヲ形成スルニ便ナラサル土地ノ部分アルトキハ之ヲ最近ノ區劃ニ合併シ同一形式ニ依リテ之
ヲ細分スヘシ

第六十八條

凡テノ分割線ハ之ヲ南北及東西ニ正向セシムヘシ

第六十九條

區劃ノ測量、分割及境界標建設ニ從事スル測量技師ハ土地ノ位置、地形、天產物及其ノ農耕ニ適スル程度ニ就キ詳細ナル記述ヲ添附シタル設計圖ニ通テ勸業省ニ交付スヘシ
右設計圖並報告書ハ勸業省内ノ主管部ノ審査ニ付シ該部ノ意向ヲ確メタル上、同省ハ其ノ認可ヲ決スヘク、而シテ之ヲ認可シタルトキハ該區劃ノ敘述的報告書ヲ添ヘ其ノ設計圖一通ヲ植民事務局ニ送付スヘシ

測量並地區分割ノ爲締結スル契約書中ニハ各「バルテイド」(割地)ノ形式ニ於テ境界標建設ヲ爲スヘキ旨ヲ約定スヘシ

第七十條

聯邦行政部ハ區劃ノ探查、測量及分割上實行スヘキ一般計畫ニ關スル規則ヲ制定シ以テ此等ノ作業ヲ國有未墾地ノ地圖作成上ニ利用スルコトヲ得セシムヘシ

第三章 植民並土地ノ贈與、拂下及保留

第七十一條

聯邦行政部ハ植民用地ヲ定ムヘク而シテ此ノ植民事業ハ出來得ル限り既ニ移住者ノ存在スル地點又ハ其ノ位置ニ依リ當共和國ノ住民多キ中心地又ハ外國ト最迅速且容易ニ交通スルコトヲ得ヘキ場所ヨリ著手スヘシ

第七十二條

前條ニ記載スル場合ノ指定ヲ了シタルトキハ直ニ區劃ノ測量、分割、境界標建設及此等區劃ノ各個ニ於テ其ノ目的ノ爲ニ充當セラレタル地内ニ管理所用トシテノ建物ノ造營ニ著手スヘク右建物ハ少クトモ五十家族ヲ宿泊セシメ且移住者用ノ食料品及其ノ他ノ要具ヲ貯藏スルニ足ル包容力ヲ有スルコトヲ要ス

第七十三條

植民事務局ハ中央移民委員會ト一致シテ各區劃カ前條規定ノ條件ヲ具備シタルトキハ直ニ各區劃ニ就地スヘキ家族ノ輸送手續ヲ爲スヘシ

第七十四條

各區劃ニ定住スヘキ農業者ノ内最初ノ百家族ハ一戸毎ニ二十五「ヘクタール」ノ地區一個及十歲以上ノ子一名毎ニ土地十「ヘクタール」ヲ無償ニテ受領スヘシ

右贈與セラレタル地區ハ一區ツツノ間隔ヲ置キテ之ヲ分配スヘシ殘餘ノ野外地區ハ一「ヘクター
ル」ニ付十ノ割合ヲ以テ之ヲ拂下クルモノトシ其ノ代價ハ十年年賦ニテ毎年同額「ボリーヴァル」
ヲ支拂フヘク其ノ第一回拂込ハ植民後第二年末トス

右拂下ハ之ヲ地區ノ二分ノ一又ハ四分ノ一ニ限定スルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ同一人
ニ對シ地區四個以上ヲ拂下クルコトヲ得ス

第七十五條

宅地ハ一區十「ボリーヴァル」ノ割合ニテ之ヲ拂下クルモノトス

第七十六條

前數條ノ規定ニ拘ラス町村地區並野外地區ハ勸業省ニ於テ植民事務局ノ報告ヲ徵シタル上便宜ト
認メタル場合之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得、但シ其ノ基礎價格ハ前數條ニ示セル價格以下タルコト
ヲ得ス

第七十七條

宅地ノ拂下ハ一年內ニ之ニ定住シ且其ノ周圍ニ屏障ヲ設クヘキ條件ノ下ニ之ヲ行フヘシ又野外地
區ノ拂下若ハ贈與ハ五年內ニ多少ノ效果ヲ舉ケ少クトモ其ノ三分ノ二ヲ耕作スヘキ條件ノ下ニ之

ヲ行フヘシ此期間內少クトモ二年間繼續セル耕作ヲ爲シ土地ノ各部分ヲ占有スルコトヲ要ス

第七十八條

「ヴェネズエラ」國人又ハ外國ヨリ移住シタル凡テノ農業家族ハ植民ノ爲ニ開放セラレタル區劃內
ニ於テ各其ノ場合ニ應シ拂下若ハ贈與ノ方法ニ依リ一戸ニ付二十五「ヘクター」ノ地區及十歲以
上ノ子一名ニ付十「ヘクター」ヲ占有スルノ權利ヲ有ス凡テノ内國人及外國移民（譯註、家族ヲ
構成セサル單獨者）ハ購買ニ依リ面積百「ヘクター」ノ一地區ノ四分ノ一ヲ占有スル權利ヲ有ス
右購買ハ凡テ前條ノ條件ニ從フモノトス

第七十九條

拂下又ハ贈與ニ依リ地區若ハ其ノ部分ヲ占有スル家族若ハ個人ハ第七十四條ニ從ヒ更ニ他ノ地區
ヲ獲得スルコトヲ得但シ贈與又ハ拂下ヲ受ケタル土地ニ對シ守ルヘキ耕作條件ヲ遂行シタル上ニ
非サレハ新ニ地區ヲ獲得スルコトヲ得ス

第八十條

本章ノ施行上、假令子女ナキ者ト雖、適法ノ夫及妻ノ合致又ハ子女ヲ有スル父若ハ母又ハ少クト
モ三名同行スル兄弟姉妹又ハ孫ヲ同伴スル祖父若ハ祖母ハ之ヲ家族ト看做スヘシ

第八十一條

各移住者ニ對シ土地ノ位置並特許下付(コンセツション)ニ附帶スル諸條件ヲ明記シタル假證符ヲ交付シ所定ノ期間内ニ前記ノ條件ヲ履行シタル後ニ非レハ本地券ヲ下付セサルモノトス此義務ヲ履行セサルトキハ宅地ノ拂下及野外地區ノ贈與若ハ拂下ハ第七十七條ニ定メタル割合ニテ耕作ヲ爲ササリシ部分ニ對シテ之ヲ無効トス
無効ニ歸シタル宅地及地區又ハ地區ノ部分ハ之ヲ國家ノ所有ニ復歸セシム
行政部ニ於テ便宜ト認ムルトキハ宅地又ハ野外地區ニ居住シ若ハ之ヲ耕作スル爲定メタル期限ヲ延長スルコトヲ得

第八十二條

共有地ニ充當セラレタル地區ハ住民増加ノ爲必要トナリタル場合ニハ之ヲ拂下クルコトヲ得ヘシ尙之ト同時ニ村役場ハ該土地ヲ利用シテ飼養スル家畜並薪及木材ノ採取ニ課税シ又ハ牧畜者ノ農作用トシテ之ヲ貸下クルコトヲ得ヘシ

第八十三條

行政部ハ河川、湖沼、産鹽地、山岳又ハ森林ニ關シテ保存スルヲ便宜ト認ムル區劃若ハ其ノ内ノ地區ヲ保留スルコトヲ得

第八十四條

贈與又ハ拂下ヲ爲シタル野外地區ハ公益又ハ地益權ノ爲ニスル收用ニ關スル點ニ於テハ「ヴェネズエラ」國ノ一般法律ニ從フヘキモノトス
土地ノ形成狀態カ村道ノ規律的建設ヲ妨クルトキハ地區ハ相互ニ通路ノ地役權ヲ與フルノ義務ヲ負フヘキモノトス

第八十五條

第七十三條及第七十四條ニ規定セル植民ハ若外國ヨリ移民セル者ナルトキハ左ノ便益ヲ享受スルノ權ヲ有ス
第一、一年間無料ニテ住家ヲ供給スルコト
第二、請願ニ依リ前貸ノ性質ヲ以テ農業用器具及動物、種子、牧畜用動物及炎暑地ニ於テ少クトモ六月間、寒冷地ニ於テハ一年間必要ナル食物及住家建築ニ欠クヘカラサル材料又ハ是等物品ノ購入資金ヲ供給スルコト
右前貸金ハ植民一名ニ付千「ボリーヴァル」ヲ超エサルヘク五年年賦ニテ毎年同額ノ拂戻シヲ爲シ第一回支拂ハ植民後第三年ノ終リニ之ヲ行フヘシ

第八十六條

贈與又ハ拂下ヲ受ケタル地區若ハ宅地及其等ノ土地ニ行ヒタル建築竝耕作ハ其ノ土地代價及植民ノ爲ニ貸與シタル前貸金支拂ニ對シテ合法ニ抵當トナルモノトス右目的ノ爲ニハ本地券中ニ植民カ前記事項ニ關シテ尙債務ヲ有スル額ヲ掲記スルコトヲ以テ足ル

第八十七條

本地券發給前ニ於テハ地區若ハ宅地ノ代價又ハ前貸金トシテ植民ノ負擔トナレル金額支拂ノ爲ニセル合法ノ抵當ヲ害スルトキハ宅地又ハ地區ノ上ニ設定スル贈與、交換、賣却又ハ書入ノ契約ハ總テ無効トナルヘシ

第八十八條

假地券ハ植民地駐在官若ハ植民地村長ヨリ無料ニテ之ヲ交付ス本地券ハ勸業長官之ヲ下付ス

第八十九條

本地券下付ヲ請求スル願書ニハ左記ノ書類ヲ添附スヘシ

第一、當該假證符

第二、拂下又ハ贈與ヲ受クル爲附セラレタル諸條件ヲ履行シタル充分ナル證據書類

三、殖民地管理部トノ間ニ於ケル植民ノ貸借關係ノ清算書

第九十條

本地券ハ登記公定用紙及印紙稅ニ關スル法律ニ從フモノトス贈與セラレタル地區ハ此ノ點ニ關シテハ「ヘクタール」ニ付十「ポリーヴァル」ノ割合ヲ以テ之ヲ評價ス

第九十一條

既ニ農民ノ土地占有者アル地點ニ於テ區劃ノ測量及分割ヲ行フ場合ニハ右農民ノ土地占有者ハ各自左ノ權利ヲ有スヘシ

一、未墾地法ニ依ル權利

二、丁年以上ノ者ニ一名ニ付二十五「ヘクタール」ノ無償給付ヲ受クルノ權利

三、土地面積ノ大小ニ拘ラス現在農業ヲ以テ占有シタル土地ニ於テ妨害セラレサルコト、但シ如何ナル場合ニ於テモ通路ノ地役權及本法ニ從ヒ村道及主要道路設定ニ必要ナル土地ニ對シテハ其ノ義務ヲ負フモノトス

第九十二條

各區劃ノ住民ハ其ノ公有地又ハ私有地ノ何レニ發原スルヲ問ハス家事又ハ洗濯用トシテ必要ナル

泉水、樋水、河水等ヲ使用スルノ權利ヲ有シ及此等ノ水ヲ利用スルニ欠クヘカラサル溝渠ノ地役權ヲ有スヘシ

三四

此ノ權利ハ各町村ノ利益ト農業者及工業者ノ利益トヲ調和セシムルヤウ公平ニ之ヲ使用スヘキモノトス

第九十三條

區劃及分割ノ上植民用ニ供シタル區劃トノ中間ニ於テ四隅又ハ各邊ニ沿フテ境界標ヲ建設シタル一區劃ヲ未分割ノ儘殘シ置クヘシ

此等ノ區劃ハ之ヲ左記ノ用途ニ供スルモノトス

- 一、個人ノ企業ニ依ル植民事業ノ爲
- 二、若原住民土人アルトキハ之ヲ復歸セシムル爲

第九十四條

行政部ハ之ヲ出願スル各會社又ハ個人企業者ニ對シ左記ノ條件ノ下ニ前條規定ノ一區劃ヲ特許付與スルコトヲ得

第一、自費ヲ以テ本法ノ規定ニ從ヒ該區劃ノ分割ヲ實行スルコト

第二、二年内ニ少クトモ農民百家族ヲ定住セシムルコト

第三、最初ノ百家族ニ對シ第七十四條、第七十八條及第八十條ニ從ヒ一戸ニ付農業用地二十五「ヘクタール」ノ一地區及十歳以上ノ子一名毎ニ同種ノ土地更ニ十「ヘクタール」ヲ贈與スルコト

第四、第七十二條ニ規定セル條件ノ一建築物ヲ其ノ目的ノ爲ニ定メラレタル土地ニ建築スルコト

第五、各家族ヲ一年間無賃宿泊セシムルコト

第六、外國ヨリ移住シ來レル植民ニシテ之ヲ出願スル者アルトキハ前貸ノ性質ヲ以テ農業用鐵器具及諸道具、勞役並牧畜用動物、種子及少クトモ一年間食事ヲ供給スルコト、而シテ此等ノ前貸金ニ對シテハ實費ニ二割ノ割増金ヲ加ヘタルモノ及此等一切ノ金額ニ對スル年一割ノ單利ノ外ハ何等ノ徵收ヲ爲ササルコト

尙如何ナル場合ニ於テモ契約者ハ每家族ニ付金高一千「ポリーヴアル」以上ヲ供給スヘキ義務ナキモノトス

第七、本法ノ違反ヲ防止スル爲五年年賦ニテ毎年同額ノ支拂ヲ爲ス以外ノ方法ヲ以テ前貸金ノ回收ヲ要求セサルコト

第八、本法ノ違反ヲ防止スル爲植民ト締結スル契約ニ植民事務局ヲシテ干與セシムルコト

第九、植民地ノ監督管理及獎勵ニ關スル法律、布告及決定ニ服従スルコト
第十、二萬「ポリーヴァル」ノ金額ヲ供託スルカ又ハ此ノ金額ニ對シ充分ナル擔保ヲ提供スルコト
右金額ハ讓渡契約不履行ノ場合ニ之ヲ罰金ニ充當スルモノトシ尙其ノ理由アルトキハ該契約ヲ
廢棄スルヲ妨ケス

第十一、移民ノ乘船港ヨリノ船賃及其ノ上陸後植民地ニ移轉スル迄ノ其ノ他ノ費用ハ國費ヲ以テ
之ヲ支辨ス

第十二、第二ニ述ヘタル百家族ノ内少クトモ五十家族ハ外國ヨリ移民トシテ入國シタルモノナル
ヲ要ス

第十三、贈與セラレサル地區ノ拂下ハ本法ニ規定セル價格及期間ニ從フヘキモノトス
第十四、宅地ノ代價トシテ得タル收入ハ第四百四條ニ記載セル用途ニ之ヲ充當スヘシ

第九十五條

地區ノ價格並前貸金支拂ノ爲前數條ニ定メラレタル合法ノ抵當ハ植民事業經營者ノ爲ニ設定セラ
レタルモノト了解ス但シ此等ノ抵當ハ植民カ本法ニ從ヒ取得シタル部分ニ於テノミ之ヲ施行スル
コトヲ得ルモノトス

企業者カ其ノ合意シタル約束ヲ履行セシテ契約廢棄ノ理由ヲ構成シタルトキハ地區又ハ宅地ノ
代價ノ負債トナレル分ハ之ヲ國家ニ支拂フヘシ但シ企業者カ貸與シタル前貸金ノ回收ニ關シテハ
優先權ヲ有ス

第九十六條

區劃ノ特許下付(コンセツション)ハ常ニ契約ニ依リ之ヲ行フヘク其ノ契約中ニ企業者ハ前數條ニ
規定セル條件ヲ履行シ且其ノ付與セラレタル區劃内ニ在ル未墾地ノ現占有者ニ全然累ヲ及ホササ
ル義務ヲ明カニ負フ旨ヲ掲記スルモノトス此等現占有者ハ本法及未墾地法ノ許與スル總テノ權利
ヲ有スヘシ

第九十七條

一會社又ハ一企業者ニ對シ區劃一個以上ノ特許下付ヲ爲スコトナシ

第九十八條

行政部ハ植民ノ爲尙他ノ土地ヲ特許下付スルヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ總テ本章ノ規定ニ從フヘ

第九十九條

聯邦諸州モ亦植民企業者タルヲ得、但シ之ニ對シテハ擔保ヲ要求セサルモノトシ又諸州ハ土地取得ノ權利ヲ有セサルモノトス

第一百條

政府及植民企業者ハ夫レ夫レ各植民地ニ供給スル爲ニ食料品、鐵製道具類等ノ店舗ヲ設クヘシ如何ナル場合ニ於テモ植民ニ對シテハ五年間居住後ニ非サレハ商店ヲ開業スルコトヲ許可セス

第一百一條

契約ヲ履行シタル企業者ハ其ノ契約並前數條ニ依リ當然生スル總テノ權利ノ外尙左ノ權利ヲ有ス
第一、贈與セラレサル野外地區拂下ニ依ル收入

第二、企業者ノ費用ヲ以テ耕作セル土地及其ノ二倍ニ相當スル土地ノ所有權

第三、若特許ニ依リ付與セラレタル土地ノ少クトモ三分ノ一ニ生産的植物ヲ栽培セルコトヲ最初

ノ十年以内ニ行政部ノ判斷ニ依リ充分ニ證明セラレ且該企業者ニ依リ誘入セラレタル移民カ主

トシテ其ノ栽培ニ從事セルトキハ此等企業者ハ拂下ニ依リ植民ニ讓渡サレサル土地若ハ植民ニ

贈與セラレサル剩餘地ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ有ス

第一百二條

植民契約ノ存續期限ハ十年トシ右期限滿了ニ際シ政府ハ前條第二及第三ニ定ムル條件ヲ履行セサリシ土地及特許下付ニ附帶スル條件ヲ履行セサリシ植民ニ拂下又ハ贈與セル地區若ハ宅地ニ關シ當該植民地ノ經濟的管理ニ任スルモノトス

第四章 植民基金

第一百三條

植民基金ハ左ノ財源ヨリ成立ス

第一、豫算法ニ依リ本基金トシテ充當セラレタル金額

第二、野外地區ノ拂下ニ依ル收入

第三、契約不履行ノ植民企業者ニ對スル罰金ニ依ル收入

第四、植民ノ受領シタル前借金返濟額

第五、共有地ニ充テラレタル地區ノ拂下ヲ行ヒタルトキ生スル收入

第六、此ノ目的ニ充當セラルヘキ有ラユル他ノ收入

第一百四條

宅地拂下ニ依ル收入ハ總テノ場合ニ於テ專ラ其ノ地方公共の工事及公共事業ニ之ヲ充當ス

第一百五條

植民基金ハ植民地ノ監督、管理、獎勵及植民地ニ於ケル初等教育ノ普及、町村ノ衛生工事、交通機關ノ敷設及植民地ノ公益トナルヘキ其ノ他ノ工事、原住土人ノ復歸及法律ノ定ムル其他ノ目的ニ之ヲ充當ス

第一百六條

植民地管理者ハ行政部ノ指定スル個人又ハ官憲ヲ介シテ土地ノ拂下ヲ行ヒ且土地及前貸金ニ對スル約定竝拂込金ヲ受付クルモノトス

第五章 植民地獎勵

第一百七條

行政部ハ其ノ勤勉及勞働上ノ技能ヲ以テ顯著ナル植民、植民地ニ或ル農產業、林業、又ハ淡水養魚業ヲ創設シタル植民、農業又ハ工業上ノ方法ヲ發明スルカ若ハ現存スル方法ニ改良ヲ施ス植民又ハ未タ當國ニ知ラレサル此ノ種ノ方法ヲ植民地ニ紹介スル植民ニ對シ新地區ヲ無償ニテ付與シ又ハ現金ヲ以テ賞金ヲ下付スル方法ニ依リ植民地ニ於ケル農業ノ發達ヲ獎勵スルコトヲ得

第一百八條

其ノ定住後最初ノ五年内ニ在ル總テノ植民ハ其ノ付與セラレタル土地ニ栽植シテ現ニ之ヲ有スルコトヲ立證スルニ於テハ「カカオ」樹一千本毎ニ、又ハ珈琲樹一千五百本毎ニ、又ハ「シダー」樹若ハ良材ヲ産スル他ノ樹木若ハ護謨樹五百本毎ニ、又ハ有ラユル種類ノ果樹一千本毎ニ各五十「ポリーヴァル」ノ賞金ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノトシ此ノ賞金ハ如何ナル場合ニ於テモ中央政府ヨリ之ヲ植民ニ下付スルモノトス

第一百九條

植民地ハ之ニ當該駐在官(譯註、即チ植民地長)ヲ設置シタル日ヨリ起算シ十年間工業許可税ノ納付ヲ免除セラルヘシ

第六章 植民地ノ管理

第一百十條

行政部ハ區劃ノ測量竝分割終了後直ニ駐在官又ハ植民地村長ヲ任命スヘシ、而シテ此ノ駐在官又ハ植民地村長ハ該區劃ノ行政及警察官憲ニシテ地區ノ管理、植民ノ配置及統計ノ調製ヲ掌リ且其ノ部下トシテ聯邦行政部カ便宜ト認ムル職員ヲ有スルモノトス尙第七十二條ニ述ヘタル建築物ノ建設ニ必要ナル勞働者ノ一組又ハ數組及公安秩序ノ維持、植民地ノ防備竝今後決定セラルヘキ其

ノ他ノ目的若ハ作業ノ爲必要ナル吏員ヲ置クコトヲ得

第一百十一條

行政部ハ特別布告ニ依リ且本法ニ從ヒ凡テノ細目ニ互リテ植民地ノ一般行政ニ關スル規則ヲ制定スヘシ

第一百十二條

植民地ニシテ一千名ノ植民定住セルトキハ當該管轄ニ屬スル「パロキア」(譯註、小自治區)又ハ「ムニシピオ」(譯註、大自治區)ヲ組織スヘシ

第一百十三條

經濟、警察並衛生上ノ管理ハ當分ノ間之ヲ聯邦行政部ノ管轄トス

第一百十四條

行政部ハ各植民地ニ對シ特別布告ヲ以テ義務的衛生規則ヲ制定スヘク此ノ規則編成ノ爲ニハ熱帶地疾病及之ヲ豫防撲滅スル方法ニ關スル最新知識ヲ基礎トスヘシ

第一百十五條

各植民地ニ醫師一名ヲ置クヘク此ノ醫師ハ藥劑師ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第一百十六條

各植民地ハ三十家族定住シタルトキヨリ小學校一箇所ノ設立ヲ請フノ權利ヲ有ス

第一百十七條

各植民地ニ評議會ヲ置ク其ノ職務範圍左ノ如シ

コト

第一、植民地内ニ認ムル不秩序ニ關シ之ニ適當ト思考スル匡救方法ヲ指示シテ行政部ニ報告スル

第二、各植民地ノ衛生規程及其ノ他ノ特別法又ハ一般的法律ノ缺陷ヲ指示シ之カ匡正方法ヲ上申スルコト

第三、行政部ニ對シ植民地ノ利益ニ關スル有ラユル案件又ハ事項ニ就キ一切ノ指摘ヲ爲スコト

第四、行政部ノ布告ニ依リ定メラルル其ノ他ノ職務

第一百十八條

前記評議會ハ植民中ヨリ互選セラレタル五名ノ委員ヨリ成立シ毎年之ヲ改選ス但シ其ノ再選ヲ妨ケス

第一百十九條

行政部ハ其ノ爲シ得ラルル範圍内ニ在ル有ラユル方法ヲ講シテ各植民地ニ植民協同組合ノ設立ヲ計ルヘシ此ノ協同組合ハ植民ノ必要ヲ感スル事項、信用、貯金、保險、賣買及耕作上ノ改善等ニ於ケル仲介兼指導機關トナルヘキモノニシテ植民ニ對シ其ノ共通利益ノ爲相互救済及協力ノ精神的便益ヲ供與スルモノトス

此ノ目的ノ爲行政部ハ組合員カ政府ノ干與又ハ援助ナクシテ之ヲ統理スルニ必要ナル實驗ヲ有スルニ至ル迄ノ間此等組合ノ運用ヲ開始セシムル結果ヲ生スヘキ布告及決定ヲ發布スヘシ

第二百二十條

行政部ハ本法ノ最善ナル施行ノ爲必要ト信スル其ノ他ノ布告並規則ヲ制定スヘシ

第七章 牧畜及工業植民地

第二百二十一條

行政部ハ適當ト信スル地ニ牧畜及工業植民地ヲ創設スルコトヲ得ヘク其ノ設立及組織ニ關シテハ本法ノ精神ニ則リ且應用シ得ラルル限り其ノ規定ヲ適用セル特別布告ヲ以テ之カ規則ヲ制定スヘシ

第八章 植民地ノ性質ヲ有スル町村

第二百二十二條

未墾地ニ於テ定住セル土地占有者ヨリ成ル町村ハ左記ノ條件ヲ具備セルトキ本章ニ列記セル便益ヲ獲得スルコトヲ得

第一、各住家ヲ有スル家族少クトモ三十戸定住セルコト

第二、少クトモ一萬「ヘクタール」ノ面積ヲ有スル一ノ區劃ヲ設定スル爲充分ナル未墾地ヲ同一州ノ管轄區域内ニ有スルコト

第三、土地占有者ハ聯邦行政部ノ任命スル一測量技師カ行フヘキ該區劃ノ測量、分割及境界標建設ノ費用ヲ支拂フヘキコト

此ノ測量並分割ハ本法ニ規定セル所ニ從ヒ之ヲ行フト雖農業ヲ以テ現ニ占有セル土地ハ之ヲ尊重スヘキモノトス

第二百二十三條

前條ノ條件ヲ具備シタルトキハ各住民ハ土地占有者ノ爲ニ第九十一條ニ記載セラレタル權利ヲ得ヘク又測量及分割ノ爲ニ必要ナル金員ヲ提供シタル者ハ一「ヘクタール」ニ付代價十「ボリーヴァ」ル「割合」ヲ以テ野外地區ニテ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有ス

土地占有者タル住民ハ本條記載ノ金員ヲ提供スル爲優先權ヲ有スヘシ

四六

第二百二十四條

本章規定ノ效果ヲ得ンカ爲ニスル測量及分割ハ戶主タル住民十名若ハ十名以上ノ署名セル願書ヲ以テ行政部ニ對シテ之ヲ出願スヘシ右願書ニハ該地ニ於テ三十家族又ハ三十家族ノ者カ定住セルコト及該地ニハ同一州ノ管轄區域内ニ面積約一萬「ヘクタール」即少クトモ四平方「レグア」ノ未墾地アルコトヲ證示スルニ充分ナル證據書類ヲ添附スルコトヲ要ス

行政部ハ之カ許否ヲ決定スル爲植民事務局ノ意見及當該州知事ノ意見、竝若便宜ト認ムルトキハ中央移民委員會ノ意見ヲ徵スヘシ

第二百二十五條

測量及分割實行セラレ且設計圖及報告カ承認セラレタルトキハ行政部ハ本法ニ從ヒ拂下ニ充テラルヘキ地區及宅地ノ管理方法ヲ講シ贈與又ハ代金支拂ニ依リ住民カ受領スヘキ地區ヲ之ニ引渡ス處置ヲ執リ且住民間ニ協同組合ノ設立ヲ計ルヘシ

第二百二十六條

政府カ前條ノ規定ニ從ヒ管理ニ著手シタルトキハ本章ニ規定スル區劃ハ適用シ得ラルル限り本法ノ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ植民ニ開放スヘシ但シ外國ヨリ移民シ來レル者ニ對スル外ハ無償ニテ他ノ地區ヲ付與シ又ハ前貸金ヲ爲スコトナク尙外國ヨリ移民シ來レル者ト雖最初ノ年ニ住家無料ノ權利ヲ有セサルモノトス

第二百二十七條

地區ノ無償下付及援助ヲ與フルハ最初ヨリ定住セル家族數ヲ増加シテ百家族ニ達セシムル爲其不足セル外國ヨリノ移住家族數ニ對シテノミ之ヲ行フモノトス

附 則

本法ニ述フル植民地建設ノ爲ニハ常ニ當該州當局者ト協調シテ之ヲ行フヘシ

第二百二十八條

千九百十二年六月二十六日附移民法及移民ニ關スル他ノ規則ハ總テ之ヲ廢止ス

千九百十八年、獨立年紀第九年、聯邦年紀第六十年六月二十日

四七

在「カラカス」聯邦立法府ニ於テ之ニ署名ス

議長 ホタ・デ・デー・メンデス・イ・メンドサ

副議長 エレ・ガルメンディア・エレ

書記官 ヘ・テレーロ・アタイエンサ

書記官 エネ・ポムピリオ・オスナ

千九百十八年、獨立年紀第百九年、聯邦年紀第六十年六月二十六日

在「カラカス」聯邦政廳ニ於テ

本法施行ヲ命ス

ヴェ・マルケス・ブステイリョス (大統領 署名)

ヘ・トーレス (勸業長官 副署)

二、「ヴェネズエラ」合衆國外國人法

第一章 住所及居所

第一條

「ヴェネズエラ」合衆國領土ハ凡テノ外國人ニ對シ之ヲ開放ス

第二條

外國人ハ既ニ規定セラレタルカ又ハ將來規定セラルルコトアルヘキ例外ヲ除キ「ヴェネズエラ」人ト同一ノ私權ヲ享有ス而シテ當該官憲ニ對シ此等ノ權利ヲ有效ナラシムル爲ニハ所定ノ要件ニ從フヘク然ル上ハ共和國法律ノ定ムル保障ヲ享受スヘシ

第三條

「ヴェネズエラ」合衆國領土ニ現在スル外國人ハ之ヲ居住者又ハ旅行者トス

第四條

外國人ノ住所ヲ決定スルニハ民法ノ規定ヲ適用ス

第五條

「ヴェネズエラ」ニ到着スル外國人ハ十五日以内ニ其ノ居所ノ最高行政官憲ノ面前ニ出頭スルノ義務ヲ有スルモノトシ信憑スヘキ方法ヲ以テ本人ニ相違ナキコトヲ立證シ且「ヴェネズエラ」ニ定住スルノ意志ヲ有スルヤ否ヤ及其ノ從事セントスル職業及職務ヲ明示スヘシ
行政官憲ハ該手續終了ニ關スル始末書ヲ作成シ其ノ寫ヲ内務長官ニ送付スヘシ

第六條

外國人ハ其ノ身體並所有財産ニ關シ「ヴェネズエラ」人ト同一ノ義務ニ服スヘシ但シ兵役ノ義務及戰爭ニ因ル個人的非常強制課金ノ納付ヲ免除セラルヘシ

第七條

外國人ハ「ヴェネズエラ」ノ國事ニ關シテ嚴正中立ヲ保持スヘク其ノ結果トシテ左記ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 第一、政治的結社ニ加入スルコト
- 第二、政治ニ關スル定期刊物ヲ編輯シ且「ヴェネズエラ」ノ政治ニ關シテ執筆スルコト
- 第三、共和國ノ内争ニ直接若ハ間接ニ干係スルコト
- 第四、當國ノ政治ニ關スル演說ヲ爲スコト

第八條

此ノ中立ヲ犯ス外國人ハ有害者ト看做シ憲法ニ從ヒ之ヲ當共和國領土外ニ追放スルコトヲ得

第九條

外國人ハ官公吏タルコトヲ得ス但シ聯邦行政部ハ共和國憲法第五十八條第十六ニ從ヒ國營慈善事業、公衆衛生及文武教育ニ關スル部門ニ於テ外國人ヲ共和國ノ事務ニ任用スルコトヲ得ヘキ權能ヲ有ス

第十條

各獨立州知事、聯邦府知事及各聯邦直轄州知事ハ各其ノ管轄區域内ノ外國人ニシテ共和國ノ事件ニ關係スル者アルコトヲ知リタルトキハ其ノ事實ヲ立證スルニ必要ナル調査ヲ行ヒ最後ノ決定ヲ受クル爲一件書類ヲ聯邦行政部ニ送付スヘシ

第十一條

居住外國人タルト旅行外國人タルトヲ問ハス當該官憲ニ對シ法律上ノ手續ヲ了シ而カモ裁判ヲ拒絶セラレタルコト明確ナラサル限リ外交手續ニ訴フルノ權利ヲ有セサルモノトス

第十二條

外國人ハ合法ニ成立セル官憲カ其ノ公然ノ資格ヲ以テ戰時中故意ニ蒙ラシメタル損害ニ對シ「ヴェ
ネズエラ」人ト等シク之カ賠償ヲ國家ニ要求スルノ權利ヲ有ス此等ノ要求ハ其ノ損害ヲ立證シ且
正當ニ評價スル爲國內法ニ於テ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ行フヘキモノトス

第十三條

外國人ハ「ヴェネズエラ」人カ爲シ得サルト等シク或革命ノ任務ニ從事セル吏員又ハ武装團體カ蒙
ラシメタル損害ニ對シ「ヴェネズエラ」政府ニ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス但シ其ノ損害ヲ蒙ラシメ
タル者ヲ相手取リテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條

外國人ノ蒙リタル損害ニ對スル要求ハ若此等要求カ本法ニ適合セサルトキハ之ヲ審理セサルモノ
トス

第二章 入國禁止

第十五條

左ニ掲クル者ハ「ヴェネズエラ」國領土内ニ入ルコトヲ禁ス

第一、本人ノ現在セルコトニ依リ當共和國內ノ秩序ヲ紊亂シ又ハ國際關係ヲ妨クル虞アル外國人

第二、移民法ニ規定セル入國拒絕ノ原因ノ孰レカニ該當スル外國人、但シ當國內ニ其ノ居所ヲ永

久的ニ定ムル意志ヲ有セシテ渡來スル外國人及國際條約又ハ協定ニ於テ明白ニ除外セラレタ

ル外國人ハ此ノ禁止中ニ含まサルモノトス

第三、「ヴェネズエラ」國ノ法律カ之ヲ犯罪ト看做シテ處罰スル或普通犯罪（譯註、國事犯ヲ除キタ

ル以外ノ犯罪）ヲ犯シタル外國人

第四、生計ノ手段又ハ生計ノ資ヲ得ル爲ノ職業ヲ有セサル外國人

第五、他ノ船客ノ監督ヲ受ケスシテ渡來スルカ又ハ當國內ニ居住スル者ノ保護ニ委託セラレサル

十六歳未滿ノ外國人

第六、政治的若ハ公民ノ秩序ニ背反スル目的ヲ有スル結社ニ屬スルカ又ハ政府ノ急激的顛覆若ハ

官公吏ノ暗殺ヲ宣傳スル外國人

第七、其ノ程度ノ如何ヲ問ハス癩病「トヲホーム」、精神錯亂、癩癩ニ罹レル外國人若ハ公衆衛生ニ

害ヲ及ホスノ虞アル慢性病ニ罹レル外國人

第十六條

入國禁止ノ宣言ハ共和國大統領令ヲ以テ之ヲ行ヒ内務長官之ニ副署シ尙官報ヲ以テ之ヲ公表ス

第十七條

聯邦行政部カ外國人ノ入國ヲ禁止シタルトキハ其領土内ニ進入スルヲ防止スヘキ處置ヲ講スヘシ
又ハ本人カ既ニ入國セル場合ニハ之ニ即時退去ヲ命スヘシ

第三章 外國人ノ國外追放

第十八條

外國トノ戰爭又ハ内亂若クハ正當政治機關ニ對スル武裝セル叛亂ノ場合ニハ豫メ公安ノ攪亂セラ
レタルコトヲ宣布シタル後共和國大統領ハ平和克復ニ反對ナル外國人ヲ假令本人カ當國內ニ不動
産ヲ所有スル場合ト雖逮捕シ監禁シ若ハ國外ニ追放スルコトヲ得

第十九條

平時「ヴェネズエラ」國內ニ不動産ヲ所有セサル有害外國人ハ之ヲ國外ニ追放スルコトヲ得

第二十條

左ニ掲クル者ハ之ヲ有害者ト認ム
イ、入國許可ニ關スル規則ヲ犯シテ當國領土内ニ入りタル外國人
ロ、公安秩序ヲ害スル外國人

ハ、「ヴェネズエラ」國ノ立法ニ依リ犯罪ト看做サレ處罰セララルヘキ犯罪ニ就キ他國ニテ刑ノ宣告
ヲ受ケタルカ又ハ外國ニ於テ裁判繫屬中ノ外國人、但シ政治犯ノ性質ヲ帶フル犯罪ニ關スル者
ハ此ノ限ニ在ラス

ニ、國際關係ヲ亂ス外國人

ホ、第七條ノ規定ノ孰レカニ違反シテ嚴正中立ヲ守ラサル外國人

第二十一條

政治上ノ理由ニ依リ難ヲ避ケテ在留セル外國人ニシテ行政部カ其ノ居所ノ爲或町村ヲ指定スルカ
又ハ一定ノ場所ニ赴クコトヲ禁シタル者カ若此ノ措置ニ違反スルトキハ之ヲ國外ニ追放スルコト
ヲ得

第二十二條

刑事裁判ニ依リ刑ノ宣告ヲ受ケタル外國人ハ其ノ放免後當共和國ヨリ追放セララルヘシ

第二十三條

國外追放ノ宣言ハ共和國大統領令ヲ以テ之ヲ行ヒ内務長官之ニ副署シ尙官報ヲ以テ之ヲ公表ス

第二十四條

國外追放ノ大統領令ニ於テハ被追放人ニ一定ノ期間ヲ與フヘク右期間ハ本人ヲシテ當國ヨリ退去セシムル爲三日以上三十日以内ニ於テ該令中ニ之ヲ定ムルモノトス
公安維持ノ手段トシテ急ヲ要スル場合ニハ本人カ當國ヨリ退去スル迄之ヲ拘禁スルコトヲ得ヘシ

第二十五條

「ヴェネズエラ」國內ニ商業又ハ工業用施設物ヲ有スル外國人ニ關スル場合ハ聯邦行政部ノ裁量ニ依リ前條ニ規定セル期間ヲ延長シ被追放人ヲシテ本人自ラ又ハ委任ノ方法ニ依リ該施設物ノ清算ヲ行フ爲出來得ル限りノ便宜ヲ與フルコトヲ得

第二十六條

若外國人カ國外追放令中ニ定メラレタル期間内ニ「ヴェネズエラ」國領土ヲ退去セサルトキハ直ニ之ヲ乗船セシムルカ又ハ之ヲ國境ヘ送致スル措置ヲ執ルヘシ

第二十七條

如何ナル場合ニ於テモ被追放人ハ本人ヲ追究スル政府ノ管轄ニ屬スル領土ニ到達スヘキ通路ニ依リ國外ニ退去スルコトヲ強制セラルルコトナシ共和國大統領ハ隨時國外追放令ヲ取消スルコトヲ得

第二十八條

入國禁止若ハ國外追放令ニ對シテハ何等ノ訴願ヲ許サス

第二十九條

被追放人カ「ヴェネズエラ」國ノ國籍ヲ有スルコトヲ主張スル場合ニハ本人ハ其ノ所在地ヨリ共和國首府ニ達スル爲ニ要スル時日ヲ除キ五日以内ニ聯邦大審院ニ向テ其ノ國籍ヲ證明スルノ義務ヲ有ス如何ナル場合ニ於テモ立證ノ爲右期間ヲ延長スルコトヲ許サス

第三十條

國外追放令ヲ發セラレタル外國人ハ其ノ所在地ヨリ出發ヲ待ツ間、又ハ陸上旅行中、又ハ船舶カ全ク「ヴェネズエラ」國ノ領水ヲ離ルル迄船内滞在中、又ハ「ヴェネズエラ」國人タルコトヲ立證スル迄各其ノ場合ニ應シ豫戒的ニ之ヲ拘禁スルカ若ハ之ヲ官憲ノ監視ニ付スルコトヲ得

第四章 入國禁止及國外追放ニ關スル一般規定

第三十一條

外國人ノ入國禁止又ハ國外追放ヲ命スル大統領令ハ本人現住地ノ最高行政官憲ヲ通シテ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第三十二條

入國禁止令及國外追放令ハ之カ履行ヲ期スル爲之ヲ各獨立州知事、聯邦府知事及各聯邦直轄州知事、外務長官、大藏長官、陸海軍長官ニ通牒スヘシ

第三十三條

入國禁止又ハ國外追放ハ若シ當共和國ト當該外國人ノ所屬國間ノ條約中ニ規定アルトキハ該條約ノ規定ニ遵ヒ之ヲ處理スヘシ

第三十四條

入國ヲ禁止セラレ又ハ國外ニ追放セラレタル外國人ニシテ再ヒ「ヴェネズエラ」國領土ニ入りタル者ハ之ヲ聯邦大審院ニ告發シ一月以上六月以下ノ禁錮ニ處スヘシ
此ノ手續ハ刑事訴訟法上ノ普通手續ニ依ル、尙刑期滿了後直ニ之ヲ「ヴェネズエラ」國領土ヨリ退去セシムヘシ

第三十五條

聯邦行政部ハ本法ニ依リ付與セラレタル權能ヲ行使シタル事件ニ就キ毎年之ヲ上下兩院ニ報告スヘシ

第三十六條

本法ノ規定ハ行政處分及單純ナル警察上ノ手段トシテ認メラレタル外國人追放ニ關スルモノニシテ刑法ニ依ル刑罰トシテ法律ニ規定セル手續ニ依リ當該裁判所ノ與ヘタル宣告ニ依リテノミ課セラルル追放ト毫モ牴觸セサルモノトス

第三十七條

千九百十五年六月三十日ノ「外國人法」及千九百十八年六月二十一日ノ「外國人ノ入國許可及國外追放法」ハ之ヲ廢止ス

千九百十九年、獨立年紀第百十年、聯邦年紀第六十一年六月十三日

「カラカス」市聯邦立法院ニ於テ之ヲ作成ス

議長 カルロス・エフ・グリサンテイ

副議長 エレ・ガルメンディア・エレ

書記官 バプロ・ゴドイ・フォンセカ

書記官 ラファエル・エセ・ソルド

補款

既婚ノ女又ハ離別セル女(譯註、裁判ノ結果、同様セサルモ尙法律上夫婦關係ヲ有スル者ヲ云フ)ハ各其ノ場合ニ應シ其ノ夫又ハ裁判所ノ承認書ヲ又無能力者ハ各其ノ本國法ニ從ヒ法定代理人及司法官憲ノ承認書ヲ提出スヘシ

第三條

聯邦行政部ハ願書ヲ査閲シタル上若シ適當ト認ムルトキハ大統領令ヲ以テスル歸化證ヲ發給スヘク而シテ外務長官ハ其ノ旨ヲ當該登錄簿ニ記入セシムヘシ

第四條

歸化ノ效力ハ左記ノ場合ヲ除キ全ク各本人限りノモノトス

第一、歸化人ノ未成年ノ子ハ成年ニ達スル迄父又ハ母ニ對スル歸化ノ效力ヲ享受スヘク而シテ若シ聯邦行政部又ハ在外共和國公務執行員ニ對シ成年ニ達シタル翌年中ニ反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ引續キ之ヲ「ヴェネズエラ」國人ト認ムヘシ

第二、歸化人ノ妻及成年ニ達シタル子ハ第二條ニ掲クル願書ニ連署スル唯一條件ヲ以テ國籍證

(譯註、第一條ニ記セル歸化證ト別語ヲ使
用セルモ其ノ實同物ナラサルヘカラス)ニ併記セラルルコトヲ得

第五條

歸化允許ノ大統領令カ官報ニテ公布セララル迄ハ國籍ハ之ヲ取得シタルモノト認メス又如何ナル場合ニ於テモ遡及力ヲ有セス

第六條

歸化申請中ニ死亡セル外國人ノ寡婦及成年ニ達シタル子ハ其ノ願書カ法律ニ合致シ且第二條ノ要求スル立證事項ヲ添附スルニ於テハ單ニ願書ノ確認ヲ爲スノミニテ歸化證ヲ獲得スルコトヲ得ヘシ

第七條

完全ニ且自由意志ヲ以テ他國ノ國籍ヲ取得スルトキハ「ヴェネズエラ」國ノ國籍ヲ喪失ス

補款

外國ニ歸化セル「ヴェネズエラ」國人ニシテ二年間共和國領土内ニ其ノ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ外國ノ國籍ヲ拋棄シテ新ニ「ヴェネズエラ」國ノ國籍ヲ取得セルモノト推定ス

第八條

一ノ立法ノ特定效力ヲ一時免カルルノ目的ヲ以テ行ヘル國籍ノ變更ハ凡テ詐欺ニシテ無効トス

第九條

「ヴェネズエラ」國人ト婚姻スル外國ノ女子タル未成年ノ外國人ハ憲法第十三條 第四（譯註、千九百十四年六月十三日ノ改正憲法ニ依レハ第十條 第四トナル）ニ從ヒテ其ノ母ト共ニ國籍ヲ取得シ及喪失スヘシ但シ官憲ニ對シ且本法第四條第一ニ定ムル期間内ニ於テ單ニ其ノ意志表示ヲ爲スノミニテ兩者孰レカノ國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

第十條

外國人ノ歸化ニ關スル千八百六十五年六月十三日及千八百八十二年五月二十五日ノ法律ハ全部之ヲ廢止ス

千九百十三年、獨立年記第四百四年、聯邦年記第五十五年五月十五日

「カラカス」市聯邦立法院ニ於テ之ヲ作成ス

議長　ホセー・イグナシオ・ラレス

副議長　デルフィン・ア・アギレラ

書記官　エメ・エメ・ボンテ

書記官　サムエル・エ・ニニヨ

千九百十三年、獨立年記第四百四年、聯邦年記第五十五年五月二十四日

「カラカス」市聯邦政廳ニ於テ

本法施行ヲ命ス

ホタ・ヴェゴメス（大統領 手署）

内務長官　セ・スメタ（副 署）

貴族院
函
号
冊

亞爾然丁共和國移植民ニ關スル法律及大統領令

附錄

外來移民又ハ外國人ト亞爾然丁國ノ國法

從來譯文又ハ外國人ト亞爾然丁國ノ圖書
附 録

亞爾然丁共和國憲法ニ關スル法律又ハ大總統令

凡 例

- 一、本編ニ收ムル移植民法第一編移民法及之ニ關聯スル移民上陸細則、同附則、其ノ他ノ大統領令全部ヲ除キ、同第二編植民法、土地法、同施行細則、農牧用借地契約法、鑛地發見届ニ關スル大統領令、及附録ハ在亞爾然丁國帝國公使館荒井通譯官ノ調査纂譯セルモノナリ
- 一、移植民法中第二編植民法ハ、外國移民ニ關スル規定ヲ除キ、他ノ類似法ト共ニ千九百三年一月八日公布土地法ノ實施ト同時ニ廢棄ノ状態トナリ單ニ手續ニ關スル事件ノ解決ニ對シテノミ其效力ヲ有スルコトトナレリ、乃チ植民法ニ關シテハ土地法ヲ主トスレトモ今參考ノ爲植民法ヲモ併セ掲ケタリ
- 一、本編ハ前記ノ如ク前後譯者ヲ異ニセル爲、多少字句ノ修正ヲ加ヘシト雖、尙文體ノ統一ト譯語ノ一致ヲ缺クモノアリ、讀者焉ヲ諒セヨ

第十章 移民基金……………二〇

第二編 植民法……………二三

第一章 土地植民局……………二三

第二章 聯邦領及其區劃……………二五

第三章 土地ノ開拓、給與、拂下及保留……………二九

第四章 聯邦領内ノ土地及其開拓收入……………三七

第五章 國有植民地ノ獎勵……………三九

第六章 植民地ノ行政……………三九

第七章 縣有及私有植民地……………四一

二、移民ニ關スル大統領令……………四五

(イ) 入國移民上陸細則……………四五

(ロ) 入國移民上陸附則……………五六

(ハ) 移民法第三十二條規定ノ傳染病ニ關スル令……………五八

(ニ) 移民法第三十二條ニ關スル細則……………六一

(ホ) 移民法第三十二條ニ關スル細則第二條ノ解釋令……………六五

(ヘ) 河川通航汽船ニ於ケル特許乗船券ニ關スル令……………六八

(ト) 岬角内方ノ外國諸港ヨリ來ル船舶ニシテ旅客及移民ヲ輸送スルモノニ
關スル令……………七一

(チ) 外來移民入國規則ヲ一等船客ニ適用スル件……………七五

(リ) 船員上陸取締令……………七六

(ヌ) 亞國渡航者ハ亞國領事ノ發給セル鑑識證必携ノ事……………八一

三、土地法……………八三

四、土地法施行細則……………九一

第一章 農村及農業植民地……………九二

第二章 牧畜用「ロット」ノ直賣……………九八

第三章 土地ノ貸付……………一〇二

第四章 土地ノ公賣……………一〇七

第五章 總 則……………一一一

土地法施行細則第十六條中改正令……………一一五
 同一「ロット」ニ對シ一人以上ノ請願アリタル場合ヲ規定スル大統領令……………一一六
 五、農牧用借地契約法……………一一九
 六、聯邦領内ニ於ケル鑛地發見届ニ關スル大統領令……………一二七

附 錄

一、外國移民ト亞國憲法……………一三一
 二、外國人ト亞國憲法……………一三二
 (一) 亞國憲法第二十條(外國人ノ權利義務)……………一三二
 (二) 亞國憲法第十四條(共和國住民從業ノ自由)……………一三二
 (三) 亞國憲法第十五條乃至第十九條(共和國住民ノ對人的保障)……………一三三
 三、亞國國籍法……………一三七
 第一章 亞爾然丁國人……………一三七
 第二章 歸化人……………一三八
 第三章 市民權取得手續及要件……………一三九
 第四章 亞國人ノ公權……………一四〇
 第五章 通 則……………一四一
 四、歸化ノ效果(權利義務)……………一四二
 A、權 利……………一四二
 一、選舉權……………一四二
 二、被選舉權……………一四四
 三、就職權……………一四五
 B、義 務……………一四五
 一、服役ノ義務……………一四五
 二、歸化人ノ服役……………一四六
 五、外國人退去命令法……………一四七
 六、亞國罪人引渡法……………一四八
 第一章 罪人引渡ノ場合……………一四八

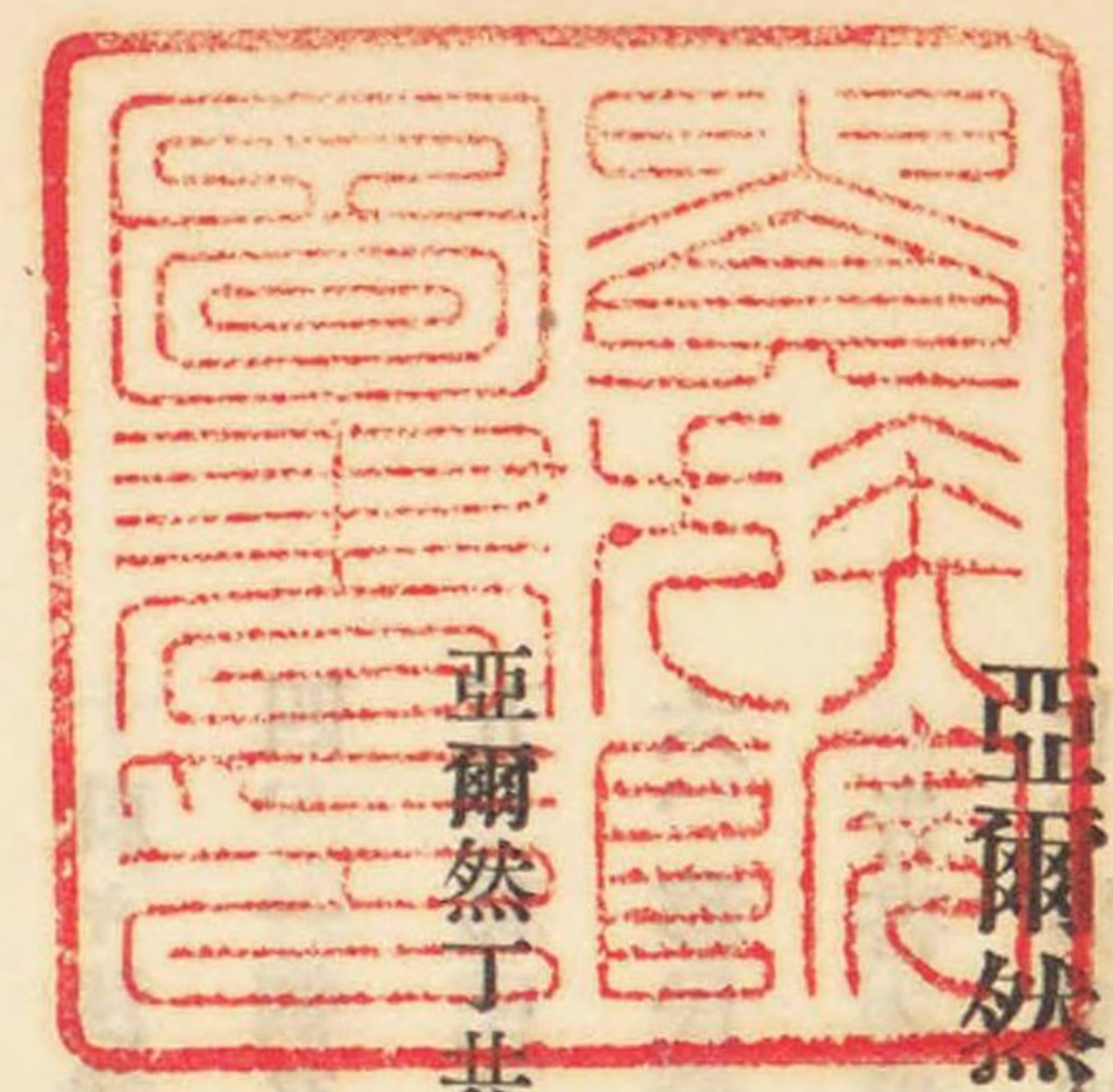
第二章 罪人引渡ノ請求……………一五一

第三章 雜則……………一五六

七、遺言ヲ爲サスシテ死亡セル外人遺産處分ニ對シ當該國領事
ノ干涉範圍ヲ定ムル法律……………一五九



亞爾然丁共和國移植民ニ關スル法令



一、移植民法(千八百七十六年十月九日
法律第八百十七號)
亞爾然丁共和國上院及下院ハ議會ニ於テ本法ヲ可決シ之ヲ公布ス

第一編 移民法

第一章 移民局

第一條

內務省直轄ノ下ニ移民總務局ヲ設置ス

(譯註、法律第三千七百二十七號ニ依リ移民局ハ農商務省ノ直轄トナレリ)

第二條

移民總務局ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 局長 一名
- 書記官 一名
- 出納官 一名
- 書記 二名
- 事務員 二名
- 守衛 一名

右職員ノ定員及其ノ増減ハ事務ノ必要ニ應シ豫算法ニ依リ之ヲ定ム

第三條

移民總務局ハ左記ノ職務及職權ヲ有ス

- 一、其最モ有效有利ナル方式ニテ移民ノ獎勵及國內分配ニ關シ在外共和國移民事務官、移民局直轄地方移民支局其ノ他各種ノ内國官憲ト直接敏活ナル通信ヲ保ツコト
- 二、忠實ニシテ勤勉ナル移民ヲ保護スルコト、且不良又ハ無用ナル移民ノ入國防止ノ方法ヲ勸告スルコト
- 三、移民輸送船ヲ検査スルコト、且移民宿泊、給養、待遇、衛生施設及其ノ安寧ニ關スル諸點ニ就キ法律ノ規定ヲ嚴守セシムルコト
- 四、一個又ハ數個ノ船會社ト移民ノ輸送契約ヲナスコト、但右契約ハ政府ノ認可ヲ要ス
- 五、移民ノ上陸及其ノ手荷物ノ陸揚ニ干渉スルコト
- 六、移民輸送船ノ船長ニ對シ移民名簿、移民ノ旅券、證明書類、船荷證券其ノ他必要ト認ムル報告書ノ提出ヲ要求スルコト
- 七、勞働周旋所ヲ經テ移民ノ就職ヲ斡旋スルコト

八、移民ノ亞内地移住ヲ獎勵シ且之ヲ容易ナラシムル爲凡テノ手段ヲ竭スコト

九、内地移住ヲ希望スル移民ニ對シ國費ヲ以テ乘船及輸送ヲ行フコト

十、移民輸送契約ノ不履行、虐待、其ノ手荷物又ハ携帶品等ニ損害ヲ蒙リタル等ノ事項ニ因リ移民カ内國官憲ニ向テ提起スル訴訟ニ對シ便宜ヲ與フルコト、又當事者ノ申請アル場合ニハ訴訟ノ代理ヲ爲スコト

十一、政府ニ對シ移民獎勵ニ關スル諸般ノ必要ナル方策ヲ提議シ同時ニ從來ノ經驗ニ徴シ有害又ハ不便ト認メラルル諸方法ノ改善ヲ提議スルコト

十二、移民局ハ毎年歳出豫算案ヲ作成シ若前年度經費ニ比シ變更ヲ來スヘキモノアルトキハ其ノ理由説明ヲ附シ之ヲ政府ニ提出スルコト

十三、現行法律及細則ノ規定ニ從ヒ會計簿ヲ備附ケ移民獎勵基金ヲ管理スルコト

十四、頁數ヲ附シタル移民登錄簿ヲ備置キ之ニ日附順ヲ以テ各移民ノ入國、氏名、年齢、男女ノ別、配偶者ノ有無、郷國、宗教、職業、讀書能力、出發地及就業地ヲ記入スルコト

十五、政府カ豫メ土地植民局ト協議ノ上定メタル植民地ヘ移民ヲ送致スルコト

十六、入國移民ノ數、種類、職業、出發地、移民事業ノ増進、停滯又ハ衰退及其ノ原因ニ關スル

十、年報ヲ提出スルコト、尙該年報ニハ移民ノ増進ヲ促ス爲又ハ其ノ減退ヲ來セル障碍ヲ除去スル爲適切ト認ムル方法ヲ記載スルコト

四

第二章 在外移民事務官

第四條

政府ハ亞爾然丁共和國ヘノ移民獎勵ノ目的ヲ以テ歐羅巴又ハ亞米利加ノ諸國ニ於テ其便利ト思量スル地ニ特別移民事務官ヲ任命スルコトヲ得

在外移民事務官ノ定員ハ豫算法ノ定ムルトコロニ據ル

第五條

在外移民事務官ノ職務及職權ハ左ノ如シ

- 一、指定セラレタル地ニ駐在シ又ハ移民局ノ指揮スル地ニ出張スルコト
- 二、移民誘入ノ目的ヲ以テ亞爾然丁共和國ノ地理、政治及社會事情、主要産業、植民地制度、勤勉ナル移民ノ享クル特典、土地ノ價格及其ノ取得上ノ便宜、給料ノ價值、日用品及植民地產出品ノ價格、其ノ他本法ノ目的ニ適合スル事情ヲ知悉セシムル等斷ヘス亞爾然丁共和國ノ

宣傳ニ全力ヲ注クコト

三、共和國ニ關スル報告ヲ請求スル凡テノ移民ニ對シ無料ニテ之ヲ供給スルコト

四、移民トシテ共和國ニ渡來スル者ノ操行及産業上ノ技能ニ關シ證明ヲ爲スコト、該證明ニ對シテハ何等手数料ヲ徵スルコトヲ得ス、若之ニ違反シタル者ハ其ノ職ヲ免ス

五、船長又ハ船主ト共和國ヘ渡來スヘキ移民トノ間ニ締結スル輸送契約ニ干涉シ其ノ正當ニシテ適法ナルヲ保證シ且其ノ契約上ノ弊害ヲ豫防スルコト

六、移民輸送ニ關シ本法規定ノ諸條件ヲ遵守セルヤ否ヤヲ監督シ且報告スルコト

七、出發港ニ於テ船長ニ對シ共和國ヘ渡來スル移民ノ名簿ヲ請求シ該名簿ニ諸般ノ關係報告書ヲ添附シ、同船又ハ更ニ速カナル他ノ便船アル場合ニハ該便船ニ依リ之ヲ移民總務局ニ送附スルコト

八、本法ノ規定ニ從ヒ上局ノ承認ヲ經タルトキハ移民ノ船賃ヲ支拂フコト

九、其ノ職務遂行ノ爲上局ヨリ受ケタル基金ノ使途ニ關シ二月毎ニ之ヲ移民總務局ニ報告スルコト

十、移民總務局ノ命令ニ遵ヒ共和國植民地ニ向ケ渡來スル移民輸送ニ關シ契約ヲ締結スルコト

五

十一、一ノ簿冊ヲ備置キ共和國ニ渡來スル各移民ニ關スル一切ノ事項竝ニ其ノ氏名、男女ノ別、年齡、配偶者ノ有無、宗教、職業、郷國、住所、操行及乗船月日ニ關シ日附順ニテ該簿冊ニ記録スルコト

十二、移民總務局ヨリ發達セラルル通信ヲ受理シ早速且確實ナル方法ニヨリ之ヲ處理スルコト

十三、亞國へ輸送セラレタル移民ノ數及種類ニ關スル年度報告ヲ移民總務局ニ提出シ移民ノ數ニ増減アリタルトキハ其原因ヲ調査シ之カ助長又ハ矯正ニ適當ナル方法ヲ提議スルコト

十四、移民總務局ヨリ受クル職務上ノ事項ニ關スル命令及訓令ヲ確實ニ遵守シ且ツ移民總務局トノ間ニ敏活ナル通信ヲ保持スルコト

第三章 移民支局

第六條

政府ハ各州首府、移民ノ直接上陸港、其ノ他必要ト認ムル個所ニ移民總務局ニ隸屬スル移民支局 (Comisión de Inmigración) ヲ設置スルコトヲ得

第七條

移民支局ノ職員ハ支局長一名、書記一名、及其所在地ノ必要ト移民ノ多少ニ應ジ一名或ハ數名ノ吏員又ハ事務員ヨリ成ル

第八條

移民支局ノ職務及職權ハ左ノ如シ

一、其ノ管轄地内ニ於ケル移民ノ接受、宿泊、就職及一地點ヨリ他地點ニ到ル輸送ヲ取扱フ

二、其ノ管轄地方ニ對スル移民招誘ノ目的ヲ以テ同地方ニ現存シ又ハ創始シ得ヘキ産業ノ性質、勞銀、氣候ノ好適其ノ他提供セラルヘキ便益ヲ發表シ常ニ敏活ナル宣傳ヲ爲スコト

三、其管轄地方ニ於テ個人間ニ移民雇傭保護會ノ設立ヲ獎勵スルコト

四、地方政府、團體又ハ個人ヨリ移民ノ便益ニ使用スル爲、土地、金錢、其ノ他ノ有價物ヲ以テスル補助ヲ募集スルコト

五、職務履行ノ爲送附セラレタル資金ノ使途ニ關シ三月毎ニ其ノ支拂計算書ヲ提出スルコト

六、毎年其管轄區域ニ於ケル移民ノ動態及該期間ニ實施セラレタル凡テノ勞働狀況ニ關スル年報ヲ提出スルコト

七、移民總務局竝土地植民局ヨリ支局ノ任務ニ關聯スル事項ニ關シ要求アリタル時ハ凡テノ援

助ヲ提供スルコト

第四章 労働周旋所

第九條

在「ブエノス・アイレス」移民總務局及各地方移民支局ハ必要ニ應シ其ノ直轄ノ下ニ豫算法ノ定ムル職員ニ依リ事務ヲ處辦スル就職及労働周旋所ヲ設クヘシ

第十條

労働周旋所ノ職務及職權ハ左ノ如シ

- 一、教師、技術者、日傭人又ハ農夫ノ願出ニ對シ應答スルコト
- 二、移民ニ對シ有利ナル條件ノ傭口ト且身元確實ナル雇主ノ周旋ニ注意スルコト
- 三、移民ノ申請ニ應シ其ノ締結スル傭入契約ニ干渉スルコト、且傭主カ確實ニ其契約ヲ履行スルヤ否ヤヲ監督スルコト
- 四、特別登録簿ヲ備ヘ授職數、日附、労働ノ種類、契約條件及其ノ契約ニ干與セル者ノ氏名ヲ登録スルコト

第十一條

労働周旋所ノ設置ナキ地方ニ於テハ其ノ職權及職務ハ移民支局ニ屬スルモノトス

第五章 移民

第十二條

本法ニ於テ移民ト認ムル者ハ年齢六十歳未滿タル日傭人、技術者、職工、農夫又ハ教師タル外國人ニシテ操行及技能ノ證明ヲ有シ、共和國ニ移住ノ目的ヲ以テ汽船又ハ帆船ニ乗シ、二等又ハ三等船賃ヲ自辨スルカ又ハ國費、州費若ハ移植民保護ノ私設團體ノ支辨ニテ共和國ニ到著スル凡テノモノヲ指ス

第十三條

前記條件ヲ具備スル者ニシテ移民ノ名目ノ下ニ與ヘラルル特典ヲ享クルヲ欲セサル者ハ乗船ノ際之ヲ船長ニ表示スヘシ船長ハ之ヲ航海日誌ニ記録スルカ又ハ上陸港ノ海事官憲ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ、此ノ場合ニ於テ本人ハ普通船客トシテ取扱ハルヘキモノトス
前項規定ハ共和國ノ植民地又ハ其ノ他ノ地點ニ向ケ移民契約ヲ結ヒテ來航スル移民ニハ之ヲ適用セス

第十四條

操行善良ニシテ各種ノ工業、技藝又ハ有益ナル職業上ノ技能ヲ充分ニ立證スル凡テノ移民ハ入國ニ際シ左ニ掲クル特典ヲ享受スルノ權利ヲ有ス

一、本法第四十五條第四十六條及第四十七條ニ規定セル期間、國庫ノ支辨ニテ宿泊及食事ノ給與ヲ受クルコト

二、移民ノ選擇ニ從ヒ現ニ國內ニ存在スル勞働又ハ産業ニ就職ノ周旋ヲ受クルコト

三、住所ヲ定メント欲スル共和國內ノ一地點迄官費ヲ以テ輸送ヲ受クルコト

四、自用裝身具、衣服、自家用家具、農具、道具、其ノ從事スヘキ技術若ハ職業上ノ用具及成人男子一名毎ニ獵銃一挺宛ハ行政府ノ定ムル價格ニ達スル迄無稅通關ヲ許可セラルルコト

第十五條

前條ノ規定中移民ノ妻子ニ適用シ得ヘキモノハ之ヲ適用ス、但此場合ニ於テ若其ノ妻子カ成年者ナルトキハ其ノ操行善良ナルコト及産業上ノ技能ニ通達セルコトヲ立證スルヲ要ス

第十六條

移民ノ操行ノ善良及産業上ノ技能ノ證明ハ在外亞國領事又ハ移民事務官若ハ移民ノ本籍地官憲之

ヲ發給ス、移民本籍地官憲ノ證明者ハ在外共和國領事又ハ移民事務官ノ查證ヲ經ルヲ要ス

第十七條

官有植民地ニ入ル爲契約セル農業移民又ハ同植民地ニ赴クコトヲ希望スル者ハ本法第二編植民法第三章ニ規定セル旅費ノ前貸、土地ノ下附、耕作上ノ便宜等ニ關スル特典ヲ享受スルモノトス

第六章 移民輸送船

第十八條

汽船又ハ帆船ニテ歐羅巴諸港又ハ岬角ノ外方ヨリ二等若ハ三等船客四十名以上ヲ輸送シ來ルモノハ之ヲ移民輸送ニ從事スルモノト看做シテ本法ノ規定ヲ適用ス

(譯註、岬角ハ「ラブラダ」河口ヲ形成セル「サン・アントニオ」岬及「マルドナド」岬ヲ指スモノト思考ス)

第十九條

移民輸送船ハ港灣ノ出入及貨物ノ積卸等ニ關シ「郵船特權」ト稱スル特典及海外最惠船舶ノ享クル諸種ノ特典ヲ享受ス

第二十條

前二條ニ記載セル船舶ハ登簿噸數毎二噸ニ付一名以上ノ船客ヲ搭載スルコトヲ得ス、但シ一歲未

滿ノ幼兒ハ之ヲ船客ト看做サス計算ヨリ除外シ尙一歳以上八歳以下ノ小兒ハ登簿噸數每一噸ニ付一名ノ割合ヲ以テ計上ス

第二十一條

船舶ノ甲板ノ高サ(譯註、即船室天井ノ高サ)ニ米突二八仙ナルトキハ移民一人ニ付一平方米突三〇仙、甲板ノ高サ一米突八三仙ナルトキハ同一平方米突三三仙、甲板ノ高サ一米突六六仙ナルトキハ同平方米突四九仙ノ場所ヲ占有スルノ權利ヲ有ス
一歳未滿ノ幼兒ハ此ノ計算ニ加ヘサルモノトシ八歳未滿ノ小兒ハ二名ニ就キ船客一名分トシテ計算ス

第二十二條

船舶ノ中艙ハ最小限度一米突六六仙ノ高サヲ有シ常ニ船客ノ通路トシテ便利ナル設備ヲ要ス

第二十三條

移民用寢臺ハ其ノ内法ニ於テ少クトモ長サ一米突八三仙、幅五十仙ヲ有スルヲ要シ一船室ニ二段以上ノ寢臺ヲ配置スルコトヲ得ス

第二十四條

凡テ移民輸送船舶ハ別ニ規定セル細則ニ從ヒ船客ノ衛生、安全及慰安ノ爲ニ必要ナル通風機、唧筒、厨房、器具及用具其ノ他ノ設備アルヲ要ス

第二十五條

凡テ移民輸送船ハ船客數ニ應シ必要ナル難船用救助艇及救命具ヲ準備スヘシ

第二十六條

凡テ移民輸送船ハ船醫一名及必要ナル藥品一切ヲ準備セル藥劑師一名ヲ來船セシムヘシ

第二十七條

搭載移民數カ該船舶ノ積載能力以下ナルトキハ其ノ空間ヲ食料品、荷物又ハ商品ノ輸送ニ賃貸スルコトヲ得、但シ必須消耗品ヲ除キ、火藥、硫酸、燐、鳥糞、可燃性物、生ノ食料品動植物等ノ危険又ハ健康ニ害アル物品タラサルヲ要ス

第二十八條

移民輸送船内ニ流行性又ハ傳染性ノ疾病發生シタル場合ニハ船長ハ患者ヲ扶助シ一切ノ救濟手當ヲ施シ船醫ヲシテ病氣ノ性質其ノ他ノ事情ニ關シ證明セシムヘシ

第二十九條

前條規定ノ場合ニハ船長ハ共和國ノ一港ニ到著ノ際規定ノ標旗ヲ掲ケ他船舟ノ接近及乗船者ノ上陸ヲ禁シ直ニ之ヲ當該港務官憲ニ報告ヲ爲スヘシ

第二十條

移民輸送船當共和國ノ一地點ニ到著後檢疫醫一名及港務署吏員一名、同地移民局吏員又ハ其ノ代表者一名ヨリ成ル臨檢團直ニ船ニ到リ該船舶ノ衛生状態ヲ檢査シ船長及船客ヨリ必要ナル報告ヲ求メ且本法ノ規定ヲ遵守セルヤ否ヤヲ檢査ス其適法ト認メタルトキハ船長ニ對シ其ノ保管用トシテ一通ノ證明書ヲ交付ス、然ラサル場合ニハ心附キタル違法行爲又ハ缺點ヲ詳記シタル報告書一通ヲ港務署ニ他ノ一通ヲ移民局ニ送附スヘシ

第三十一條

移民輸送船ノ船長ハ眞性虎列刺、黃熱病、其ノ他凡テ惡疫流行地ヨリ出發セル船客ヲ共和國ニ向ケ搭載スルコトヲ得ス

第三十二條

移民輸送船ノ船長ハ惡性傳染病患者、勞働ニ堪エサル不具者、精神病者、乞食、囚徒若ハ前科者又ハ家長ニアラサル年齢六十歳以上ノ者ヲ共和國ニ輸送スルコトヲ得ス、若之ニ違反スルトキハ

船長ハ自費ヲ以テ此等ノ乗船者ヲ送還シ且本法第三十五條ニ定ムル罰金ヲ科セラルヘシ

第三十三條

移民輸送船カ其ノ目的港ニ投錨セル後四十八時間移民ハ其ノ船内ニ留ルノ權利ヲ有ス

第三十四條

移民輸送船カ任意ニ又ハ已ムヲ得ス目的港ニ非サル港ニ寄港セル場合ニハ該船長ハ自己ノ費用ヲ以テ船内若ハ陸上ニ於テ移民ニ宿泊及食料ヲ給與スヘシ

第三十五條

移民輸送船カ本法第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十三條及第二十四條ノ規定ニ違反スルトキハ是ニ對シ「郵船特權」ヲ剝奪シ且ツ金貨五百「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス、第二十九條及第三十一條ノ規定ニ違反スルトキハ金貨一千「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス、又第三十二條ニ違反スルトキハ移民一名ニ付金貨百「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ處罰ハ本法違反ノ結果トシテ發生セル民事上ノ損害賠償又ハ刑事上ノ訴訟ヲ提起スルヲ妨ケス

第三十六條

船體、船具及船内設備品ハ特ニ前條罰金ノ納付ニ充當セラルヘク其ノ徵收シタル罰金ハ之ヲ移民基金ニ編入ス

第三十七條

共和國各港務長官ハ移民船カ本法ニ違反シタル結果發生セル各種要求又ハ訴訟ノ決着前ニ出港セントスルトキハ法律上正當ノ權利ヲ有スル者ノ請求ニ依リ一時之ヲ禁止スルコトヲ得

第七章 移民ノ上陸

第三十八條

移民ノ上陸ハ國庫ノ費用ヲ以テ之ヲ支辨シ移民局ニ於テ之カ爲ニ設ケタル吏員之ニ鞅掌ス

第三十九條

移民ノ上陸及其ノ手荷物、什器又ハ道具類ノ陸揚作業ハ特定ノ船舶ヲ以テ棧橋又ハ出來得ル限り指定セラレタル場所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第四十條

税關官吏及檢疫官吏ノ臨檢ハ政府カ實施上特ニ定メタル場所ニ於テ之ヲ行フ

第四十一條

個人タルト私設會社タルトヲ問ハス豫メ當該移民局ノ認可ヲ經ルニ非サレハ移民ノ上陸及其ノ手荷物又ハ携帶品ノ陸揚ニ從事スルコトヲ得ス、此ノ規定ニ違反スル者ハ、第一次ニ於テハ移民一名ニ付金貨五十「ペソ」以下、第二次ニ在リテハ金貨百「ペソ」以下、第三次以後逐次之ニ準シテ一回毎ニ五十「ペソ」ヲ増課スル罰金ヲ科セラル、尙陸揚ヲ行ヒタル船舶ノ船體及船具ハ該罰金納付ノ擔保トシテ沒收スルコトアルヘシ

第八章 移民ノ宿泊及給養

第四十二條

「ブエノス・アイレス」市、「ロサリオ」市及其ノ他移民ノ増加ニ依リ必要ト認ムル地點ニ移民ヲ一時宿泊セシムヘキ移民收容所ヲ設ク

第四十三條

此等收容所ハ豫算法ノ定ムル吏員ヲ置キ事務ヲ執ラシメ移民局又ハ補助機關タル移民支局之ヲ直轄ス

第四十四條

移民收容所ノ存在無キ場所ニ於テハ當該地移民支局ハ移民ヲ普通ノ旅館又ハ其ノ他適當ナル營造

物ニ於テ宿泊セシメ及食料ヲ給スヘシ

第四十五條

移民ハ上陸後五日間國庫ノ支辨ニテ適當ニ宿泊及食事ヲ給與セララルルノ權利ヲ有ス

第四十六條

前條規定ノ五日ノ期間經過スルモ重病ノ爲轉居スルコト能ハサル場合ニハ病氣繼續期間收容所ニ留ルコトヲ得、其ノ間ノ宿泊及給養ハ國家ノ負擔タルヘキモノトス

前項場合ヲ除外五日以上同收容所ニ滞在セントスル者ハ其ノ費用ハ凡テ自辨トス、此ノ場合年齢八歳以上ノ者ハ一名ニ付一日金貨五十「セントポ」、同年齡八歳未滿ノ者ハ一名ニ付同二十五「セントポ」ヲ支拂フヘシ

第四十七條

官有植民地ニ入ルノ目的ヲ以テ國家ノ契約セル移民ハ前條ノ規定ヨリ之ヲ除外シ此等移民ハ其ノ目的地ニ到着スル迄官費ニテ宿泊及給養ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九章 移民ノ内地輸送及授職

第四十八條

移民勞働周旋所又ハ場合ニ依リテハ移民支局ハ移民カ從事セント欲スル技術、作業、又ハ産業上ノ就職ニ對シ極力盡カスヘシ

第四十九條

右就職ハ成ルヘク移民到着後五日内ニ出來得ル限り有利ナル條件ノ下ニ之ヲ周旋スヘシ

第五十條

勞働周旋所又ハ移民支局ハ各其ノ場合ニ應シ當事者ノ請求ニ依リ移民ニ對スル契約履行ノ保障ヲナス爲備入契約ニ干與スルヲ得

第五十一條

共和國地方廳ノ管轄内又ハ或官有植民地ニ定住セント欲スル移民ハ何等ノ報償ヲ支拂フコトナク其ノ選定地迄家族及手荷物ト共ニ輸送セララルヘシ

第五十二條

移民カ當國地方廳ノ管轄内ニ赴ク場合ニ於テハ其ノ目的地ニ到着後十日間ハ其地所在ノ移民支局ニ於テ之ニ對シ宿泊及食事ヲ給ス、同期間經過後ハ年齢八歳以上ノ者一名ニ付一日金貨五十「セントポ」又ハ八歳未滿ノ者一名ニ付同二十五「セントポ」ノ割ヲ以テ之ヲ自辨スヘシ、但シ移民重病

ノ場合ニハ病氣繼續中國費之ヲ支辨ス

第五十三條

移民カ官有植民地ニ赴ク場合ニハ其ノ目的地ニ到着後本法第二編植民法ノ第三章ヲ以テ許與スル特典ヲ享有ス

第五十四條

移民ハ如何ナル口實ニ依ルヲ問ハス共和國領土ヲ通過シテ他國ニ赴カントスル目的ヲ以テ前記諸條ニ規定セル特典ヲ利用スルコトヲ得ス、若之ニ違反スル者ハ船賃、上陸費、宿泊、食料及國內輸送等ニ要シタル一切ノ費用ヲ辨償スヘシ

第十章 移民基金

第五十五條

移民一般基金ノ制ヲ設ク、其ノ基金ハ左ノ財源ヲ以テ之ニ充ツ

- 一、總豫算法ニ依リ毎年此ノ目的ノ爲支出スル金額
- 二、土地植民局ヨリ交付ノ金額
- 三、本法ノ定ムル罰金ノ收入

四、前數章ノ場合移民ノ納付スル賦課金

第五十六條

移民一般基金ノ管理ハ移民總務局ニ屬シ左記諸項ノ目的以外之ヲ使用スルコトヲ得ス

- 一、本法ノ規定ニ據ル移民旅費ノ前貸又ハ支拂
- 二、共和國ニ移民ヲ輸送スル爲移民輸送船トノ間ニ締結スル契約費ノ支辨
- 三、移民收容所ノ費用及收容所ナキ場合ニ於ケル移民宿泊及給養ニ要スル費用ノ支辨
- 四、共和國內ノ一地方ニ定住セント希望スル移民ノ輸送費

第五十七條

各移民支局 (La Oficina de Inmigración) ニ於テ左記財源ヨリ成ル移民特別基金ノ制ヲ設クルコトヲ得

- 一、各地方政府カ毎年支出スル公定補助金
- 二、個人カ移民獎勵ノ目的ヲ以テ提供スル寄附金
- 三、地方政府、團體又ハ個人カ移民基金ニ充ツルノ目的ヲ以テ寄附セル土地、動物及諸物件ノ賣上金

第五十八條

此等特別基金ノ管理ハ此ノ制ヲ設ケタル各地方ノ移民支局ニ屬シ左記目的ノ爲之ヲ充當スルハ賣
一、貧困移民、疾病、孤兒及乳兒扶養其他特別事故ニ依リテ救助ヲ要スル移民ノ罹災救助
一、日傭其ノ他勞働條件ニ關シ印刷物、揭示又ハ廣告等ノ方法ニ依リ移民ヲシテ新産業ニ從事
セシムル爲要スル獎勵費

第五十九條

特別基金ヲ前條規定ノ用途ニ使用シタル後尙剩餘ヲ生シタルトキハ政府ハ之ヲ移民救護院ノ設立
費、移民輸送費又ハ當該移民支局ノ經常費ニ充當スルコトヲ命ス

第六十條

移民支局ハ前數條ニ掲ケタル特別基金ノ使途ニ關スル計算書ヲ調製シ三月毎ニ之ヲ移民總務局ニ
送附スヘシ

第二編 植民法

第一章 土地植民局

第六十一條

政府ハ内務省直轄ノ下ニ適當ノ時期ニ於テ土地植民局ヲ設立スヘシ、土地植民局ノ職員ハ豫算法
別ニ之ヲ定ム

(譯註) 土地植民局ハ移民局ト同様千八百九十八年十月十日發布法律第三七二七號(各省官制)ヲ以テ農務省ニ直屬スルコト

トナレリ

第六十二條

土地植民局ハ左記ノ事務ヲ管掌ス

- 一、特別帳簿一冊ヲ備ヘ是ニ聯邦領及其他聯邦政府カ植民地ト定メタル土地ノ行政管理、區劃、
開拓及入植ニ關スル一切ノ法律、命令及諸規則ヲ記錄スルコト
- 二、帳簿一冊以上ヲ備ヘ、是ニ土地ノ賣却、給與、特許、保留、契約其他移植民ニ關スル事項ヲ
記錄スルコト

- 三、植民地ノ地勢、耕作状態、天産物、其他有利ノ事項ニ關シ研究ノ方法ヲ提議シ植民地ニ適ス
ト思量セラルル土地ノ開拓準備ヲナスコト
- 四、政府ニ對シ土地ノ賣却、道路ノ開通、海川航路ノ開始ニ關スル便、不便及其他植民地ノ創立
及其發展ニ關シ計劃又ハ意見ヲ提出スルコト
- 五、植民地ノ創立、管理及發展上政府ノ訓令ニ對シ報告ヲナシ又是ニ關シ最モ便宜ト思量スル計
劃ヲ提議スルコト
- 六、移民官其他一般ノ請求ニ應シ豫定植民地ノ位置、産物、價格、其他ノ條件ニ關シ必要ナル事
項又ハ報告ヲ與フル事
- 七、植民地ニ關スル一切ノ契約又ハ約束ノ履行ヲ監視スルコト
- 八、共和國內ニ現ニ存在スルカ又ハ將來創立セラレントスル一切ノ植民地ニ關シ統計ヲ作り之ニ
入植スル移民ノ數及種類並其ノ他現存産業ノ状態及種類ヲ表示スルコト
- 九、毎年各植民地ノ状態ニ關スル年報ヲ調製シ之ニ其發達又ハ衰頹ノ理由ヲ記シ且ツ其發展上必
要ト認ムル方法ヲ提議スルコト
- 十、現行法律及細則ニ據リ植民地ニ對スル豫算ヲ作り又仕拂ノ計算ヲナスコト

十一、土地植民局職員、植民地監督官及屬ノ任命ニ關シ提議スルコト
第六十三條

土地植民局ノ設立セラルル迄ハ移民局ニ於テ其事務ヲ執行ス

第二章 聯邦領及其區劃

第六十四條

政府ハ聯邦領ノ開拓ニ關シ規定ヲ設ケ且ツ植民地トナスニ最モ適シタル土地ノ測量及區劃ヲナス

第六十五條

聯邦領ハ之ヲ二十基米突平方ヲ一區トスル「セクシオン」ニ區分ス

第六十六條

一「セクシオン」ノ境界線ノ一方カ自然の境界ナルトキハ之ヲ以テ其ノ境界線ト做シ其他ノ境界ハ
前條規定ニ準シ之ヲ區劃ス右ノ結果トシテ一「セクシオン」又ハ其ノ一小區ノ面積ニ多少ノ過不足
ヲ生スルコトアルモ其レカ各其面積ノ百分ノ二十以内ナル時ハ之ヲ問ハス

第六十七條

一「セクション」ハ之ヲ四百ノ「ロット」ニ小分ス、一「ロット」ハ一百「ヘクタール」トス

第六十八條

植民村建設ノ爲メ一「セクション」ノ中央ニ位スル四「ロット」ノ地面ヲ以テ之ニ充ツ、但シ地勢ノ關係上他ニ一層便利ナル場所アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條

一「セクション」ノ境界線ニ接スル七十六「ロット」ノ地面ヲ以テ村共有地トス

第七十條

殘餘ノ三百二十ノ「ロット」ハ更ニ之ヲ小分シテ二分ノ一「ロット」及四分ノ一「ロット」トナシ本法ノ規定ニ從ヒ之ヲ下附ス

「ロット」ハ西北隅ヲ起點トシテ左ヨリ右及右ヨリ左ニト云フ順序ニテ番號ヲ附シ西南隅ニ到リテ止ム

二分ノ一「ロット」又ハ四分ノ一「ロット」ハ番號ヲ附セス字母ヲ以テ之ヲ標示ス

第七十一條

前記ノ規定ニヨリ區分セラレタル一「セクション」ハ之ヲ「バルテイド」(割地)ト稱ス

第七十二條

各「バルテイド」内ニハ全面ヲ貫通スル幅五十米突ノ街道二條ヲ敷設シ、植民村中央部ノ廣場ニ於テ交叉スル様設計スヘシ

第七十三條

「ロット」ト「ロット」トノ中間ニ設ケラルル通行路ハ幅二十五米突ナルヘシ

第七十四條

村ノ設立ニ充テラレタル地面ハ百米突平方ノ面積ヲ有スル「ブロック」ニ二百五十六ニ區分シ他ニ幅二十米突ノ街道ト村ノ周圍ヲ圍繞シ村ト農地トノ間ヲ通過スル幅四十八米突ノ街道トヲ敷設スヘシ

第七十五條

村ノ中央部ニ方ル四個ノ「ブロック」ハ大廣場ヲ形成シ其一面ニ對スル向側ノ二「ブロック」ハ村役場ノ建設地トシテ之ヲ保留スヘシ

第七十六條

村内二個ノ主要街道ハ村ヲ四區ニ分ツ、各區内中央ニ方ル一「ブロック」ハ區ノ小廣場ノ爲ニ又之ニ接スル他ノ一「ブロック」ハ區役所建設地トシテ之ヲ保留スヘシ

第七十七條

其他ノ「ブロック」ハ五十米突平方ノ地面ニ之ヲ區分スヘシ

第七十八條

各「セクシオン」ハ併行線ヲ以テ之ヲ形成スト雖、若「セクシオン」ト「セクシオン」トノ間ニ「セクシオン」ニ達セサルカ又ハ「セクシオン」ヲ形成スルニ不便ナル地面ノ生シタル時ハ之ヲ其ノ最近「セクシオン」ニ附加シ本法ノ規定ニヨリ之ヲ小分ス

第七十九條

凡テ區劃線ハ之ヲ南北及東西ニ正向セシムヘシ

第八十條

一「セクシオン」ノ測量及分割ニ從事スル技手ハ「セクシオン」圖ニ葉ヲ作製シ之ニ其ノ位置、地勢天產物及耕作能力ニ關スル報告書ヲ添附シ技師局ニ提出スヘシ
技師局ハ右「セクシオン」圖一葉及報告書ヲ土地植民局ニ送附ス

第八十一條

政府ハ此等ノ報告ニ基キ各「セクシオン」ノ開拓、測量及區分ニ關スル一般設計ヲ規定シ聯邦領圖

ノ作製ニ備フヘシ

第三章 土地ノ開拓、給與、拂下及保留

第八十二條

政府ハ植民地トナスヘキ土地ヲ選定シ時期ヲ見計ヒ其地域内ニ先住民アラハ其附近ヨリ又地域中都會トノ交通最モ便利ナリト思量セラルル地點ヲ選ヒ其ノ個所ヲ起點トシテ開拓ニ著手スヘシ

第八十三條

前條規定ノ土地選定濟ノ上ハ、測量ニ着手シ「セクシオン」ノ區分ト區標据付ヲナシ且ツ毎「セクシオン」内適當ナル地點ヲ選ヒ是ニ植民收容所ヲ建築スヘシ、收容所ハ少クトモ植民五十家族ト其ノ要スル食糧品及道具ヲ收容シ得ルモノタルヘシ

第八十四條

植民收容所ガ前規定ノ通り出來上リタル時ハ土地植民局ハ移民局ト協議ノ上直ニ各「セクシオン」ニ入植スヘキ家族ノ輸送ニ從事スヘシ

第八十五條

各「セクション」ニ入植スル最初ノ植民ニシテ家長及農夫タル者ニ對シ一人ニ付一百「ヘクタール」ノ「ロット」ヲ無償ニテ給與ス家長及農夫ノ地所ハ交互ニ之ヲ配附ス

第八十六條

殘餘ノ農用「ロット」ハ一「ヘクタール」金貨二「ペソ」十年年賦ニテ之ヲ拂下クルモノトス其ノ第一回拂込ハ植民後第二年度ノ終ニ於テ之ヲ爲ス

第八十七條

農地ノ拂下ハ一人ニ付一「ロット」ノ四分ノ一以上タルヲ要スト雖四「ロット」ヲ超ユルコトヲ得ス

第八十八條

第八十四條第八十五條ノ所謂植民ハ左記各項ノ便宜ヲ享有ス

- 一、上陸地ヨリ植民地ニ到ル運賃ノ前貸ヲ受クルコト
- 二、前貸ノ意味ニ於テ少クトモ一年間住所、食料、使役用及繁殖用動物、種子、農具ノ供給ヲ受クルコト

此等ノ前貸ハ植民一人ニ付金貨一千「ペソ」ト見積ラルル額ヲ超過スルコトヲ得ス且前貸ハ五年

ノ年賦拂ニテ償還スヘキモノニシテ植民後第三年度ノ終ニ於テ第一回拂込ヲナスヘシ

第八十九條

宅地ハ一個所金貨二「ペソ」ノ割合ヲ以テ拂下ク

第九十條

前數條ノ規定アル外農地及宅地ハ此等條項ノ規定スル價格ヲ標準トシテ之ヲ競賣ニ附スルコトヲ得

第九十一條

村共有地ト定メラレタル土地ハ村民増加ノ結果之ヲ拂下クルノ必要アリタル時ニ於テノミ之ヲ拂下クルコトヲ得、其レ迄村役場ハ村民ニシテ村共有地ニ放牧シ又之ヲ利用スル者ニ對シ一定ノ税金ヲ課スルコトヲ得

第九十二條

宅地ノ拂下ハ買主カ一年内ニ於テ是ニ住居シ且塀圍ヲ建ツル條件ノ下ニ之ヲ爲スコトヲ得、又農地ノ拂下若ハ給與ハ買主又ハ給與ヲ受クル者ガ二年間繼續シテ是ニ居住シ且ツ之ヲ耕作スルノ條件ノ下ニ之ヲ行フコトヲ得

第九十三條

入植者ニ對シテハ土地ノ位置其ノ他入植條件ヲ明記セル假地券ヲ下附ス、前數條ニ規定スル條件ヲ充スニアラサレハ本地券ハ之ヲ下附スルコトナシ

規定ノ期間内ニ於テ前條ノ條件ヲ充ササルトキハ假地券ハ無効ニ歸シ土地ハ國家ノ有ニ還ルモノトス

第九十四條

拂下又ハ給與ヲ受ケタル農地ハ植民ガ地價ノ拂込又ハ前貸ノ償還ヲナササルトキニ於テ其ノ賠償ノ目的トナルモノトス

第九十五條

政府ハ植民地内ニ於テ河川、湖沼、産鹽地、山岳及森林保存ノ爲便利ト思量スル「セクシオン」ハ「ロット」ヲ保留スヘシ

第九十六條

農地ハ給與セラレタルモノナルト拂下ケラレタルモノナルトヲ問ハス總テ公用徵收又特別近隣地役及國道、縣道其他街道敷設ニ關シテハ共和國一般法律ノ規定ニ從フモノトス

第九十七條

植民地ノ爲ニ小分セラレタル「セクシオン」ト「セクシオン」トノ中間ニ何等小分セラレルコトナク唯區劃標ノミヲ据ヘ付ケタル「セクシオン」ヲ置クヘシ、此等ノ「セクシオン」ハ左記各項ノ用ニ備フルモノトス

一、私立會社ノ植民用

二、印度土人收容用

三、牧畜用

第九十八條

政府ハ私立會社ノ請求ニ依リ左記各項條件ノ下ニ前條規定ノ「セクシオン」ノ一ニ對スル拓植業ノ經營ヲ特許スルコトヲ得

一、本法ノ規定ニ遵ヒ特許地ノ測量並區分ニ從事スルコト

二、二年内ニ少クトモ百五十家族ノ農夫ヲ入植セシムルコト

三、前項家族ニ對シ一家族ニ付少クトモ百五十「ヘクタール」ノ地面ヲ給與又ハ拂下クルコト

四、本法第八十三條ニ規定スル條件ヲ具備スル家屋ヲ植民地内ニ建設スルコト

五、植民ノ請求アルニ於テハ是ニ對シ家屋、農具、勞殖用動物及種子ヲ貸與シ且ツ少クトモ一年

五、間之ニ食料ヲ給スルコト、此等ノ前貸ニ對シテハ實費ニ貳割増ノ價額ト前貸總價額ニ對スル年
 六一割ノ利子トヲ徵收スルコトヲ得
 六、前貸ノ償却ハ一定ノ比例額ヲ年賦ニテ拂込マシムヘシ、第一回ノ拂込ハ入植後少クトモ三年
 度ノ終ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 七、會社ト植民トノ間ニ締結セラルル契約ハ土地植地局之ニ干涉ス、土地植民局ノ干涉ハ本法規
 定ノ違反ヲ防止スルニアリ
 八、官有植民地ノ行政、監督、植民、及開拓ニ關スル法律、命令其他法規ニ從フコト
 九、特許契約ノ不履行ニ對スル罰金トシテ定メラレタル金額即チ金貨四千「ペソ」ヲ供託スルカ又
 三ハ之ニ對スル保證ヲ提供スルコト、此ノ保證金ハ契約カ無効ニ歸スル場合ヲ妨ケス
 第九十九條
 前條ノ會社ハ政府ニ向ツテ植民カ其ノ上陸地ヨリ植民地ニ到ル間官費輸送ヲ請求スルコトヲ得
 第一百條
 政府ハ有ラユル手段ヲ以テ土人ノ入植ヲ計リ漸次之ヲ開明ニ導ク爲宣教師團ヲ起ス等便宜ト思量
 スル救濟方法ヲ講ジ土人家族ヲ一百「ヘクタール」ノ「ロット」ニ收容スルコトニ努ムベシ

第一百一條

「セクシオン」ニシテ拓植業經營ノ爲ノ特許ノ目的トナラス亦印度人收容ノ爲ニモ使用セラレサル
 モノハ土地ノ性質ニ鑑ミ之ヲ四「ロット」又ハ其以上ニ區分シ牧場トシテ貸與スルコトヲ得、
 前項借地ノ契約ハ政府ガ將來該「セクシオン」ヲ植民地トナス爲必要ト認メタル場合ニハ無効ニ歸
 スルノ條件ニテ之ヲ締結スヘシ但シ此ノ場合ニ於テ「セクシオン」内ノ既住民ハ其住居ノ存在スル
 地點ヲ含ム百「ヘクタール」ノ「ロット」ヲ無償ニテ受クルコトヲ得ルノミナラス他ノ「ロット」ヲ購
 得スル上ニ優先權ヲ有ス
 斯ノ如クシテ成立シタル各「セクシオン」ハ獨立役場ノ設立セラルル迄最近「バルタイド」ノ役場ノ
 管轄ニ屬ス

第一百二條

聯邦領内一定地域ノ測量及區劃ノ行ハルル際既ニ居住セル人民ハ丁年者一人ニ付百「ヘクタール」
 ノ「ロット」ヲ無償ニテ受ケ又家長ハ別ニ二「ロット」ノ地面ヲ購得スルノ權利ヲ有ス

第一百三條

國會ノ認可又ハ其ノ他ノ方法ニヨリ現ニ國有地ヲ所有又ハ占有スル者ハ土地植民局創設後六月間

ニ於テ之ヲ同局ニ登録スヘシ

第一百四條

聯邦領内ニ於テ官有植民地ニ選定セラレサル土地ハ政府ニ於テ左記條件ノ下ニ植民ノ目的ヲ以テ請願ヲ爲ス會社ニ對シ之ヲ特許スルコトヲ得

一、一會社ニ對シ特許シ得ル土地ノ面積ハ本法第六十五條ニ規定スル「セクシオン」ノ面積ノ二倍即チ二「セクシオン」ヲ超過スルコトヲ得ス

二、會社ハ植民地ノ建設上本法規定ノ測量區分法ニ遵フヘシ

三、會社ハ契約調印後四年内ニ於テ少クモ農夫五百家族ヲ入植セシムルノ義務アリ

四、土地ノ調査、測量及區劃其ノ他ニ要スル經費ハ一切會社ノ負擔トス、但シ植民カ上陸地ヨリ植民地ニ到ル輸送費ハ國庫之ヲ支辨ス

五、會社ハ以上ノ外本法第九十八條第三項、第四項、第五項、第六項、第七項及第八項規定ノ義務ヲ有ス

第一百五條

會社ニシテ特許契約ニ定ムル條件ヲ充ササル者ハ金貨一萬「ペソ」ノ罰金ヲ支拂フヘシ、罰金仕拂ノ爲會社ハ保證人ヲ立ツヘシ

本條ノ罰金ハ契約ノ無効トナル場合ヲ妨ケス

第四章 聯邦領内ノ土地及其ノ開拓收入

第一百六條

聯邦領内ノ土地及其ノ開拓ヨリスル收入ハ之ヲ土地特別資金ニ編入スルト同時ニ其ノ地方ノ工事其ノ他ノ費用ニ充ツ

第一百七條

土地特別資金ハ國有地ノ行政、監督及發達並初等教育ノ普及、印度土人ノ收容、土木工事其ノ他國會ノ定ムル費目ニ之ヲ充當スヘシ

第一百八條

土地特別資金ハ左記各項ノ收入ヨリ成ル
一、農地拂下及貸付收入
二、宅地拂下收入ノ二分ノ一

- 三、牧畜用ニ充當セラレタル「セクシオン」ノ貸付料
 - 四、私立會社ニ對スル特許ノ爲保留セル國有地内ノ森林、鳥糞、鑛地ノ收入
 - 五、特許契約不履行ノ爲植民會社ニ科スル罰金
 - 六、本法ノ規定ニ從ヒ植民ガ受領シタル前貸金償却金額
 - 七、別ニ豫算法ノ定ムル金額
- 土地拂下ヨリスル收入ノ二分ノ一ハ其地方ノ土木又ハ其他ノ公務ニ要スル經費ニノミ之ヲ充ツ
- 其ノ餘ハ、第百十條
- 各「バルテイド」ノ役場ハ村共有地ニ於テ牧畜業又ハ開拓業ヲ營ム者ニ對シ又「セクシオン」内ニ存在スル森林等ノ伐採又鳥糞、鹽鑛採掘ニ對シ課稅ヲナスコトヲ得
- 第百十一條
- 土地ノ購入又ハ借入ニ依ル仕拂及約束ハ凡テ政府ノ指定スル官憲ノ干涉ヲ經テ之ヲ爲スヘシ、該官憲ハ其ノ干涉ニ付キ直ニ土地植民局ニ報告ヲナスヘシ

第五章 國有植民地ノ獎勵

- 第百十二條
- 政府ハ一般的规定ヲ設ケ植民中勤勉ニシテ勞働能力顯著ナル者ニ對シ新「ロット」ヲ給與スル等ノ方法ニヨリ便宜ト思量スル「セクシオン」ニ於ケル農業發達ノ獎勵ヲ計ルコトヲ得
- 前項ノ給與ハ一人ニ對シニ「ロット」ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第百十三條
- 植民ニシテ入植後六年内ニ於テ其ノ所有地内ニ樹木ヲ植エ現ニ之ヲ保存シ居ルノ證明アル者ハ其植付樹木每千本ニ付金貨十「ペソ」ノ賞與金ヲ享クルノ權利ヲ有ス
- 第百十四條
- 官有植民地ハ各其ノ監督官ノ就職日ヨリ起算シ十年間ハ直接稅免除ノ特典ヲ享ク
- 第百十五條
- 外來移民ガ植民地ニ携帶シ來ル農具、種子、家具、及武器ハ無稅ニテ之ヲ輸入スルコトヲ得

第六章 植民地ノ行政

第一百十六條

國有植民地ノ民事官憲、警察及軍事官憲ハ孰レモ聯邦政府ノ直屬トス

第一百十七條

一「セクシオン」ノ測量及區劃終了シタルトキハ政府ハ直ニ監督官ヲ任命ス、監督官ハ「セクシオン」内ノ軍事及ビ警察ニ關スル最高官憲ニシテ副官一名及植民兵十名ヲ指揮ス
此等官吏ノ俸給及手當ハ各植民地ノ必要ニ應シ豫算法之ヲ定ム

第一百十八條

各植民地監督官ハ自ラ當該「セクシオン」ノ測量技手ヲ帶同シテ之ヲ監視シ植民地設立後ハ政府ヲ代表シテ其ノ行政ニ當リ公ノ秩序及安寧ヲ維持スル外「ロット」及植民ノ分配ヲ計リ又統計作製ノ任ニ當ルベシ

第一百十九條

入植者が五十家族ニ達シタル時ハ植民ハ一名ノ治安判事ト五名ノ邑吏ヲ互選ス、此等公吏ノ權能ハ之ヲ規定スル關係法律ノ發布セララル迄政府之ヲ定ム

第一百二十條

十八歳以上ノ植民ハ植民地監督官指揮ノ下ニ專ラ各植民地ノ保護及秩序維持ノ目的ヲ以テ植民軍ヲ組織ス

政府ハ植民軍ニ對シ必要ナル武器及彈藥ヲ給ス

第七章 縣有及私有植民地

第一百二十一條

聯邦政府ハ左記ノ方法ニヨリ縣有植民地ノ設立及發達ヲ補助ス

一、政府ハ農夫又ハ職工及其家族ニシテ亞爾然丁國ニ到着シ縣有植民地ニ赴カントスル者ヲ無賃ニテ輸送スル事

二、政府ハ當初入植者一百家族ニ限り每一家族ノ定住費トシテ金貨二百「ペソ」ヲ前貸ス、此ノ前貸ハ國有植民地ノ場合ト同一方法ニヨリ之ヲ償還スヘシ、償還金ハ當該地方政府之ヲ徵收シ中央政府ニ返納ス

第一百二十二條

前條ノ補助ヲ受クル爲、地方政府ハ土地植民局ニ向テ植民地ノ地圖及記事ヲ送附シ同時ニ家族移

民輸送ノ請求ヲナスヘシ

第二百二十三條

聯邦政府ハ縣政府ノ讓渡アルニ於テハ縣有地ニシテ植民地トナスニ適シタル土地ノ拓植ニ從事スルコトヲ得

第二百二十四條

縣ノ讓渡セル土地カ一以上ノ「セクシオン」ヲ形成スルニ足ル面積ヲ有スル時ハ其測量及區分ハ官有植民地ニ對スル規定ニ從テ之ヲ行フ、然レトモ其面積カ一「セクシオン」ヲ形成スルニ足ラサル時ハ其測量區分及地所ノ分配ハ其場合ニ應シ最モ便宜ト思量スル方法ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十五條

前記各條ノ場合ニ於テ聯邦政府ハ地所分配ニ任スル役員ヲ任命シ且ツ植民ニ對スル前貸ノ償還ヲ得ル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第二百二十六條

地方政府ハ各其法律ノ定ムル所ニ從ヒ適宜植民地行政官憲ノ任命ヲナスヘシ

第二百二十七條

個人ニシテ其所有地ノ拓植ヲ計ラントスル者ハ土地植民局ニ向テ所有地ノ地圖及記事、並各植民ト結ハントスル契約案ヲ添附シ之ヲ出願スヘシ、土地植民局ニ於テ願出ヲ受理シタル時ハ政府ハ其必要トスル家族ヲ無賃ニテ是ニ輸送スヘシ、此ノ場合ニ於テ願出人ハ植民カ共和國ニ渡航スル爲受ケタル前貸船賃ニ對シ責ニ任シ其償還ヲ保證スル爲所有地ヲ以テ此レカ擔保トス

第二百二十八條

本法ハ之ヲ當該官憲ニ通知シ官報ニ掲載シ且ツ共和國ノ記録ニ附スヘシ

千八百七十六年十月六日「ブエノス・アイレス」ニ於ケル亞爾然丁共和國國會會議室ニ於テ之ヲ作成ス

マリアノ・アコスタ (上院議長) ベー・ソリーリヤ (下院議長)

上院書記官 カルロス・エメ・サラヴィア 下院書記官 ホタ・アレホ・レデスマ

千八百七十六年十月十九日「ブエノス・アイレス」ニ於テ

之ヲ遵守シ、達示シ、公布シ且國事登錄簿ニ記入スヘシ

アコスタ

シモン・デ・イリオンド

及督監官カ其必要ニ應シ港務署ニ請求セル人員

第二條

海外ヨリ來ル郵便船及其他船舶カ外港錨地ニ碇泊スルトキ之ニ對シ臨檢ヲ施行スル場合ニハ臨檢團ハ午前中ノ左記時間ニ移民上陸用小蒸汽船ニテ檣頭ニ移民旗ヲ掲ケ私人ヲ便乗セシムルコトナク出張スヘシ

一、五月、六月、七月及八月中ハ 午前八時

一、九月、十月、三月及四月中ハ 午前七時

一、十一月、十二月、一月及二月中ハ 午前六時

移民ノ埠頭ニ上陸スルハ遅クトモ午後三時ヨリ開始シ得ルモノトス
若郵便船ノ延著又ハ其ノ他豫期セサル事故ニ因リ規定ノ時間ニ移民ノ上陸ヲ實行スル能ハサルトキハ之ヲ翌日ニ延期スルカ又ハ移民法第三十三條ノ規定ニ從ヒ四十八時間迄之ヲ延期スルコトヲ得

第三條

海外ヨリ到着セル船舶ニ對シ外港錨地ノ船客送迎又ハ交通ニ從事スル船舟ハ其種類ノ如何ヲ問ハ

ス凡テ左記事項ヲ行フコトヲ得ス

一、方法ノ如何ヲ問ハス該船舶ト通信スルコト

二、二百米突以内ノ距離ニ接近スルコト

三、臨檢未了前、又ハ臨檢繼續中前檣ニ掲タル移民旗ノ降サレサル前、若ハ臨檢官ノ許可ヲ得スシテ該船舶ノ舷側又ハ上陸用小蒸汽船ニ他ノ船舟ヲ横付スルコト

第四條

臨檢官カ該船舶ニ移乗セル後ハ荷役作業及船客又ハ貨物ノ移動ニシテ臨檢ノ目的ニ因ラサルモノハ凡テ之ヲ停止ス、但シ稅關官吏ノ檢査ニ關スルモノハ此ノ限りニ非ラス(移民法第三條第三)臨檢ヲ受クル船舶ノ船長ハ其臨檢中船上ノ秩序ト靜肅ヲ嚴守セシムヘシ

第五條

檢査終了セルトキハ移民局ノ定メタル様式ニ則リ、「船舶臨檢及檢査簿」ト稱スル簿冊ニ其結果ヲ記入スヘシ、尙該記録中ニハ船長カ左記書類ノ提供ヲナセル旨ヲ記入スヘシ
一、千八百七十六年十月十九日附移民法及移民上陸細則ヲ承知セル旨ヲ記シ且其出發港及出帆ノ日附ヲ記入シ出發港駐在亞國領事ノ查證アル申告書

二、航海中發生セル事件、其ノ他移民法第十八條乃至第三十七條ノ規定ニ關スル要件ノ説明及其ノ他必要事項ヲ記入シタル移民證明書

三、移民局ノ定ムル様式ニ則リ、移民法第三條第十四ノ要項ヲ統計的ニ分類シテ作成セル船客統計表

四、移民法第十三條ノ規定ニ係ル特典ヲ放棄シタル二等及三等船客表(船上ニテ作成セル)

五、「ロサリオ」「サンタ・フェ」「バラナー」ノ如キ「ブエノス・アイレス」港以外ノ亞國諸港迄船賃官費支辨ヲ得タル二等及三等船客表、及本細則規定ニ依リ罰金ヲ課セラルル河東共和國(譯註「ウルグアイ」、伯刺西爾、「バラグアイ」ノ諸港ニ轉航セントスル一、二等船客表

六、帆船ニ於テハ二等船客、又移民法ニ依リ「移民輸送船」ト看做サルル汽船ニ於テハ二等及三等船客全員ノ旅券、若シ船客カ旅券ヲ携帶セサルトキハ出生證明書、身分證明書、職業證明書、亞爾然丁國領事證明書、又旅券制度ナキ國ヨリ出發セル移民ニ對シテハ本人ニ相違ナキコトヲ證明スルニ足ル其他ノ證明書類、但シ前記旅券及書類ニテ其社會上ノ境遇又ハ閱歴ニ嫌疑アルカ又ハ嫌疑ヲ起サシムル船客及移民ニ屬スルモノハ之ヲ抑留シ、其ノ他ノモノハ之ヲ同船長ニ還附ス

七、文書ニ認メ船客ノ自署セル抗議書又ハ供述書、其他船内臨檢ノ結果ニ關聯スル一切ノ書類

第六條

臨檢ノ結果該船舶カ善良ナル衛生状態ニ在ルヲ認ムルトキハ臨檢調書ヲ作成シ是ニ臨檢團員三名及船長連署スヘシ、移民ノ手荷物ハ之ヲ隔離シ後左ニ掲クル順番ニ從ヒ上陸ヲナサシムヘシ

一、一等船客全部及移民法ノ特典ヲ放棄シタル二等及三等船客、此場合ニ於テ上陸ノ爲本人ノ擇フ船舟ヲ順次船側ニ横附スルコトヲ許ス

二、官費上陸ヲ希望セル二等及三等船客、此場合ニ於テ、船客ハ臨檢官ノ交付スル移民局ノ捺印アル番號上陸切符ノ外何物ヲモ要セス、該番號上陸切符ハ上陸ノ際上陸取扱人ニ渡スヘシ上陸取扱人ハ波止場ニ於テ之ヲ移民收容所ノ吏員ニ渡シ領收書ヲ取ルヘシ、該領收書ハ之ヲ直接移民局ニ提出シ上陸計算書ノ證據書類トナスモノトス

第七條

移民法第三十二條規定ノ條件ニ該當スル二等及三等船客ハ凡テ上陸ヲ禁止シテ船内ニ留置スヘシ、當該船長ハ(此ノ行爲ニ對シ若罰金ヲ科セラルヘキ場合ニハ)其ノ罰金及費用(移民法第三十五條)竝該船客送還保證金ヲ納付シタル上尙之ヲ送還スルノ義務ヲ有ス、此ノ場合ニ於テ臨檢官

ハ該被送還者カ船内ニ現在セルコトヲ確ムル爲違反船出帆前再ヒ之カ臨檢ヲ行フヘシ、若被送還人カ現在セサルトキハ其保證金ヲ沒收シ、且其事情ヲ上局ニ報告スヘシ

第八條

移民法第二十八條及第二十九條ニ規定セル場合ニ於テ上陸ニ關スル事項ハ凡テ衛生官憲ノ指揮ニ從フヘシ

第九條

移民カ上陸ノ爲小蒸汽船ニ移乗セル時ハ上陸監督官ハ小蒸汽ノ艇長ニ對シ別ニ移民局ノ定ムル様式ニ依リ移民收容所長 (la Gerencia del Hotel) ニ提出スヘキ「上陸公認證」(Papeleta de desembarco official) ト稱スル一葉ノ傳票ヲ交付ス該傳票ニハ全額拂及半額拂ノ各上陸者ノ員數及其手荷物ノ個數ヲ明記ス
該公認證ハ監督官ノ署名ヲ經タル後上陸切符ト共ニ上陸場ニ於テ移民ノ接受、荷物ノ通關及其他收容所輸送事務ニ執掌スル官吏ニ渡スモノトス、此證書ノ交府ニヨリ監督官ノ任務ハ全部終了セルモノトス

第十條

左記事務終了迄ハ親族關係者ト雖移民及其荷物ニ接觸スルコトヲ嚴禁ス、官費上陸移民ノ場合ニ於テハ移民及荷物カ移民收容所ニ收容セララル迄、又自費上陸移民ノ場合ニ於テハ其所屬荷物カ波止場ニ揚ケラレ税關官吏ノ検査終了スル迄、本條ノ場合ニ於テ上陸場監視官ハ港務署(水上警察)ニ向テ必要ナル人員ノ援助ヲ請求スルコトヲ得

第十一條

監督官ハ移民局ノ定ムル様式ニ據リ其臨檢當日又ハ其ノ翌日中ニ一船毎ニ之カ臨檢報告ヲ調製シ該報告書ニハ臨檢中船内ニテ受理セル一切ノ關係證書及書類ヲ添附シ、(竝臨檢中ニ發生セル事件ト前記證書類ニ關係ヲ有スル航海中ノ事故ノ始末書ヲモ含ミ) 上局ニ提出シ其裁可ヲ受クヘシ、移民法第三十條ノ場合ニハ右ノ外臨檢報告書ヲ港務署長宛ニ提出スヘシ

第十二條

移民法第三條第十四ニ規定スル「移民登録簿」ト稱スル簿冊ニ移民ノ身分事項ノ記入ヲ了シタルトキハ移民局ハ各移民ニ對シ其ノ抑留シ置キタル旅券及其ノ他ノ關係書類ニ受理ノ日附及登録番號ヲ記入シ之ヲ還附スヘシ、但シ移民中亞國ニ定住セサルヘシト思量セラルル者又ハ本法ノ附與スル特典ヲ利用シ亞爾然丁國政府ノ費用ヲ以テ河東共和國(譯註、「ウルグアイ」共和國) 伯刺西爾及

「パラグアイ」等ノ隣接諸國へ轉航スル嫌疑アル者ノ旅券及其ノ他ノ書類ハ必要ト認ムル期間之カ返附ヲ見合スコトヲ得、移民局ハ本人ノ請求アル場合ニ其旅券及其ノ他ノ書類ヲ保管スルコトヲ得、此ノ場合ニハ其ノ事實ヲ該登録簿ニ明記スルヲ要ス

第十三條

移民輸送船ノ船長又ハ衆組員ニシテ移民法ノ意義及目的ヲ曲解セシメント試ミタル者又ハ移民ノ身分前科ヲ隱蔽スル等移民法第三十二條ノ規定ニ違反セントスル者又ハ移民ヲシテ官費上陸ニ關シ虚偽ノ報知ヲ以テ不信ノ念ヲ起サシメ或ハ誤謬ニ陥ラシメ移民法第三十三條ノ規定ニヨル船上在留期間ノ義務ヲ免レシメントシタル者ハ是ニ由リ第三者ノ蒙リタル損害ニ對スル賠償ノ責アル外證據人三名ノ供述ヲ取り金貨五百「ペソ」ノ罰金ニ處ス

第十四條

本細則ノ一般規定ニ違反スル者又ハ其ノ施行ノ爲定メラレタル秩序及制度ヲ紊亂スル者ハ前號規定ノ場合ヲ除キ左記各項ニ據リ之ヲ處罰ス
違反行爲カ臨檢ヲ受ケタル船舶ノ船長又ハ船員若ハ乗組員ニ在ルトキハ事件ノ輕重ニ依リ金貨五十「ペソ」以上百「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス

違反行爲カ港内ヲ往來スル船舶ノ船長又ハ其乗組員ニ在ルトキハ事件ノ輕重ニ依リ金貨二十「ペソ」以上五十「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス

違反行爲カ船客又ハ其ノ他ノ個人ニ在ルトキハ金貨十「ペソ」以上二十「ペソ」以下ノ罰金ニ處ス、罰金納付ニ充ツヘキ代價物ヲ三等ニ分ツ、第一項ノ場合ニハ船體及船具、第二項ノ場合ニハ持主ノ船舶第三項ノ場合ニハ該罰金額ニ略ホ相當スル違反者ノ手荷物又ハ裝身具トス、違反行爲カ船内ニ於テ發シ、第二項又ハ第三項ノ場合ニ該當シ、且該違反者カ貧困ニシテ罰金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ十日以上十五日以下ノ監禁ニ處ス此ノ場合ニ於テハ監督官ハ其ノ刑罰ヲ科スヘク港口警備艦ヲ以テ監獄ニ充テ體役ニ服スル義務ヲ負ハシム

第十五條

移民局ハ移民法第五十五條第三項ノ實施上、移民法及本細則ノ規定ニ依リ科セラルヘキ罰金ヲ調査シ裁決シ、適用シ及之ヲ徵收スルノ權ヲ有シ尙會計法第八條ノ規定ニ準シ其收支計算ノ證明ヲナスヘシ

第十六條

移民局カ他ノ官憲ノ援助ヲ要スル場合ニハ之ヲ請求スルコトニ依リ何等ノ手續ヲ要セス港務署、

(ハ) 移民法第三十二條規定ノ傳染病ニ關スル令(千九百十三年十月二日十八日副大統領令)

移民法第三十二條ニハ移民間ニ傳染病現在スル爲同法第三十五條規定ノ罰金ヲ科セラルル外商移民ノ上陸拒絶及送還ヲ見ルニ至ルヘキ傳染病ヲ列記セサル爲其ノ適用上困難ヲ生スルコトアルニ鑑ミ

且該規定ハ各國皆患者ノ隔離ヲ必要トスル危險ナル傳染病ニ罹リタル移民ヲ拒絶スル上ニハ不便ヲ生セスト雖、其ノ症候カ漸進的ニシテ即時的危險ナキモ、而モ傳染性ノモノナル場合ニ於テ解釋區々ナリシコト

及此ノ點ニ就キ衛生局及醫科大學ノ意見ヲ徵シタルニ兩者共ニ結核性病、癩病及「トラホーム」ハ容易ニ傳播シ、人類ノ保健ニ甚シキ危害ヲ與フルモノナルコトヲ聲明シ且前記諸病ニ罹リタル移民ノ入國ヲ防止スル爲嚴密ナル方法ヲ採用スヘキ旨ヲ建白シタルヲ考量シテ亞爾然丁共和國副大統領ハ左ノ如ク布告ス

第一條

移民法第三十二條ノ規定ニ依リ結核性病、癩病又ハ「トラホーム」ニ罹リタル症候ヲ現ハセル凡テ

ノ移民ノ上陸ハ之ヲ嚴禁ス、移民局(ラ・ディレクミイオン、ヘネラル・デ・インミグラスイオン)ハ本規定ヲ嚴守シ是等患者ヲ輸送シ來リシ船長ニ對シ同法第三十五條規定ノ罰金ヲ納付セシメタル後、船長ノ自費ヲ以テ前記移民ヲ出發港ニ送還セシムヘシ

第二條

移民局ハ本令ヲ移民輸送船ノ凡テノ代理人ニ通報スヘシ

第三條

本令ハ之ヲ達示シ公布シ且國事登錄簿ニ挿入スヘシ

千九百十三年十月二十八日、「ブエノス・アイレス」ニ於テ

サ(副大統領)

アドルフォ・ムヒカ(内務長官)

(三) 移民法第三十二條ニ關スル細則 (千九百十六年四月二十六日大統領令)

移民法第三十二條ニハ移民輸送船ノ船長ニ對シ傳染病患者、又ハ勞働ニ從事スルヲ得サル不具者
精神病者、乞食、囚徒又ハ裁判中ノ刑事被告人、家長ニ非サル年齡六十歲以上ノ者ヲ共和國ニ輸
送スルヲ禁止セルニ鑑ミ

且前述ノ規定ヲ裁可スルニ當リ立法者ノ目的トセル所ハ共和國憲法第二十五條ニ合致シ肉體的及
精神的ニ健全ニシテ且勞働ニ耐ヘ得ル人種ヲ形成スルニ努ムルノ最モ適當ナルヲ剴切ニ感シ國家
將來ノ爲之ニ適合スル是等規定ヲ完全ニ留意シ且施行スルニ在ルコト

及今日ニ至ル迄前記ノ合法的規定ハ千九百十三年十月二十八日附副大統領令ノ規定セル傳染病ニ
關スルモノヲ除キ未タ正當ノ形式ヲ具ヘタル細則ヲ有セサルニ依リ移民法ノ命スル所ヲ嚴密ニ實
施スル爲完全ナル細則ヲ制定スルハ詢ニ必要ニシテ時宜ニ適シ且緊急ナルコト

及移民本人ニ相違ナキコトヲ立證スル爲移民上陸細則第五條第六ニ從ヒテ二等及三等船客ヨリ提
出セシムル旅券及書類ハ經驗ニ徴スルニ往々本人ニ非サル者カ代用スルアリテ不充分ナルニ依リ
移民ノ同一人タルコトヲ確實ニ立證スルニ足ル他ノ手續ヲ制定スルノ適當ナルヲ考量シ

亞爾然丁共和國大統領ハ左ノ如ク布告ス

第一條

(移民法第三十二條中) 法文ノ意義ハ左ノ如ク解ス

イ、勞働ニ堪ヘサル不具者トハ

盲者、聾啞者、肢體不隨者、兩腕若ハ右腕ノ用ヲ爲ササル者、兩脚共用ヲ爲ササル者、其ノ
他故障又ハ缺陷ノ爲勞働能力ヲ缺ケル者ヲ云フ

ロ、精神病者トハ

白痴、精神虛弱者、癲癩病者及有ラユル狀態ノ精神喪失者ヲ云フ

ハ、乞食トハ

其ノ生國ニ於テ乞食ヲナシタル者、十歲以上ノ小兒ヲ帶同スル獨身ノ婦女子、「ジブシー」人
及其ノ他公共慈善ノ保護ヲ享クルニ至ルヘシト推定セララルル者ヲ云フ

第二條

移民ハ上陸港ニ到着スルトキハ出發國司法官憲ノ發給シ且亞爾然丁共和國領事官カ無手数料ニテ
査證セル證明書ヲ移民局(ディレクスイオン、ヘネラル、デ、インミグライスイオン)ノ吏員ニ提出スヘシ

該證明書ニハ其ノ到著前十年以内ニ社會ノ秩序ヲ紊ス罪ヲ犯シ又ハ不名譽ナル刑罰ニ値スヘキ罪ノ爲裁判ニ付セラレタルコトナク又ハ精神喪失病ニ罹リタルコト又ハ乞食ヲ爲シタルコトナキ旨ヲ記載スルヲ要ス

第三條

旅券ニハ移民ノ寫眞ヲ貼付シ且其ノ發給官憲又ハ亞爾然丁共和國領事館ノ印章ノ割印アルヲ要ス

第四條

前記證書類ヲ携帶セサル移民ハ之ヲ移民法第三十二條ノ規定ニ包含セル者ト看做スヘク從テ之ヲ其ノ出發港ニ送還シ且其ノ船長ハ同法第三十五條ニ依リ規定ノ罰金ヲ課セラル

第五條

本令ノ規定ハ公布ノ日ヨリ六月後之ヲ實施ス

第六條

本令ハ之ヲ達示シ公布シ且國事登錄簿ニ挿入スヘシ

千九百十六年四月二十六日「ブエノス、アイレス」ニ於テ

プ
ラ
サ(大統領)
オラシオ、カルデロン(内務長官)

(註)一、本令(ハ)項中「十歳以下ノ幼兒ヲ帶同セル獨身ノ婦女子」ノ入國ニ關シ疑義生シタルニ付千九百二十一年三月三十一日附ヲ以テ在「ブエノス、アイレス」市大阪商船會社代表員加藤實氏カ移民局ニ對シ之ヲ質シタルニ移民局ハ同四月五日附ヲ以テ左記ノ通り回答セリ

一、夫ノ同伴ナク十歳以下ノ幼兒ヲ携ヘ旅行スル孤獨婦人カ亞爾然丁共和國ニ上陸セントスルニハ豫メ當移民局ノ下附セル許可書ヲ携帶シ來ルヲ要ス、此ノ許可書ハ共和國ニ在留スル其夫ヨリ書面ニテ豫メ其下附ヲ當局ニ請求スルヲ要ス
二、寡婦又ハ未婚者ニシテ十歳以下ノ幼兒ヲ携ヘ來ラントスル場合ニハ前項ノ許可書ハ亞國民法ノ規定ニ從ヒ其幼者ニ對シ扶養ノ義務アル共和國在留親族之ヲ請求スヘシ

(註)二、亞國在留民ノ呼寄ニ係ル孤獨妻女ノ渡航ニ關スル件

當國在留民戸田勤ナル者曩ニ在「ブエノス、アイレス」帝國領事ヨリ妻呼寄證明書ヲ得之ヲ日本ニ送リタル處日本ニアル妻女ハ其筋ヨリ旅券ノ下附ヲ受ケ之ニ橫濱亞國領事ノ査證ヲ得ン爲メ同領事ニ其旨願出テタルニ同領事ニ於テハ孤獨婦人旅行ハ在「ブエノス、アイレス」市移民局ノ特別許可ナクテハ是ニ査證ヲ與フルコトヲ得ストテ査證ヲ拒ミタル趣ナルヲ以テ在「ブエノス、アイレス」副領事ハ大正十年六月七日附ヲ以テ亞國移民局長ニ宛テ右ノ趣照會セルニ同局長ハ同九日附ヲ以テ渡航孤獨婦人ニシテ規定ノ書類ヲ携帶シ十歳以下ノ幼兒ヲ伴ヒ來ラサル者ニ對シテ入國ヲ拒ムヘキ理由ナシ從テ本件ニ對シ特ニ本局ノ許可ヲ發スルノ必要ナシト回答シ越セケ

(荒井通譯官記)

及精神喪失病ニ罹リタルコトナク又ハ乞食ヲナシタルコトナキ旨ノ證明書ハ移民出發地ノ市町村役場又ハ警察官憲之ヲ發給シ得ルモノナルヲ考量シ
亞爾然丁共和國大統領ハ左ノ如ク布告ス

第一條

司法又ハ警察官憲ノ證明書ハ移民カ其ノ到着前五年ノ期間ニ於テ社會ノ秩序ヲ紊セル罪ヲ犯シ又ハ不名譽ナル刑罰ニ値スヘキ犯罪ノ爲裁判ニ付セラレシコトナキコトヲ證明スル爲發給スルモノトス

第二條

精神喪失病ニ罹リタルコトナク又ハ乞食ヲナシタルコトナキ旨ヲ證明スル爲移民ハ其ノ出發國ノ市町村役場又ハ警察官憲ノ發給セル證明書ヲ提出スルヲ得ヘシ

第三條

本令ノ規定ハ公布ノ日ヨリ四月後之ヲ實施ス

第四條

本令ハ之ヲ達示シ公布シ且國事登錄簿ニ挿入スヘシ

千九百十六年十月三日「ブエノス、アイレス」ニ於テ

プ
ラ
サ(大統領)
オラシオ、カルデロン(内務長官)

共
同
大
統
領
ハ
左
ノ
如
ク
布
告
ス
本
令
ハ
之
ヲ
達
示
シ
公
布
シ
且
國
事
登
録
簿
ニ
挿
入
ス
ヘ
シ

（一） 移民申請書ニ於テハ、持指乘機卷ニ關スル大統領令

(へ) 河川通航汽船ニ於ケル特許乗船券ニ關スル大統領令

(千八百八十一年六月十七日)
大統領令

政府カ「郵船特權」付與ニ對シ河川通航汽船ニ於テ處理スル乗船券ヲ一層有利ナラシメ現今ノ發行形式ヨリ起ル濫用ヲ除キ移民ノ内地輸送ニ投スル國費ヲ大ニ節約スルコト適當ナルニ鑑ミ
共和國大統領ハ左ノ令ヲ裁可シ之ヲ布告ス

第一條

從來政府カ郵便汽船ニ於テ無料使用シ得タル「ケビン」船客乗船券二枚、「プロウ」船客乗船券二枚ナリシヲ改正シ本令發布ノ日以後汽船會社ハ當該航路ノ最終港迄ノ往航及復航共ニ使用スヘキ「ケビン」船客乗船券一枚及往航ニ限り使用スル「プロウ」船客乗船券八枚ヲ供與スルノ義務ヲ有スルモノトス但シ「モンテヴィデオ」及「ブエノス、アイレス」間ノ航路ハ之ヲ除外シ該航路ニ於テハ往航及復航ニ使用スヘキ「ケビン」船客乗船券一枚ノ外「モンテヴィデオ」ヨリ「ブエノス、アイレス」ニ至ル迄ノ「プロウ」船客乗船券八枚ヲ供與スヘシ

第二條

「プロウ」船客乗船券ハ專ラ移民ノ誘入及内地移送ニ充ツルモノトシ移民局(ラ・コミサリア・ヘネラル・デ・インミグラスイオン)之ヲ發給ス、該乗船券ハ如何ナル理由ヲ以テスルヲ問ハス之ヲ一等乗船券ト交換シ又ハ他ノ各港ヨリノ復航乗船券ト引換フルヲ得サルモノトス

第三條

「ケビン」船客乗船券ハ各船ニ於テ郵便物ノ輸送ヲ擔任スル郵便局長ノ用ニノミ之ヲ充當シ同目的ノ爲中央郵便電信局ヨリ直接發給セラルルモノトス

第四條

郵便船ノ代理店ハ前記諸條ノ規定ニ從ハスシテ發給セラレタル特許乗船券ニ關スル凡テノ指令ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシ

第五條

本令ヲ達示シ公布シ且國事登錄簿ニ記入スヘシ

千八百八十一年六月十七日「ブエノス、アイレス」ニ於テ

千八百八十一年六月十日...

ロ
カ
アー・デル・ヴィン

セ〇

本令は...

第三條

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

(下) 岬角内方ノ外國諸港ヨリ來ル船舶ニシテ旅

客及移民ヲ輸送スルモノハ其ノ外方ヨリ來

ル船舶ト同一條件ノ下ニ置カルモノタルコ

トヲ規定スル大統領令

(千八百八十七年十一月三十日)
大統領令

當共和國ノ入國移民數及出國移民數ノ差カ亞國ノ利益タルヘキ結果ヲ見ルニ至ラン爲正確ナル數
字ニ基キ其ノ統計ヲ作成スル必要アルコト、成ル可ク凡テノ便益ヲ供シテ入國移民ノ上陸ヲ取締
リ又現行ノ防疫及假檢疫ノ方法ヲ考察スルノ適當ナルコトヲ慮リ移民局長ノ建議及入國移民中央
局ノ意見ニ徴シ

大統領ハ左ノ如ク布告ス

第一條

岬角内方ナル外國諸港ヨリ來ル船舶ニシテ船客及入國移民ヲ輸送スルモノハ千八百七十六年十月
十九日附法律(移民法)及同上陸細則施行上岬角外方ヨリ來ルモノト同一條件ノ下ニ置カルモノ

トス日附若者(第百五)及同上(第百六)ノ類ニシテ
移民總務局ノ定メタル様式ニ從ヒ統計的ニ作成セラレタル船客及入國移民名簿ハ當該出發港駐在
領事(譯註、亞爾然丁共和國領事)ノ查證ヲ受クヘシ

汽船ノ船長又ハ帆船ノ船頭ニシテ國外ニ旅客ヲ輸送スル者ハ全旅客ノ類別名簿三通ヲ作成シテ之
ヲ海事局ニ提出スヘク其ノ一通ハ之ヲ移民總務局用他ノ一通ハ之ヲ海事局用トシ殘餘ノ一通ハ
「使用濟」(Quintido)ナル記入ヲ行ヒタル後之ヲ其ノ輸送船ニ交付スルモノトス

移民總務局ハ一ノ登錄簿ヲ備附ケ國外ニ出ツル旅客ヲ之ニ記入シ且曩ニ移民タル分限ニテ共和國
ニ入國シタル者カ同一ノ分限ニテ又ハ普通ノ旅客トシテ出國スルカヲ區別シテ記入シ依テ以テ每
月、毎六月又ハ毎年出國移民動態ニ關スル實數ヲ正確ニ算定シ現ニ同局ニ於テ其ノ統計ヲ作成セ
ル入國移民動態ト比較スルコトヲ得セシムヘシ

共和國ヲ一時退去セル入國移民ハ單獨ニテ出發シ其ノ家族ト共ニ歸還スル場合ニ限り移民法ニ依
リ許與セララル特典ヲ再ヒ享受スルコトヲ得ヘシ

移民ノ上陸ニ從事スル船舶ハ孰レモ檢疫中ノ移民及其ノ手荷物ヲ假檢疫ノ爲ニ指定セラレタル隔
離所ニ輸送スルヲ得ス

假檢疫ノ方法定メラレタルトキハ主務省ハ衛生評議會ノ指定スル地點ニ於ケル移民及旅客ノ上陸
カ檢疫所吏員及移民總務局ニ屬セサル船舶ニ依リ行ハルルヤウ適當ナル處置ヲ爲スヘシ

臨檢及上陸ニ關スル凡テノ作業ハ千八百八十年三月四日附細則ヲ嚴守シテ之ヲ實行スヘク同細則
ニ違背スル規定ハ凡テ之ヲ廢止ス

之ヲ達示シ公布シ且國事登錄簿ニ記入スヘシ

千八百八十一年十一月二十日

七三

第五條

第四條

第三條

第六條

第七條

第八條

第九條

(リ) 船員上陸取締令 (千九百二十一年六月九日) 大統領令

第一條

凡テ海員名簿ニ登録シアル水夫又ハ乗組員ハ亞國領事ノ下附スル鑑識證ノ外、寫眞ヲ貼付セル旅券船員手帖及本國ノ司法又ハ警察官憲ノ發給セル證明書ニシテ本人ハ是迄社會ノ秩序ヲ紊ス罪又ハ破廉耻罪ニ因リ司法處分ヲ受ケタルコトナキコトヲ記錄セルモノ竝警察署又ハ市町村役場ノ發給セル證明書ニシテ曾テ發狂シ又ハ乞食ヲナシタルコトナキコトヲ記錄セルモノヲ攜帶スヘシ(千九百十六年四月二十六日附大統領令參照)

第二條

亞國領事官ハ海員名簿ト共ニ乗組員各個人ノ攜帶スヘキ書類ヲ檢查シ水夫又ハ乗組員各個人ニ對シ右鑑識證ヲ下附スヘシ右鑑識證ニハ其ノ提示セル書類ノ目錄ヲ記入スヘシ海員名簿ニ記載シアル一人又ハ數人ノ海員カ規定ノ書類ヲ所持セサルトキハ領事ハ海員名簿ニ對シ查證ヲ拒ミ且鑑識證ヲ下附スヘカラス

第三條

第四條

共和國ノ海港又ハ河港ニ入航スル船舶ノ船長ハ其ノ船舶乗組員各個人ノ攜帶スヘキ規定ノ書類竝領事ノ發給セル鑑識證ヲ保管スヘシ

第五條

船舶カ亞國領水ニ在ル間、船長又ハ其ノ代理者ハ乗組員ニシテ其ノ承認ナク下船シタル者アルトキハ二十四時間内ニ當該管海官廳ニ通告シ且右ニ屬スル書類ノ引渡ヲナスヘシ此ノ場合ニ於テ船長ハ此等脱船者ヲ本國ニ送還シ又右ニ對シ別ニ定ムル保證金ヲ納ムルノ義務ヲ有ス

第六條

病氣ノ爲一時的ニ契約破棄又ハ契約期限滿了ノ爲決定的ニ乗組員ヲ下船セシムルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ直ニ之ヲ管海官廳ニ通告ス管海官廳ハ更ニ之ヲ移民局ニ移課ス移民局ハ之ニ對シ適宜ノ措置ヲ執ルヘシ此ノ場合ニ於テモ船長又ハ其ノ代理者ハ下船水夫又ハ乗組員ニ屬スル一切ノ書類ヲ該官廳ニ引渡スヘシ

第七條

船ノ出港ニ際シ海員名簿ノ查證ヲナス管海官廳ハ海員ノ缺漏セル者アルコトヲ發見シタルトキハ

直ニ之ヲ移民局ニ通告シ其ノ解決ヲ見ル迄ハ該船舶ヲ抑留スヘシ

第八條

法律第八百十七號(移民法)及千八百八十年三月四日竝千九百十六年四月二十六日附大統領令ノ規定スル條件ヲ備ヘサル水夫又ハ乗組員ノ下船ヲ請求シ又ハ脱船者ノアリタルコトヲ届出テサル船長ハ移民法第三十五條及上陸細則第七條及第十三條ノ規定ニ從ヒ罰金ニ處スヘシ

第九條

現行法規ニ違反シテ共和國ニ來ル水夫又ハ乗組員ニシテ亞國港ニ上陸セントスル者ハ上陸ヲ拒絕セラレタル船客ト看做シ之ヲ船内ニ抑留シ船長ハ法律第八百十七號(移民法)第三十二條ノ規定ニ從ヒ其ノ費用ニテ之ヲ送還シ且同第三十五條ノ規定スル罰金ニ處シ尙上陸細則第七條ノ規定ニ從ヒ保證金ヲ納ムヘシ

第十條

本令適用ノ場合ニ關スル移民局ノ措置ニ付テハ千八百八十年三月四日附上陸細則第十七條ノ規定スル形式ニ依リ之ヲ農務省ニ訴へ出ツルコトヲ得

第十一條

移民局ハ本令ヲ各船會社ニ通牒スヘシ、本令ハ其ノ公布後四十日ヲ經過シタル後ニ於テ效力ヲ生ス

第十二條

本令ハ之ヲ關係官廳ニ通知シ官報ニ掲載シ且之ヲ共和國ノ記録ニ附スヘシ

- 大 統 領 イリゴージェン
- 農 務 大 臣 アルフレッド・デ・マルキ
- 外 務 大 臣 アツチ・ポエレドン
- 内 務 大 臣 エン・ゴメス
- 文部司法大臣 ホタ・エセ・サリナス
- 土 木 大 臣 ペー・トレーヨ
- 陸 軍 大 臣 ホタ・モレーノ
- 大 藏 大 臣 ヂ・エ・サラベリー
- 海 軍 大 臣 テ・スルエタ

(譯註) 本令ハ差當リ千九百二十二年二月一日以降日本ヨリ出發スル日本船舶ニ對シテ之ヲ適用スルコトトナリ居レリ(大

前見船員上陸取締令ハ發布後未タ實施ニ到ラサルノ状態ニアル處亞國政府ハ千九百二十一年八月
 二日附大統領令ヲ以テ凡ソ外國人ニシテ亞爾然丁國ニ渡來セントスル者ハ千九百十六年四月二十
 六日附大統領令第二條及同第三條規定書類ノ外別ニ亞國領事ニ於テ當該關係者ノ提示書類ヲ檢閱
 シタル上是ニ對シテ發給セル鑑識證ヲ携帶シ來ルヲ要ス
 移民官ハ外國人カ亞國港ニ到著セル際一々該鑑識證ヲ納付セシメ且之ヲ分類保管スヘシ
 本令ハ發布ノ日ヨリ九十日ヲ經過シタル後ニ於テ效力ヲ生スト令セリ

(又) 亞國渡航者ハ亞國領事ノ發給セル鑑識證
必携ノ件

前見船員上陸取締令ハ發布後未タ實施ニ到ラサルノ状態ニアル處亞國政府ハ千九百二十一年八月
 二日附大統領令ヲ以テ凡ソ外國人ニシテ亞爾然丁國ニ渡來セントスル者ハ千九百十六年四月二十
 六日附大統領令第二條及同第三條規定書類ノ外別ニ亞國領事ニ於テ當該關係者ノ提示書類ヲ檢閱
 シタル上是ニ對シテ發給セル鑑識證ヲ携帶シ來ルヲ要ス
 移民官ハ外國人カ亞國港ニ到著セル際一々該鑑識證ヲ納付セシメ且之ヲ分類保管スヘシ
 本令ハ發布ノ日ヨリ九十日ヲ經過シタル後ニ於テ效力ヲ生スト令セリ

農用地一「ロット」ノ面積ハ百「ヘクタール」以下ニシテ、牧畜用地一「ロット」ハ二千五百「ヘクタール」以下トス、一個人又ハ一會社ニ對シ農用地二「ロット」及牧畜用地一「ロット」以上ノ特許ヲ與フルコトヲ得ス

前項規定ノ植民地以外ノ土地ハ之ヲ貸付ケ又ハ競賣ニ附ス、但シ一個年內ニ一千「キロメートル」ツク、リীগ「平方」以上ノ土地ヲ競賣ニ附スルコトヲ得ス

競賣ハ一「ヘクタール」最低價格金貨四十仙又ハ紙幣一「ペソ」ニテ拂込年限ハ年五分利附五個年賦以下ヲ基礎トシテ之ヲ行ヒ實際拂込ノ金額及期間ハ政府之ヲ定ム

一個人又ハ一會社カ直接土地ノ拂下ヲ受クル場合又ハ拂込未済ノ土地ノ讓渡ヲ受ケントスル場合ニハ宅地四軒分以上ヲ取得スルコトヲ得ス、又農用地及牧畜用地ハ前者二「ロット」後者一「ロット」計三「ロット」以上ヲ受クルコトヲ得ス、其ノ他如何ナル場合ニ於テモ一個人又ハ一會社ハ二萬「ヘクタール」以上ノ土地ノ拂下又ハ貸付ヲ受ケルコトヲ得ス

第三條

政府ハ植民ニシテ地價ノ六分ノ一ノ價額ヲ拂込ミ殘餘未済額ノ保證トシテ其土地ヲ擔保トシ且ツ

植民タルノ條件ヲ充シタル者ニ對シテ本地券ヲ與フルコトヲ得、地券ハ當該關係官廳ノ發給スル切符ヲ以テ是レニ充ツ（譯註 本條ハ千九百十二年十二月四日附大統領令ヲ以テ改正セラル後段同令參照）此ノ切符ハ之カ公正證書ト同一ノ效力ヲ有ス關係登記役場ハ是レカ登録ヲ受理スヘシ、農村又ハ植民地ノ地券及借地契約モ亦同一形式ニヨリ之ヲ發給ス

第四條

官有地ノ借主及購入者ハ政府ノ定ムル期間內ニ於テ是レニ動物ヲ放チ又造築ヲ爲スヲ要ス、此等ノ動物及造築ハ當該地一「キロメートル」リীগ「平方」ニ付紙貨五百「ペソ」以上ノ價値アルモノタルヲ要ス

第五條

宅地一軒分ノ最低價格ハ紙貨十「ペソ」トシ農園及果菜園ノ最低價格ハ一「ヘクタール」紙貨一「ペソ」五十仙トス孰レモ六年々賦トス

第六條

宅地ノ取得後一個年內ニ於テ之レニ圍ヲ附シ且ツ家屋一棟及附屬建物ヲ造築スルヲ要ス

農園及果菜園ノ特許人ハ特許ヲ受ケタル後二個年內ニ於テ之レニ家屋一棟ヲ造築シ且ツ政府カ各

植民地ニ對シ定ムル程度ノ土地ヲ耕スヲ要ス

第七條

政府ハ特ニ農業ニ適セサル土地ヲ牧畜用地トナス爲面積二千五百「ヘクタール」以内ノ「ロット」ヲ本法第二條規定ノ最低價格及拂込期間ヲ基礎トシテ直接拂下ヲナスコトヲ得、此ノ場合ニ於テ土地カ既設牧畜植民地内ニアルト否トヲ問ハス、又政府ハ凡テ賣レ殘リタル土地ニシテ既ニ拂下ケタル「ロット」全面積ノ十分ノ一ニ達セサル剩餘地ヲ直接拂下クルコトヲ得

第八條

政府ハ最初入植者(複數)ニ對シ農村又ハ農牧植民地ノ「ロット」總面積ノ五分ノ一以内ノ土地ヲ無代ニテ給與スルコトヲ得

第九條

借地人ニシテ借地契約條件ヲ滿了セル者ハ借地ノ二分ノ一以下ヲ本法規定ノ最低拂下價格タル基礎價格ニテ購入スルコトヲ得

第十條

官有地ノ借用契約者、宅地、農牧地ノ特許人又ハ土地拂下契約者ニシテ本法ノ規定スル義務及其

他政府カ定ムル義務ヲ果ササル者ニ對シ政府ハ當該契約無効ノ宣言ヲ爲スコトヲ得、此ノ場合ニ於テ既施設改良増設又ハ既納金額ハ國庫ノ有ニ歸ス

第十一條

競賣ニヨリ土地ヲ取得セル者ニシテ規定ノ入植義務ヲ果ササル者ハ是ニ對シ其義務ヲ果ササリシ期間中土地カ納付スヘキ直税ノ二倍ニ當ル金額ノ罰金ニ處ス

第十二條

既灌漑地又ハ溉灌ヲナシ得ヘキ土地及政府カ議會ノ協贊ヲ經テ農業植民地トシテ既ニ取得シ又將來取得セントスル土地ノ拂下値段ハ本法施行細則別ニ之ヲ定ム、但シ右ハ取得値段以下タルヲ得

第十三條

政府ハ其便宜ト思量スル方法ニヨリ各地方廳ノ請求ニ應シ其提供スル土地ノ植民事務ニ執掌スルコトヲ得

第十四條

公證人又ハ其他ノ官公吏ニシテ國有地ニ關スル公證事務ニ關係セル者ハ三個月以内ニ其取扱ヒタ

ル讓渡及關係事情ヲ土地植民局ニ報告スヘシ此ノ報告ヲ爲ササル者ハ其土地ニ對スル直稅ト同額ノ罰金ニ處ス

第十五條

島嶼ハ之ヲ貸付クルコトヲ得ト雖拂下クルコトヲ得ス、又鹽料、鑛物、石炭、石油、鑛水ノ存在地ハ之ヲ拂下クルコトヲ得ス、但シ特ニ鑛山法ノ規定スル場合ハ此ノ限りニアラス、政府ハ其探檢スル土地ニ於ケル鑛物發見届ヲ受理セサルコトヲ得

第十六條

官有地占有ノ事實ハ將來之ヲ取得スル上ニ優先權ヲ成スモノニアラス

第十七條

政府ハ宣教師團ヲ起シ又土地ト勞働材料ヲ供給シテ印度人ノ收容ヲ獎勵スヘシ

第十八條

特別森林法ノ公布セラルル迄政府ハ十個年ヲ限り一萬「ヘクタール」以内ノ森林地ニ對シ特許ヲナスコトヲ得、但シ特許料トシテ伐出材木輸出停車場又ハ輸出港ニ於ケル賣價ノ一割ヲ徵收ス、森林ノ存在スル土地ノ借地人ハ其圍及燃料ニ必要ナル木材ノ外之ヲ伐採スルコトヲ得ス、但シ借地

カ人森林伐採ノ特許ヲ得タル場合ハ此ノ限りニアラス、此ノ場合ニ於テ借地人ハ借料ノ外前項規定ノ特許料一割ヲ納付スルモノトス

森林伐採ノ特許ハ其ノ存在スル土地ノ借地人ノミ之ヲ受クルコトヲ得

森林伐採業ヲ主トスル特許地内ニ於テ農業又ハ牧畜業ヲ營マントスル場合ニハ其土地ノ貸付ハ森林伐採特許人ノミ之ヲ受クルコトヲ得

政府ハ其設立セントスル各村落區内ニ於テ其村落ノ需要ニ充ツル爲森林ノ伐採ヲ留保ス

第十九條

國領内ニ於ケル雜草刈出ノ特許ハ政府カ今後定ムル細則ニ據ル、但シ官有地ヨリ刈出ス雜草ハ每十基瓦ニ付紙貨五十仙、私有地ヨリノ分ハ同シク十基ニ付三十仙ノ検査料ヲ仕拂フヘシ

雜草地ノ探檢終了シ之ヲ「ロット」ニ區分シ且ツ植民ノ土着ニ適スル状態トナシタル後政府ハ是レカ拂下又ハ貸付ヲナスコトヲ得、雜草地貸付ノ場合ニ於テ借地人ハ雜草ハ勿論借地内ニ存在スル森林ヲ伐採スルコトヲ得

第二十條

各縣内及聯邦領内ニ位スル農業地ニシテ亞國銀行カ債務者ヨリ仕拂ノ方ニ取りタルモノハ本法實

施後農商務省ノ管理ニ歸屬ス、農商務省ハ本法規定ノ目的ニ從ヒ之ヲ調査區分スルモノトス
第二十一條

本法公布以前ノ施行ニ係ル土地、森林及雜草地ニ關スル一切ノ法律ハ本法施行後之ヲ廢止シ單ニ手續ニ關スル事件ノ解決ニ對シテノミ之ヲ適用ス、但シ千八百七十六年十月十九日施行移植民法中外來移民ニ關スル規定ハ此ノ限りニアラス

本法公布以前ノ施行ニ係ル土地、森林及雜草地ニ關スル一切ノ法律ハ本法施行後之ヲ廢止シ單ニ手續ニ關スル事件ノ解決ニ對シテノミ之ヲ適用ス、但シ千八百七十六年十月十九日施行移植民法中外來移民ニ關スル規定ハ此ノ限りニアラス

四、土地法施行細則 (千九百〇六年十一月八日 大統 領 令)

(現 行 法)

第一條

千九百〇五年一月十日附土地法施行細則ヲ廢止ス、但シ右ハ本細則施行前ニ於テ同細則ニ據リ行ヒタル拂下又ハ貸付ニ對シテノミ效力ヲ有ス

第二條

千九百〇三年一月八日附法律第四百六十七號土地法ノ規定ニ據リ豫メ探檢ヲ了セス又何等規定ノ形式ニ據ラサル官有地ノ讓渡、特許又ハ貸付ハ今後之ヲ禁止ス

第三條

牧畜用地ニシテ農村又ハ農業植民地トナスニ適セサルモノハ豫メ之ヲ測量スルヲ要セス單ニ探檢及假區劃ヲナスヲ以テ足ル、但シ此等探檢及假區劃ハ後日更ニ行フ測量及區劃ヲ以テ之ヲ訂正ス農村又ハ農業植民地ハ豫メ此カ測量及區劃ヲ爲スニ非ラサレハ其ノ「ロット」ノ下附ヲ爲スコトヲ得ス

第四條

各種「ロット」ノ下附ハ左記各條ノ定ムル形式ニ據リ之ヲ行フ

第一章 農村及農業植民地

第五條

探檢ヲ了シタル地域内ニ於テ農業ニ適スル土地ヲ選ミテ是レニ農業植民地ヲ設立セントスル場合ニハ其區劃ハ土地ノ状態及地勢ニ鑑ミテ之ヲナスヘシ此ノ地勢ノ關係ハ當局カ區劃ニ從事スル技師又ハ測量師ニ對シ命令ヲ發スルニ當リ特ニ注意ヲ要スヘキ事項トス

第六條

此等植民地内ノ人家區域ハ之ヲ「ブロック」ニ區分シ「ブロック」ハ更ニ之ヲ宅地ニ小分ス宅地ノ面積ハ間口五十米突奥行五十米突以下トス、農用地域ハ菜園及「ロット」ヨリナル、菜園ハ一萬平方米突以上ニシテ「ロット」ハ百「ヘクタール」以内トス

第七條

植民地ノ測量及區分カ上局ノ承認ヲ得タル時ハ各「ロット」ニ番號ヲ附シタル植民地ノ地圖ヲ發行

シ又植民地ノ地理的位置、交通ノ便其他豫想產物等ニ關スル記事ヲ公ニスヘシ、其後九十日ヲ經過シタル時ハ左記ノ形式ニヨリ農地、菜園及宅地ニ對スル「ロット」ヲ賣リ出スヘシ、土地植民局ハ拂下期間トシテ定ムル二十日間ハ直接之レカ賣却ニ從事スヘシ、拂下ノ請求ハ電信又ハ書留郵便ヲ以テ土地植民局長ニ願出ツルコトヲ得、同一「ロット」ニ對シ數人ノ請求者アリタル時ハ土地植民局ハ請求者ニ關スル報告ヲ調査シ其最モ適當ト認ムル者ヲ政府ニ推薦スヘシ

第八條

政府ハ本細則第七條ノ規定スル期間内ニ於テ「ロット」ヲ購入スル者ヲ以テ土地法第八條規定ノ便益ヲ享受スルヲ得ル者ト看做スコトヲ得、但シ購入者ハ土地植民局ノ検査官吏カ其購入地ノ引渡ヲナス際ニ其土地ニ在ルカ又ハ同伴スルヲ要ス、土地引渡ノ際其場ニアラサル者ハ本條ノ便益ニ浴スルコトヲ得サルモノトス

第九條

前條規定ノ便益ハ當該植民地ノ全面積ノ五分ノ一以内ノ土地ヲ限り各自購入地ニ比例シテ之ヲ附與スルモノトス

第十條

土地植民局ハ購買人ニ對シ其所有タルヘキ土地ノ引渡ヲナス検査官吏ヲシテ該土地引渡ニ關スル調書ヲ作成シ且ツ是ニ特別注意事項ヲ記入シ該土地所有者ヲシテ署名セシムルモノトス

第十一條

農業植民地ニ於ケル農園菜園及宅地タルヘキ「ロット」ノ價格ハ土地法第五條ノ價格ヲ基礎トシテ政府之ヲ定メ六年賦拂トシテ第一回拂込ハ拂下ヲ受ケタル第一年度ノ終ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十二條

土地植民局長ハ其拂下タル「ロット」ノ購入者ニ對シ假拂下切符ヲ下附ス、假拂下切符ハ同局長是ニ署名シ且土地法及本細則ノ定ムル義務ヲ掲記スヘシ

第十三條

一個人又ハ一會社ハ他人ノ名義ヲ以テスルトモ農地ニ「ロット」菜園ニ「ロット」及宅地ニ「ロット」以上ヲ取得スルコトヲ得ス

第十四條

宅地ノ購入者ハ其取得後一年內ニ是ニ居住シ又圍ヲ附スルノ義務アリ、又菜園及農地ノ購入者ハ二個年內ニ於テ是レニ家屋一棟及附屬建物ヲ造築シ且ツ各植民地ニ付キ政府カ定ムル一定ノ面積

ヲ耕作スルヲ要ス

本條規定ノ期間ハ購買人カ土地ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條

農業植民地ニ於ケル土地ノ購入者ハ自ラ是ニ入植スルヲ要ス

土地ノ本所有券ヲ獲得セサル間ハ之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ス、但シ遺産相續ノ場合ハ此ノ限ニ非ス

第十六條

土地購入ニ伴フ義務ヲ全ク履行シ且ツ土地法ノ規定スル方法及期間內ニ於テ代價ノ全額ヲ拂込ミタル者ニ對シテハ土地法第二條規定ノ形式ニヨリ本地券ヲ交附ス、土地植民局ハ之ヲ記録ニ存ス

本地券ハ共和國大統領及農務大臣之ニ署名シ適當ノ機會ニ於テ之ヲ登記スヘシ、本地券ニハ購買人ノ署名ヲ要セス

第十七條

土地植民局ハ各農村又ハ植民地毎ニ本細則第十二條ノ假拂下切符ノ控ヲ保存スヘシ、拂下切符ノ控ニハ農村又ハ植民地ノ番號ニ準シ番號ヲ附スヘシ